

文部科学省

一次世代のがんプロフェッショナル養成プランナー

《京都大学拠点》

高度化・多様化するがん医療を担う人材育成
外部評価報告書(令和5-6年度)



京 都 大 学



三 重 大 学



滋 賀 医 科 大 学



大 阪 医 科 薬 科 大 学



京 都 薬 科 大 学

文部科学省

一次世代のがんプロフェッショナル養成プラン

《京都大学拠点》

《高度化・多様化するがん医療を担う人材育成》

外部評価報告書
(令和5-6年度)

京 都 大 学

三 重 大 学

滋 賀 医 科 大 学

大 阪 医 科 薬 科 大 学

京 都 薬 科 大 学

〈京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科薬科大学、京都薬科大学連携〉

次世代のがんプロフェッショナル養成プラン

「高度化・多様化するがん医療を担う人材育成」

事業推進責任者

京都大学大学院医学研究科 教授

武 藤 学



ごあいさつ

がん治療には、外科治療、放射線治療、薬物療法、がん免疫治療などがあり、これらを複合した様々な新しい集学的治療が開発されるとともに、診断時からの緩和医療などの充実が求められています。さらに、遺伝子解析技術の進歩により、Precision Oncologyの時代に突入しています。このようにがん医療が複雑化する一方、わが国では超高齢化に伴い高齢のがん患者だけではなく、様々な合併症を有するがん患者にどのように治療を提供すべきかという課題に直面しています。

一方、国民生活の視点からみると少子高齢化、人口減少、大都市集中の人口動態など社会構造の変化も大きく、医療従事者の数自体も減少することが予想され、高度化・多様化する医療のなかで、どのように適切な医療を提供するかを真剣に考える必要があります。さらに、わが国における社会基盤のデジタル化の遅れは深刻であり、ICTや遠隔医療などを活用した医療提供体制も早急に整備する必要があります。

本事業では、本拠点連携校が蓄積してきた教育、研究、診療に関わる人材、インフラ、そして海外の先進施設との連携を基礎に、新たに顕在化してきた課題に対して、がん領域のみならず、非がん領域の医療技術や最先端の異分野との学際的連携を進め、課題や社会のニーズに適切に対応し、高度化・多様化するがん医療を担う専門的医療人育成に取り組む所存です。

京都大学コーディネーター

大学院医学研究科 教授

溝 脇 尚 志

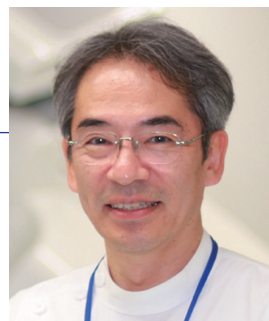


京都大学では、当拠点のテーマである「高度化・多様化するがん医療を担う人材育成」に従い、多職種かつ多様な人材育成を行う教育コースを設置いたしております。詳細な内容につきましては本冊子に記載のとおりですが、養成を目指す職種といたしましては、医師をはじめ、看護師、薬剤師、医学物理士、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、ビッグデータや人工知能を活用できるその他の医療職と多岐にわたっております。また、養成を目指す医師も、ゲノム医療・細胞治療等の精密医療に対応できる医師、がん免疫療法に精通する医師、高精度緩和治療やRI内容療法に精通する放射線治療医、病理診断医、遺伝性腫瘍に精通する医師、腫瘍腎臓病学や腫瘍循環器病学に精通する医師など、多様な人材育成を行う体制を整えました。各参加大学間の連携を密に図り、より良い人材育成を進めております。また、コロナ禍で中止を余儀なくされておりましたが、当拠点の大きな特色の一つでありました海外研修を再開し、令和6年度はソウル大学病院がんセンターに置きまして、充実した研修とシンポジウムを開催いたしました。

三重大学コーディネーター

大学院医学系研究科 教授

野 本 由 人



三重大学大学院医学系研究科では、当拠点のテーマに沿って、正規課程として腫瘍内科専門医、小児がん専門医、婦人科腫瘍専門医、放射線治療専門医、がん専門薬剤師、および、がん看護専門看護師の養成コースを設けました。これらの大学院コースでは、がん研究による学位の取得とともに、がん専門職の資格取得を目指した指導教育を行い、優れたリサーチマインドを持ち、高度化・多様化するがん医療を適切に実施できる専門的医療人の育成を進めていきます。また、インテンシブコースでは、ゲノム情報を活用したがん診療に従事する人材養成コースの他、緩和医療専門医・認定養成コースを開設しました。緩和医療専門医コース（2年）、および認定医コース（6ヶ月）では、所定の研修を経て専門医および認定医の取得を目指します。これらの教育課程による専門資格の取得とともに、様々な講演会・研修会の開催・共催を通じて、がん医療の現場における課題に対応できる専門人材を育成したいと考えています。

滋賀医科大学コーディネーター

臨床腫瘍学講座 教授

醍醐 弥太郎



滋賀医科大学大学院医学系研究科・医学専攻では、「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」において、15年間のがんプロフェッショナル養成事業の実績と最新の医療動向を踏まえ、複合的がん個別化医療開発、地域のがん放射線医療の推進、がんに関わる遺伝医療、薬剤学的な先制がん医療、がん局所環境に基づいた新規治療法開発等を担う医療人の養成を目指した5つの本科コースと1つのインテンシブコースを設けました。

本コースでは、最先端の基礎・臨床腫瘍学とその学際領域を教育するとともに、がん薬物療法、外科療法、放射線療法、緩和ケア、支持療法、ゲノム医療に関わるがんの基礎研究からトランスレーショナルリサーチにつながる研究手法の指導と医療開発の On the Job Training (OJT) を行い、標準治療から先進的医療、創薬研究までを推進して、社会の要請に応える包括的・全人的がん医療を指導的立場で実践できる専門医療人材を養成します。また、行政、地域医療機関や団体、国内外の卓越した大学院・研究機関・専門病院群との学際的ネットワークや本学の特色ある教育・研究基盤を活用し、地域と世界で活躍する人材を輩出して医療、福祉の発展への貢献を目指します。

大阪医科薬科大学コーディネーター

大学院医学研究科 腫瘍内科学 教授

藤阪 保仁



大阪医科薬科大学では、4期目に当たる「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」において、医学部・薬学部・看護学部の3学部が協働・連携することで、急速に進むがん医療の高度化に対応し、がん医療の新たなニーズを捉えた「誰一人取り残さないがん対策の実践と、ひとりひとりの Well-being を実現する」ことを可能とするがん専門医療人材・高度医療人材を育成することを目指します。

前3期の基盤の上に、本プラン実現のため、腫瘍内科学、放射線腫瘍学、病理学、麻酔科学、医療統計学、薬学、がん看護学、そしてがん関連学際領域として糖尿病学・循環器学が結集し、インテンシブコースを含め、新たに9つの大学院コースを開設しました。なかでも「データサイエンスに基づく誰一人取り残さないがん対策を実現するための人材育成コース」では、患者支援者、企業人、メディア関係者など、医療職に限らず多様な背景の方々へ広く学びの場を提供することで、効果的なプログラム作りに挑戦します。

3学部がそろそろ本学の強みを活かした医薬看融合教育プログラムを通じ、個別化治療の推進や苦痛への対応などによって長期生存時代を切り拓き、健康長寿や健康格差にも配慮した地域患者を支える高度がん医療専門人の養成を行います。

京都薬科大学コーディネーター

臨床薬剤疫学分野 教授

村 木 優 一



京都薬科大学では、薬学の未来を拓く“Science（科学）、Art（技術）、Humanity（人間性）のバランスのとれた薬剤師”の育成を目指した6年制薬学教育を推進するとともに、大学院博士課程では、医療現場、企業、行政といったあらゆる医療現場においてリーダーとなる博士号を有した薬剤師を育成することを目的に教育を進めています。

本学は、新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成インテンシブコース以外に、「がん患者のQOL向上および終末期医療を担う人材養成コース」と「近未来の医薬品・治療法の開発を担う人材養成コース」を開設しました。両コースとも、病院連携プログラムや地域在宅医療プログラムを受講してチーム医療を実践的に学ぶ機会を設けており、がん薬物療法の高度な専門知識と基礎的または臨床的薬学研究能力を有する、高度で先進的な医療を担う薬剤師や近未来の医療に対して指導的立場となる薬剤師の養成を目指します。さらに、創薬やビッグデータ分析など、本学の様々な研究室におけるスキルを横断的に学ぶ機会を提供し、これからのがん医療を担う臨床薬剤師や創薬研究者の養成を目指します。

文部科学省 次世代のがんプロフェッショナル養成プラン
高度化・多様化するがん医療を担う人材育成

「外部評価報告書(令和5-6年度)」

1. 外部評価実施方針について

- ・ 外部評価は、評価委員による書面評価とする。
- ・ 評価委員については、6名の委員を選任する。
- ・ 評価項目については、「申請書」(R5年4月提出)に記載した達成目標・評価指標の分析評価をするため、「事業評価ガイドライン」(H24.3.29 がんプロ養成推進委員会)を基本として評価指標の適切性や達成状況などの、事業の実施状況を把握するため独自の評価項目とする。

2. 評価項目について

「外部評価項目」 3 ～

3. 「高度化・多様化するがん医療を担う人材育成」について

「連携する大学」、「事業の概要」、「事業の運営体制」、
「事業の概念図」、「各大学の教育プログラム・コース」 5 ～

4. 「令和5-6年度 取組状況等」

「令和5-6年度 取組状況等」 8 ～

資料 1	「受入目標人数・受入実績・修了者数」(正規コース)	R5-6	33 ～
資料 1	「受入目標人数・受入実績・修了者数」(インテンシブコース)	R5-6	34 ～
資料 2	「資格取得者数一覧」	R5-6	35 ～
資料 3	「がんプロ履修生調査(要望・改善点)」	R5-6	36 ～
資料 4	「がんの特化した講座の設置状況」	R5-6	39 ～
資料 5	「セミナー・シンポジウム等の開催状況」	R6	40 ～
資料 5	「セミナー・シンポジウム等の開催状況」	R5	42 ～
資料 6	「インテンシブコース実施事業」	R5-6	44 ～
資料 7	「医療チームの整備体制」	R5-6	46 ～
資料 8	「がんセンターボードの体制」	R5-6	50 ～
資料 9	「プロトコル作成への関与状況」	R6	56 ～
資料 9	「プロトコル作成への関与状況」	R5	57 ～
資料 10	「国際学会・英文誌への発表一覧」	R6	58 ～
資料 10	「国際学会・英文誌への発表一覧」	R5	60 ～
資料 11	「国内学会・雑誌への発表一覧」	R6	62 ～
資料 11	「国内学会・雑誌への発表一覧」	R5	66 ～

資料 12	「海外学会・シンポジウム等参加状況」 R6	70 ～
資料 12	「海外学会・シンポジウム等参加状況」 R5	71 ～
資料 13	「国内学会・シンポジウム等参加状況」 R6	72 ～
資料 13	「国内学会・シンポジウム等参加状況」 R5	77 ～
資料 14	「5大学連携学生短期研修プログラム」 R6	80 ～
資料 15	「5大学連携海外合同教育セミナー」 R6	89 ～
資料 16	「5大学連携医療フォーラム」 R6	99 ～
資料 16	「5大学連携医療フォーラム」 R5	100 ～

5. 評価について

「評価結果表」	101 ～
「講 評」	

6. 外部評価委員について

川崎医科大学 総合医療センター	病院長・特任教授	猶本 良夫
大阪大学 医学系研究科 保健学専攻 看護実践開発科学講座	教授	荒尾 晴恵
大阪公立大学 医学研究科 放射線腫瘍学	教授	澁谷 景子
愛知県がんセンター 放射線治療部	部長	古平 毅
富山大学附属病院 腫瘍内科・緩和ケア内科	教授	林 龍二
NPO法人 パンキャンジャパン	理事長	眞島 喜幸

7. 評価実施日程について

令和7年 2月7日 ～ 令和7年 2月27日

外部評価項目

【教育プログラムコース】

- 1 各コースの受入目標人数に対する入学者数、充足率を満たすための取組み
- 2 がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取組みがなされているか
- 3 コース履修者の満足度を満たすための取組みがなされているか
- 4 患者及び市民の視点を入れた教育実践
- 5 がんに特化した講座の活動状況
- 6 教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組み状況、開催数と参加者数
- 7 医療チーム(放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等)の整備数、新たな整備数
- 8 多職種が共同で参加できるカンサーボード等の整備数
- 9 医療チーム、カンサーボードの質の向上のための取組実績
- 10 コース履修者の医療チーム・カンサーボードの開催数、期間等
- 11 院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績
- 12 コース履修者が関与したプロトコル(臨床研究実施計画書等)作成件数
- 13 コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数
- 14 コース履修者の国内学会、和文誌への研究論文発表数
- 15 コース履修者の国際学会等への参加者数
- 16 コース履修者の国内学会等への参加者数

【シンポジウムやセミナー等の実施】

- 17 地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組件数、参加者数
- 18 社会への情報発信の取組実績(一般向け講演会の開催回数・参加者数)
- 19 インテンシブ事業を活用した地域医療貢献の推進状況

【がん医療のグローバル展開を見据えた海外の関係機関との連携】

- 20 コース履修者の海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み
- 21 国際交流プログラムの実施数
- 22 海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数

【がん医療人材養成拠点間の枠組みを越えた協力体制の構築】

- 23 がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数
- 24 多職種連携教育の実施件数・参加者数、多職種連携教育推進の取組み状況
- 25 がん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会等の実施状況
- 26 各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進

【事業の運営体制(実施、評価、連携)】

- 27 連携5大学での事業責任体制、各大学の取り組み事業の実施体制
- 28 外部委員による外部評価を実施し、PDCAサイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを行う体制になっているか
- 29 連携5大学による「合同フォーラム」の開催状況
- 30 連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数
- 31 連携5大学 コース履修者の e-learning 受講登録率
- 32 新たな e-learning 講義科目の提供の取組みについて
- 33 主幹大学での事業支援事務組織体制
- 34 がん遺伝子パネル検査実施数
- 35 バイオバンクの保存試料数(がん関係)

【事業の普及】

- 36 本事業のホームページを開設し、積極的な情報公開を行う体制となっているか
- 37 県内でのがん対策の企画、立案への貢献の取組みについて
- 38 ITを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築の取組み
- 39 テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上への取組み
- 40 がん医療に関係する企業等との共催・連携推進の取組み
- 41 がん研究基盤の発展構築へ向けた取組み状況
- 42 新たながん医療分野の開拓推進へ向けた取組み状況
- 43 コース修了者の進路や活動状況(地域定着状況)

「高度化・多様化するがん医療を担う人材育成」について

連携する大学

京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科薬科大学、京都薬科大学

事業の概要

がん免疫治療、ゲノム医療、CAR-T療法などの登場により、がんの生存率は向上しているものの未だ満足できるものではない。

また、がんの予防は未だに達成されていない。一方、わが国では超高齢化に伴い高齢のがん患者だけではなく、様々な合併症を有するがん患者にどのように治療を提供すべきかという課題に直面している。本事業では、わが国が抱える少子高齢化、大都市集中の人口動態など社会構造の変化などの様々な課題のなかで、高度化・多様化する医療を効率的かつ効果的に提供できる人材育成に取り組む。また、がん領域のみならず非がん領域の医療技術、さらにはICTやAIなどの最先端の異分野との学際的連携が必須である現状を踏まえ本拠点連携校が蓄積してきた教育、研究、診療に関わる人材、インフラ、そして海外の先進施設との連携を基礎に新たに顕在化してきた課題や社会のニーズに対応できる専門的医療人の育成に取り組み、社会に貢献する。

事業の運営体制

①実施体制

【事業推進運営委員会】・・・連携5大学間

連携5大学事業としての企画立案・実施・評価の決定

（構成員）事業推進責任者、連携大学担当コーディネーター、事業推進運営委員会委員

【養成管理委員会等】・・・各大学

各大学において、事業の実施に向けての現実的な取組を決定

（構成員）連携大学担当コーディネーター、コースコーディネーター、事務局担当者

②評価体制

【外部評価委員会】

外部有識者を評価委員として外部評価を実施し、PDACサイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直し行う体制を構築

③連携体制

【連携大学間】

5大学連携事業として、「5大学連携医療フォーラム」、「5大学連携学生短期研修プログラム」、「5大学連携海外合同教育セミナー」を毎年開催し、連携大学間の人材交流、多職種交流、国際交流を推進

【地域医療機関、民間企業等】

地域医療機関、民間企業等との連携した「シンポジウム」、「地域連携ネットワークの構築」を推進



各大学の教育プログラム・コース

コース名	テーマ
京都大学	
学際的腫瘍学コース	①
高精度緩和的放射線治療・核医学治療に精通し、各地域で放射線治療を担う人材養成コース	①
病理医養成コース	①
多職種連携による緩和ケアを実践する人材養成コース	①
放射線治療で顕在化している課題に対応する医学物理士養成コース	①
遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース	②
がんサバイバーシップケアを担うリハビリテーションスタッフの養成コース	②
先端治療学コース	③
がんの医療・研究においてビッグデータや人工知能を利活用できる人材育成コース	③
三重大学	
痛みの治療およびがん関連学際領域に対応し地域に定着する放射線治療医養成コース	①
がん患者のQOL向上及び終末期医療を担う看護師養成コース	①
がんサバイバーシップケアを担う小児がん治療専門医コース	②
個別化医療の新たな治療法開発および免疫療法を担う腫瘍内科医養成コース	③
婦人科腫瘍における個別化医療を推進する人材養成コース	③
がん免疫療法や個別化医療に精通した薬剤師養成コース	③
(インテンシブコース)	
緩和医療専門医・認定医養成コース	①
ゲノム情報を活用したがん診療に従事する人材養成コース	②
滋賀医科大学	
地域の放射線医療を担う医療人養成コース	①
ゲノム医療を担う臨床遺伝専門医養成コース	②
先制がん医療を担う薬剤師養成コース	②
がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	③
複合的がん個別化医療を推進する医療人養成コース	③
大阪医科薬科大学	
地域のがん医療を担う放射線治療専門医養成コース	①
がんゲノム医療に精通した病理診断医コース	①
難治性がん性疼痛に対応できるペインクリニック養成コース	①
データサイエンスに基づく誰一人取り残さないがん対策を実現するための人材育成コース	②
がんサバイバーの身体的・精神的・社会的ケアや再発予防ケアを担う看護師養成コース	②
革新的ながん診断・治療法の研究開発を担う人材育成コース	③
プレジジョンメディシンを推進するための臨床研究開発を担う人材育成コース	③
(インテンシブコース)	
がん関連学際領域（腫瘍糖尿病学・腫瘍循環器学）を担う次世代のプロフェッショナル養成コース	①
京都薬科大学	
がん患者のQOL向上および終末期医療を担う人材養成コース	①
近未来の医薬品・治療法の開発を担う人材養成コース	③
5大学連携（京都大学・三重大学・滋賀医科大学・大阪医科薬科大学・京都薬科大学）	
(インテンシブコース)	
新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース	③

テーマ

- ① がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成
- ② がん予防の推進を行う人材養成
- ③ 新たな治療法を開発できる人材の養成

令和5-6年度 取組状況等

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和5-6年度 取組状況等																																																							
【教育プログラムコース】																																																										
1		各コースの受入目標人数に対する入学者数、充足率を満たすための取組み	(資料1) 受入目標・受入実績・在学者・修了者数																																																							
		<p>事業期間中(6年間)達成目標</p> <p>【正規過程】</p> <p>①がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成(12コース)74名 ②がん予防の推進を行う人材養成(7コース)43名 ③新たな治療法を開発できる人材の養成(10コース)61名 合計178名を受入目標人数とする。</p> <p>【インテンシブコース】</p> <p>①がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成(2コース)16名 ②がん予防の推進を行う人材養成(1コース)12名 ③新たな治療法を開発できる人材の養成(1コース)28名 合計56名を受入目標人数とする。</p>																																																								
		<p>令和5-6年度取組状況</p> <p>受入目標・受入実績(正規コース)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">令和5年度</th> <th colspan="2">令和6年度</th> <th colspan="2">計</th> </tr> <tr> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>京都大学</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>14</td> <td>20</td> <td>18</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>大阪医科薬科大学</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>11</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>京都薬科大学</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>8</td> <td>11</td> <td>34</td> <td>38</td> <td>42</td> <td>49</td> </tr> </tbody> </table>		令和5年度		令和6年度		計		目標	実績	目標	実績	目標	実績	京都大学	4	6	14	20	18	26	三重大学	0	0	6	2	6	2	滋賀医科大学	0	0	5	4	5	4	大阪医科薬科大学	4	5	7	8	11	13	京都薬科大学	0	0	2	4	2	4	計	8	11	34	38	42	49	
	令和5年度			令和6年度		計																																																				
	目標	実績	目標	実績	目標	実績																																																				
京都大学	4	6	14	20	18	26																																																				
三重大学	0	0	6	2	6	2																																																				
滋賀医科大学	0	0	5	4	5	4																																																				
大阪医科薬科大学	4	5	7	8	11	13																																																				
京都薬科大学	0	0	2	4	2	4																																																				
計	8	11	34	38	42	49																																																				
		<p>受入目標・受入実績(インテンシブコース)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">令和5年度</th> <th colspan="2">令和6年度</th> <th colspan="2">計</th> </tr> <tr> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>三重大学</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>大阪医科薬科大学</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>5大学連携薬剤師養成コース</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>13</td> <td>16</td> <td>20</td> </tr> </tbody> </table>		令和5年度		令和6年度		計		目標	実績	目標	実績	目標	実績	三重大学	3	4	3	4	6	8	大阪医科薬科大学	0	0	2	2	2	2	5大学連携薬剤師養成コース	3	3	5	7	8	10	計	6	7	10	13	16	20															
	令和5年度			令和6年度		計																																																				
	目標	実績	目標	実績	目標	実績																																																				
三重大学	3	4	3	4	6	8																																																				
大阪医科薬科大学	0	0	2	2	2	2																																																				
5大学連携薬剤師養成コース	3	3	5	7	8	10																																																				
計	6	7	10	13	16	20																																																				
		<p><令和5年度></p> <p>正規コースでは、拠点全体における受入目標8名に対して、受入実績11名、インテンシブコースでは、拠点全体における受入目標6名に対して、受入実績7名となり、いずれも目標を達成した。</p> <p><令和6年度></p> <p>正規コースでは、拠点全体における受入目標34名に対して、受入実績38名、インテンシブコースでは、拠点全体における受入目標10名に対して、受入実績13名となり、いずれも目標を達成した。各年度とも、「事業推進運営委員会」において、コース充実のため、更なる履修生の獲得に務めるよう周知している。</p>																																																								
		<p>各大学における令和5-6年度取組状況</p> <p><令和5年度></p> <p>・履修生の獲得に向けて、「登録学生募集案内」を新たに作成した。また、ホームページに学内限定ページを設置し、各コースにかかわる内部向けの情報をいち早く発信できる体制を整えた。これにより、正規コースでは、受入目標4名に対して、受入実績6名。インテンシブコースの5大学連携薬剤師養成コースにおいては、5大学全体の受入目標3名に対して、受入実績3名(うち京大1名)となり、全体目標、個別のコース目標、いずれも目標を達成した。</p> <p><令和6年度></p> <p>・4月上旬に開催される新入生オリエンテーションにて、医学研究科が全ての新入生向け配付する資料に、がんプロに係る「募集案内」、「学事要項」、「登録申請書」を同封し、新入生に配付した。</p> <p>・各年度とも、「学事要項」、「登録申請書」をホームページに掲載するとともに、各コース担当教員にコース登録を開始する旨をメール通知し、関連する講座の新入生への周知を依頼した。また、養成管理委員会において、登録状況を報告したうえで、履修登録を随時受付することを周知してコース履修生の獲得に努めた。</p> <p>これにより、正規コースでは、受入目標14名に対して、受入実績20名。インテンシブコースの5大学連携薬剤師養成コースにおいては、5大学全体の受入目標5名に対して、受入実績7名(うち京大1名)となり、全体目標を達成した。</p>	京都大学																																																							

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和5-6年度 取組状況等																																																
		三重大学	令和5年度は次年度の入学者を確保するために、大学院HPでの広報活動に加え、近隣の大学および病院等への募集要項送付、三重県内のがん関連の研修会、セミナー等で各コースの紹介を行った。その結果、令和6年度には「痛みのおよびがん関連学際領域に対応し地域に定着する放射線治療医養成コース」1名、「がん患者のQOL向上及び終末期医療を担う看護師養成コース」1名、合計2名が入学した。「放射線治療医養成コース」: 受入れ予定1名に対し、受入れ実績令和6年度1名 「看護師養成コース」: 受入れ実績令和5年度0名、令和6年度1名 「緩和医療専門医・認定医養成コース」緩和医療専門医、認定医の配置が望ましいとされるがん診療連携拠点病院および緩和ケア病棟を有する施設および在宅緩和ケア診療所に対してコースの広報活動を行った。現時点で専門医が不在である施設や、辞職・異動が予測される施設もあるため育成・確保に向けて啓発を行った。県内の専門的緩和ケアを行っている施設(緩和ケアチーム活動・緩和ケア病棟・在宅緩和ケア充実診療所)の現役医師のネットワークを充実させ、緩和ケアに興味・関心がある医師に対して個別にキャリア支援に関する情報提供を行った。令和5年度は緩和医療専門医コース(2年間)1名、令和6年度は認定医コース(6か月)2名のコース履修を受け入れた。また、認定医をすでに取得している県内施設の緩和ケア医に対して、コースの正規履修の形ではないが、専門医移行を支援し、2名が専門医を取得した。「ゲノム情報を活用したがん診療に従事する人材養成コース」: 受入れ実績令和5年度3名、令和6年度2名																																																
		滋賀医科大学	令和5年度・6年度については、受入れ目標数に達するよう、各講演会・セミナーにおいて本事業及びコースの説明を行った。																																																
		大阪医科薬科大学	新たにがんプロ単独のホームページを立ち上げ、各コースの内容や活動を紹介し、がんプロ主催のセミナーなどを開催することで、学内外へ広報を実施した。薬学研究科では受入目標達成に向け、全国の理系大学199校に募集要項を送付した。またインテンシブコースでは在学中の大学院生や大学院に勤務している医師にもがんプロのインテンシブコースについて説明を行うなどの働きかけを行い、受入目標人数を達することができた。 令和6年度については受入目標を達成することができなかったコースもあるが、多くが受入目標を達成し、目標数以上の入学者を受け入れられたコースもあった。今後も積極的に発信を続け、継続してコース毎の取組みを維持し、次のステップにつなげたい。																																																
		京都薬科大学	<令和5年度> 準備期間のため、受入目標、受入実績共に0名であった。 <令和6年度> 「次世代のがん医療を担う人材育成プログラム特別講演会」と連携させた説明会など学内説明会を3回行い、R6年度から開設した正課2コース受入目標2名に対し4名、インテンシブコース受入目標1名に対し2名を受け入れ、目標を達成した。																																																
2		がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取組みがなされているか	(資料2) 資格取得者数一覧																																																
		事業期間中(6年間) 達成目標	専門医資格取得者数 120名以上を目標とする。																																																
			<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">令和5年度</th> <th colspan="2">令和6年度</th> <th colspan="2">計</th> </tr> <tr> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>京都大学</td> <td></td> <td>10</td> <td></td> <td>9</td> <td></td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td></td> <td>5</td> <td></td> <td>6</td> <td></td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>20</td> <td>4</td> <td>20</td> <td>2</td> <td>40</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>大阪医科薬科大学</td> <td></td> <td>3</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>20</td> <td>22</td> <td>20</td> <td>18</td> <td>40</td> <td>40</td> </tr> </tbody> </table>		令和5年度		令和6年度		計		目標	実績	目標	実績	目標	実績	京都大学		10		9		19	三重大学		5		6		11	滋賀医科大学	20	4	20	2	40	6	大阪医科薬科大学		3		1		4	計	20	22	20	18	40	40
	令和5年度		令和6年度		計																																														
	目標	実績	目標	実績	目標	実績																																													
京都大学		10		9		19																																													
三重大学		5		6		11																																													
滋賀医科大学	20	4	20	2	40	6																																													
大阪医科薬科大学		3		1		4																																													
計	20	22	20	18	40	40																																													
		令和5-6年度取組状況	拠点全体として、40名が専門医の資格を取得した。																																																
		各大学における令和5-6年度取組状況																																																	
	京都大学	地域代表としての専門資格取得・更新へ向けた講習会を行うとともに、コース履修者が希望する専門資格取得のための教育セミナー、研修会への参加を積極的に支援し専門医取得指導を行っている。																																																	
		(高精度緩和的放射線治療・核医学治療に精通し、各地域で放射線治療を担う人材養成コース) 早朝に各臓器の放射線治療に関する勉強会(放射線治療科モーニングレクチャー)、水曜日10時-12時に医学物理に関する特別授業を行い、放射線治療専門医試験・医学物理士認定試験に向けて理解を深めるような取り組みを行っている。 日本放射線腫瘍学会、日本医学物理学会、欧州放射線腫瘍学会、欧州放射線学会、米国放射線腫瘍学会、米国医学物理学会など国内外の放射線治療・医学物理関係の学会での参加・発表の機会を設けただけでなく、日本癌治療学会、日本肺癌学会などがん治療の知識取得に役立つ学会での発表の機会を設けた。 また、医学物理士取得のための教育セミナー、研修会への参加を積極的に支援した。																																																	
		(病理医養成コース) 細胞診断専門医取得 1名 R6.1.1																																																	
		(放射線治療で顕在化している課題に対応する医学物理士養成コース) 早朝に各臓器の放射線治療に関する勉強会(放射線治療科モーニングレクチャー)、水曜日15時-18時に医学物理学に関する特別授業を行い、医学物理士認定試験に向けて理解を深めるような取り組みを行っている。日本放射線腫瘍学会、日本医学物理学会、米国医学物理学会など国内外の放射線治療・医学物理学関係の学会での参加・発表の機会を設けた(オンサイト)。また、医学物理士取得のための教育セミナー、研修会への参加を積極的に支援した。令和6年度の医学物理士試験に2名が合格し、1名が医学物理士として認定された。																																																	
		(遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース) 当コース参加の大学院生には、婦人科腫瘍専門医取得にむけて、大学院において悪性症例の高度な診断や治療経験を積めるように、病理診断科、腫瘍内科、遺伝子診療部と連携を取りながら研修をサポートしている。 また、悪性腫瘍やがんゲノム、がん遺伝子に関する学会発表や論文執筆の指導を行っており、さらにクリニカルシークエンスカンファレンスやゲノム関連研究会への積極的な参加を促している。																																																	

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和5-6年度 取組状況等
			<p>(がんサバイバーシップケアを担うリハビリテーションスタッフの養成コース) 日本作業療法士協会が定める専門作業療法士大学院連携の承認を受け、本コース修士課程、博士後期課程を修了することにより、がん専門作業療法士取得に必要な専門分野の単位互換が得られるカリキュラムを導入した。また、がんリハビリテーションに関する研修会に参加し、専門知識の向上を行っている。</p>
			<p>(インテンシブコース・新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース) 当院は日本医療薬学会がん専門薬剤師制度研修施設・日本医療薬学会地域薬学ケア専門薬剤師制度研修施設・日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師研修事業研修施設であり、研修生の受け入れなど地域代表としての専門資格取得・更新へ向けた取組みを行っている。年6回行われる5大学連携集合研修会では、履修者が最新のがん薬物療法に関する知識を習得できるよう取り組んでいる。</p>
		三重大学	<p>本年度に放射線治療医養成コースに入学した履修者は来年度に放射線専門医資格を取得する予定である。 ゲノム情報を活用したがん診療に従事する人材養成コース(インテンシブコース)の履修生には、三重大学病院が主催するエキスパートパネル(毎週火曜18時半～)への見学並び実践での発表参加を積極的に受け入れ、主体的にがん遺伝子パネル検査に対するannotationとcurationを実践している。</p>
		滋賀医科大学	<p>緩和医療専門医・認定医養成コース(インテンシブコース)の履修生には、診療においては、緩和ケアチーム活動に専従できるよう支援し、緩和医療専門医・認定医として必要な知識・技能・態度の習得ができるよう努めた。また、コースの履修において必須研修である①緩和医療学会が主催する教育セミナー②患者の意向を尊重した人生の最終段階における意思決定支援のための研修会③対人援助・スピリチュアルケア研修の受講機会を確保した。また、専門医コースの履修生には、研究活動の支援も行った</p>
		大阪医科薬科大学	<p>履修の際に、それぞれのコースにおいて取得が見込まれる学会資格等の概要、資格名・資格要件・取得にむけてのプロセス(入学前・在学中・修了後)を案内している。また、医師・医療スタッフ等を対象にがん専門医療人の育成に向けたセミナーを、令和5-6年度は実施済を含めて6回開催予定である。</p>
		京都薬科大学	<p>専門知識向上に向けた取組として、外部講師を招いて講演会を行う他、コース毎に取得支援を行っている。 医師の各領域の認定医・専門医資格(がん薬物療法専門医、がん治療認定医など)取得へ向けた指導を行っている。 令和5年度は3名の学生が専門医資格を取得している。 【がんサバイバーの身体的・精神的・社会的ケアや再発予防ケアを担う看護師養成コース】 日本看護協会の「がん看護専門看護師」の認定を受けるために、資格取得へ向けた指導を行っている。</p>
		京都薬科大学	<p><令和6年度> がん薬物療法認定薬剤師資格を1名が取得した。</p>
3		コース履修者の満足度を満たすための取組みがなされているか	(資料3)コース履修生調査(要望・改善点)
		京都大学	<p>令和5-6年度取組状況 コース履修者の満足度を満たす取組みとして、履修生へ「がんプロへの要望・改善点について」の調査を行った。E-learningのアップデートに対する要望が散見されたが、概ね満足との回答が多く寄せられた。</p>
			<p>(高精度緩和的放射線治療・核医学治療に精通し、各地域で放射線治療を担う人材養成コース) 希望に添った研究テーマ、国内、国外学会における研究発表機会の提供し、各学会の放射線治療セミナーへの参加を促した。講座内での定期的な進捗報告会を開催し、随時研究に関する助言を行った。</p>
			<p>(放射線治療で顕在化している課題に対応する医学物理士養成コース) 履修者の希望に添った研究テーマを設定し、研究発表機会を提供した。放射線腫瘍医コースと連携し、講座内での定期的な進捗報告会を開催し、放射線腫瘍学・医学物理学教員らのコメントをフィードバックした。</p>
			<p>(遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース) 婦人科腫瘍における研究指導を行い、その成果報告のために、国内外の学会発表と論文作成の指導を行っている。さらに、婦人科腫瘍専門医取得のために、手術指導、症例カンファレンスを行っている。 また、がんゲノム医療への理解のために、クリニカルシークエンスカンファレンスやがん遺伝関連カンファレンスや勉強会へ参加しやすいような環境整備をした。遺伝性腫瘍についてのカンファレンスや検討会にも参加しやすい環境構築を行っている。</p>
			<p>(がんサバイバーシップケアを担うリハビリテーションスタッフの養成コース) 定期的なゼミの開催と、個別指導を通して、研究、臨床、がんサバイバーに対する社会活動に関する指導を行い、安全で、専門的な知識を持った研究活動、臨床活動、社会活動を促すとともに、これらの内容を学会発表などのアウトリーチ、教育活動を行った。また、各がん腫のリハビリテーションのエキスパート(がん専門作業療法士)をゲストスピーカーとして講義に招き、講義の質の担保を図った。</p>
			<p>(がんの医療・研究においてビッグデータや人工知能を活用できる人材育成コース) 合宿、論文執筆会、セミナーを定期的実施、及び学会発表の機会の取組みを行っている。</p>
			<p>(インテンシブコース・新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース) 医療現場における問題点を発見し、自分で解決するための能力を向上させるために、リバーシ・トランスレーショナルリサーチを目指した研究を実施するとともに、5大学連携集合研修会における発表を必須とすることで多施設の薬剤師や医療専門職種と積極的に討議する機会を設けている。他にも、学会参加・発表やがんプロ協賛セミナーへの参加を通して、コース所属学生のがん薬物療法および関連領域における知識や研究能力のスキルアップのための機会を積極的に設けている。</p>

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和5-6年度 取組状況等
		三重大学	放射線治療医コースの履修生に対しては放射線治療計画の指導や研究(マウスを用いた基礎研究)の指導を行っている。 看護師養成コースでは、非常勤講師として、全国的に活躍されている看護実践者・研究者、がん看護専門看護師を招いた講義をおこない、大学院セミナーとしても他専攻大学院生に公開した。また、英語論文執筆を目指した取り組みをはじめ、本取り組みについても他専攻大学院生および教員に公開した。 緩和ケアインテンシブコースは、緩和ケアチーム活動では週1回チームカンファレンスを実施し診療内容に関して十分なディスカッションが可能である。履修に関するPDCAサイクルの場として月1回の面談を行っている。研究活動においては、2カ月に1回リサーチカンファレンスを行い研究に関する指導・支援を行っている。
		滋賀医科大学	・がんプロ主催のシンポジウムおよび国内・国際学術集会での成果発表等を積極的に支援し、コース履修者の成果について第三者の評価を受ける機会を設け履修意欲の向上に努めている。 ・コース履修者がより能動的に学び、考察できるよう演習・実習形式の科目を設けている。 ・次世代シークエンサー、マイクロアレイ、バイオマーカー解析装置、多分子迅速解析装置、超高感度分子解析装置などの機器を用いて、がんプロコース在籍の大学院生にトレーニングを行い、各自の研究に活用している。
		大阪医科薬科大学	各コース、カンファレンスや症例検討会において、履修生に対して個別で指導を行っている。 また、各研究科毎にがんプロが主催した講演会やセミナーで学外から講師を招き、いろいろな知識を得られる機会を提供している。 「がんサバイバーの身体的・精神的・社会的ケアや再発予防ケアを担う看護師養成コース」の講義では、全国的に活躍されているがん看護専門看護師を非常勤講師として招聘し講義を行った。 年度ごとには授業評価アンケートを実施しており、アンケート結果を受けて、大学院生の代表も出席するカリキュラム評価委員会を開催するなどして、アンケートに対するフィードバックも実施している。
		京都薬科大学	他大学のe-learning講義の視聴推奨やがんプロ関連イベントへの参加推奨を行うことで、各々の研究領域を超えたがん関連に関する知識の修得機会を得る機会を提供している。
4	患者及び市民の視点を入れた教育実践		令和5-6年度取組状況 京都大学 (遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース) 癌治療では薬剤の副作用を評価する必要があるが、その観点としてpatientreportedoutcome(PRO)の重要性が近年提唱されている。本プログラムでも、PROを適切に収集して評価するシステムを学んでおり、患者や市民の視点を取り入れる重要性を教育している。 (がんサバイバーシップケアを担うリハビリテーションスタッフの養成コース) 近畿小児脳腫瘍の家族会・経験者グループ(miracleBrain)や、一般社団法人キャンサーフィットネス、京都がんピアサポートサロン～fellows～などの患者・家族会に、学生と共に参加し、企画・運営や患者・家族との対話を通して、地域で暮らすがんサバイバーの視点を取り入れた教育に取り組んだ。 三重大学 放射線治療の初診時には指導医が立ち合い、患者対応の指導をおこなっている。 緩和ケアインテンシブコースは、緩和ケアチーム活動での診療活動を振り返ることで、患者のトータルペインへの対応内容を検討している。市民公開講座の講師を努める機会を確保し反応や質疑応答を通して市民の視点を得られるようにしている。 滋賀医科大学 がん患者及び市民を対象とした市民公開講座を令和5-6年度に予定を含めて16回開催するなどし、履修生の指導に生かしている。 大阪医科薬科大学 大学病院に設置されている「がん医療総合センター」が開催する患者向けのセミナーや市民公開講座を講演したり、がんプロが主体となり、がん患者学会を後援した。また、がんの治療ではなく、がんの自殺に対するセミナーを開催し、患者家族からの参加もあり、好評を得た。「がんサバイバーの身体的・精神的・社会的ケアや再発予防ケアを担う看護師養成コース」ではがん薬物療法あるいは放射線療法を受けているがん患者を受け持ち高度実践看護を展開した。 京都薬科大学 京都薬科大学は医療機関を持たないため患者や市民の視点を取り入れることが難しいが、「令和6年度 5大学連携学生短期研修プログラム」では、小児がん経験者の方による講演、公開講座では腎疾患経験を経て小児科医となった医師の講演、また日常がん患者と接する薬剤師によるアビランスケアについてなどの講演を行って市民の方にアンケートを取ることで、患者や市民の視点を取り入れるようにしている。
5	がんに特化した講座の活動状況		(資料4)がんに特化した講座の設置状況 令和5-6年度取組状況 がんに特化した講座の設置については、平成24年度に京都大学、三重大学、滋賀医科大学の3大学が設置し、令和元年度および令和4年度には大阪医科薬科大学が設置して、活発な教育・研究を推進している。 各大学における令和5-6年度取組状況 京都大学 平成24年9月に「腫瘍内科学講座(分野)」を設置した。(R6.4.1 腫瘍薬物治療学分野から分野名変更) 本講座は、アカデミアにおけるがんセンターの機能的運用の支援を行うとともに 1) 専門的かつ先進的ながん診療の実践と教育 2) 治験・臨床試験などの臨床開発の実践と教育 3) がんに関連する基礎研究 4) 基礎研究を臨床に応用するTranslational Oncology 5) 次世代の医療開発に繋げるがんバイオバンクおよびがんクリニカルシークエンス事業等を展開し、専門的な教育を推進している。 三重大学 平成24年5月に「放射線腫瘍学講座」を設置した。 本講座は、三重県で不足している放射線治療医を養成するとともに、高精度放射線治療や小線源治療などの専門的かつ先進的な放射線治療の実践、放射線腫瘍学に関連する基礎研究や臨床研究を行っている。

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和5-6年度 取組状況等
		滋賀医科大学	臨床腫瘍学講座を設置しており、以下の活動を行っている。 ・腫瘍学講義を学部および大学院で担当している。また、大学附属先端がん研究センター、附属病院腫瘍内科および腫瘍センター・緩和ケアセンターを運営し、がん診療活動と先進医療開発に従事している。 ・地域病院と連携したセミナーや市民公開講座等を複数回実施している。 ・滋賀県がん対策推進協議会に委員を派遣し、「滋賀県がん対策推進計画」の改定や「滋賀県がん対策の推進に関する条例」の策定・推進に引き続き取り組んでいる。 ・がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療拠点病院、滋賀県がん診療連携協議会および滋賀県がん対策推進協議会の運営を行うとともに、がんプロ事業コーディネートと統括を行っている。 ・教授1名、講師1名、特任講師4名、特任助教1名(臨床腫瘍学講座・腫瘍内科および腫瘍センター)を配置し、活発な教育研究活動を実施している。
		大阪医科薬科大学	「放射線腫瘍学教室」は、がんの放射線治療を中心に診療、研究、教育を実施しており、令和6年度より医学研究科の正規課程のコースとして、新たに「地域のがん医療を担う放射線治療専門医養成コース」を設けた。残念ながら、コースとしての入学者はいなかったが、大学病院に設置された「がん医療総合センター」や「関西BNCT共同医療センター」とも連携しながら、医療従事者や患者向けにセミナーや市民公開講座を開催し、情報発信を行っている。 看護学研究科では【がんサバイバーの身体的・精神的・社会的ケアや再発予防ケアを担う看護師養成コース】を新たに設置し、 1)がん薬物療法および放射線療法を受ける患者の身体的・精神的・社会的ケアや再発予防ケアに関する教育と高度実践、 2)がん看護に関する研究 等を展開し、専門的な教育を推進している。 2022年度に新たに「内科学講座腫瘍内科学」の設置を行い、これから求められるプレジジョンメディスンに基づく臨床・研究の基盤構築を開始している。臨床研究センター、がんゲノム医療を統括し、また、2024年度からはがん関連学際領域のコンシェルジュ的な役割を果たすべく、誰一人取り残さないがん対策にも取り組んでいる。
		京都薬科大学	該当なし
6		教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組み状況、開催数と参加者数	(資料5)セミナー・シンポジウム等の開催状況 (資料6)インテンシブコース実施事業
		京都大学	令和5-6年度取組状況 教員の指導技術向上等のため、教育研究者、看護師等を含めた医療関係者、コース履修生を参加対象者としてフォーラム・シンポジウム、特別講演を実施している。また、インテンシブコースにおいては、自大学教職員だけでなく、他大学教職員も含めて、指導技術向上、医療技術向上のため、研修会やセミナー、エキスパートパネル、カンファレンス等を開催している。 上記以外にも各コース毎に、教員の指導技術、医療技術の向上に取り組むと共に、がん医療に関するセミナー、講演会等に積極的に参加した。 各大学における令和5-6年度取組状況 教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントへの取り組みとして、講演会、セミナー、研修会等を開催し、また、各疾患別の症例カンファレンス、キャンサーボードの実施、さらに特定の病態に特化した疾患横断的な診療ボードを設置し積極的にFDに取り組んだ。 (高精度緩和的放射線治療・核医学治療に精通し、各地域で放射線治療を担う人材養成コース) 教員全員が指導医講習会に参加し、指導医の体制を整えている。また、日本放射線腫瘍学会、日本医学放射線学会にて開催される、研修指導者講習会に教員医師が全員参加している。また、定期的なミーティングを開催し、指導法の改善点を模索している。 脳腫瘍/小児脳腫瘍ユニットカンファレンス、頭頸部癌ユニットカンファレンス、食道癌ユニットカンファレンス、胃癌/GISTユニットカンファレンス、肺癌・縦隔腫瘍ユニットカンファレンス、乳癌ユニットカンファレンス、膀胱癌ユニットカンファレンス、胆道癌ユニットカンファレンス、大腸癌ユニットカンファレンス、前立腺癌ユニットカンファレンス、婦人科腫瘍ユニットカンファレンス、小児癌ユニットカンファレンス、原発不明癌/希少癌ユニットカンファレンス、神経内分泌腫瘍ユニットカンファレンス、血液腫瘍カンファレンス、骨転移キャンサーボード等、各ユニットカンファレンス・キャンサーボードへの参画を行っている。 (放射線治療で顕在化している課題に対応する医学物理士養成コース) ①放射線腫瘍医、診療放射線技師、看護師、医学物理士合同の症例検討会(約30名)に毎週3日参加し、放射線治療の臨床の現状把握及び課題の抽出を行っている。この検討会にはがんプロ学生も参加している。 ②医学物理士に認定されている教員を対象に、今後資格更新の際に必須となる学会主催の教育セミナーおよび学会やシンポジウムへの参加のサポートを行った。 日本医学物理学会:令和5年4月3名、9月2名、令和6年4月3名 日本放射線腫瘍学会:令和5年11月3名、令和6年11月3名 米国医学物理学会:令和5年1名、令和6年2名 (遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース) 当教員が積極的に指導医講習会に参加し、指導医の体制を整えている。また、日本産科婦人科学会にて開催される、指導医講習会に参加している。定期的なミーティングを開催し、指導法の改善点を模索する。 ①毎週の病理カンファレンス(婦人科腫瘍医と病理医)、 ②毎週の画像カンファレンス(婦人科腫瘍医と放射線診断医)、 ③毎週の放射線治療カンファレンス(婦人科腫瘍医と放射線治療医、6名参加)を行っている。また症例に応じ、2週に1度程度、 ④外科カンファレンスや、⑤泌尿器科カンファレンスに婦人科腫瘍医も参加して症例検討会を行うとともにFDに取り組んでいる。 ⑥クリニカルシーケンスカンファレンスにて最新のゲノム医学知識、情報を更新している。 ⑦学内外で臨床遺伝に関わる医療関係者・大学院生を対象としたレクチャー、症例検討会を、月に1回程度行っている。 (がんサバイバーシップケアを担うリハビリテーションスタッフの養成コース) 令和6年3月16日(土)に、一般市民、患者・家族、医療専門職を対象とした、がんリハビリテーション特別講演会-takethenextstepを開催し、学内・学外合わせて計5大学、74名が参加した(対面開催、芝蘭会館)。また、令和6年9月27日(金)に、関西がんのリハビリテーション研究会主催の第25回関西がんのリハビリテーション研究会を共催し、計131名が参加した(Web)。 三重大学 医師コースでは、病院全体のTumor Board(月1回)、骨転移合同カンファレンス(月1回)のほかに、緩和ケアセミナー(年3回)、緩和ケアフォローアップ研修会(年1回)、早期からの緩和ケアを考える会(年1回)、がんチーム医療研究会(年1回)、医科歯科連携人材養成研修会(年1回)などの診療科横断的なセミナー、研修会を定期的に開催するとともに、各がん関連診療科で開催される症例検討会、カンファレンスやがん医療に関するセミナー、講演会に積極的に参加し、教員の指導能力向上のためのFDに取り組んだ。

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和5-6年度 取組状況等
		滋賀医科大学	各教員等の知識修得の機会として、病診連携フォーラムや勉強会を開催 【複合的がん個別化医療を推進する医療人養成コース】 ・腫瘍センター講演会 令和5年度 3回(1月31日、3月6日、3月27日実施) 令和6年度 1回(11月20日実施)、2回予定
		大阪医科薬科大学	教員の知識習得や向上の機会として、研究会やセミナーを開催している。例えば、大阪医薬大病理セミナーでは分子病理学の視点からがんゲノム医療やプレジジョンメディスンに関する話題について講演していただいた。 ・三島圏域がん研究会(2023・1回:69回、2024:2回 264名) ・三島医療圏・中河内医療圏がん登録部会実務者研修会(2023:172名、2024:250名) ・緩和ケアセンター勉強会(2023・2回:112名、2024・2回:106名) ・大阪医薬大病理セミナー 参加者数(2023:16名、2024:44名) ・OMPU緩和ケアセミナー 参加者数(2023・1回:21名、2024・2回:34名)
		京都薬科大学	各教員等の知識修得の機会として、R7年3月に国内外の研究者を招聘し国際シンポジウムを開催する予定である。
	7	医療チーム(放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等)の整備数、新たな整備数	(資料7)医療チームの整備体制
		京都大学	令和5-6年度取組状況 京大病院がんセンターにおいて、外来がん診療と入院がん診療をシームレスに実践するため、診療科および職種横断的なチーム医療を実践する「臓器別がんユニット」を設置している。各「臓器別がんユニット」は、それぞれのユニットごとに、関連診療科の医師頭が参加するカンファレンスを実施し、患者の病期診断や治療方針決定等について集学的な検討を実施している。放射線治療科は、治療に関わるすべての病種においてカンファレンスを開催し、チーム医療を実践している。 化学療法においても、がん種ごとに関連する専門診療科、腫瘍内科、薬剤部、看護部など診療科、職種横断的なカンファレンスを開催するとともにチーム医療を実践している。 緩和ケアに関しても、緩和ケア専門医、精神科医、看護師、薬剤師、作業療法士、メディカルソーシャルワーカーによる多職種専門の緩和ケアチームを形成し、チーム医療を実践している。
		三重大学	放射線科の中に放射線治療部門があり、医師、技師、看護師がチームとして診療を行っている。
		滋賀医科大学	附属病院腫瘍内科、腫瘍センター化学療法室・緩和ケアチーム、化学療法チームを設置して運用している。
		大阪医科薬科大学	緩和ケアや化学療法など多職種が連携したチームの編成がなされており、それぞれ定例会を開催している。また新たに臨床倫理チームについて編成が進められている。
	8	多職種が共同で参加できるカンサーボード等の整備数	(資料8)カンサーボードの体制
		京都大学	令和5-6年度取組状況 がんを専門とする内科医・外科医・放射線治療医、あるいは病理診断医・放射線診断医・各種医療スタッフの多職種が参集し、「カンサーボードの体制」(資料8)のとおり、①脳腫瘍・小児脳腫瘍ユニットカンファレンス～④CardioOncologyユニットカンファレンスを行っている。
		三重大学	病院全体としては多職種が参加するtumor boardを月に1回開催している。 「放射線治療医コース」では頭頸部癌や婦人科癌、肺癌などで定期的に他科および多職種を交えたカンファレンスを行い、個々の患者に最適な治療を検討している。
		滋賀医科大学	・平均月1回、全科カンサーボードを開催している。また、月2回、がん遺伝子パネル検査エキスパートパネルを開催している。できるだけ多くの関連科・部門の医療関係者に出席の依頼を行い、十分に多面から質の高い検討ができるように心がけている。
		大阪医科薬科大学	資料8の通り、多職種が参集してカンサーボードは実施している。また、緩和ケアチーム、がん相談支援センターも多職種で編成されて活動している。
	9	医療チーム、カンサーボードの質の向上のための取組実績	(資料8)カンサーボードの体制
		京都大学	令和5-6年度取組状況 医療チーム、カンサーボードの質の向上のための取組として、診療科横断的なカンサーボードを開催し、診療の質の向上を図り、診療科および職種横断的な合同カンファレンスを定期的に開催し、診療の質の向上と情報の共有を図っている。 (高精度緩和的放射線治療・核医学治療に精通し、各地域で放射線治療を担う人材養成コース) 各がん診療ユニットの診療、カンファレンスを通じて、単科だけの診療方針でなく、multidisciplinaryな診療方針について検討する機会を提供している。がんブロッコ生には積極的にカンファレンスにて発言するように指導し、主体的に放射線治療科の方針を決定する能力を養成する。 (放射線治療で顕在化している課題に対応する医学物理士養成コース) 放射線治療装置の品質管理を定期的に開催し、その結果を3カ月に1度開催される放射線治療品質管理委員会で報告している。

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和5-6年度 取組状況等
			<p>(遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース) 医療チーム：医師と看護師により、婦人科がん患者に関するカンファレンスを行っている。また緩和医療の方針について、メディカルソーシャルワーカーも含めたカンファレンスを行っている。</p> <p>カンファレンス：婦人科医、病理医による病理カンファレンスを行っている。婦人科医、放射線診断医による画像カンファレンスを行っている。婦人科医、放射線治療医による放射線治療カンファレンスを行っている。婦人科医、腫瘍内科医による化学療法、ゲノム医療についての治療カンファレンスを行っている。</p> <p>(婦人科コース) 毎週水曜日に研修医・修練医・医員・スタッフによる臨床カンファレンスおよび画像カンファレンスを行い、診療の質の向上に取り組んでいる。がんブロコース生には積極的にカンファレンスにて出席・発言するように指導している。</p> <p>(臨床遺伝学) 学内外で臨床遺伝に関わる医療関係者・大学院生を対象としたレクチャー、症例検討会を、月に1回程度行っている。</p> <p>(がんサバイバーシップケアを担うリハビリテーションスタッフの養成コース) 各履修者の研究分野に応じて京大病院のがん診療科(脳神経外科、小児科、消化管外科、乳腺外科)やがん治療に伴う神経心理学的な晚期合併症に対する診療科(精神科神経科)との連携や、カンファレンス等に参加できる体制を整えている。</p> <p>三重大学 「放射線治療医コース」 頭頸部癌カンファレンス(毎週)、婦人科癌カンファレンス(毎週)、乳癌カンファレンス(毎週)、肺癌カンファレンス(隔週)、食道癌カンファレンス(月1回)、泌尿器カンファレンス(月1回) 「ゲノム情報を活用したがん診療に従事する人材養成コース(インテンシブ)」 がんゲノムプロファイリング検査の結果について臨床的解釈を行う多職種メンバーで構成されるエキスパートパネルを毎週火曜18時半から実施している。当院は連携病院は1施設しかないものの、紹介症例数が多い背景もあり、毎回10例前後の症例について検討を行い、当院ならびに連携病院へエキバネレポートの返却を行っている。またゲノム情報を活用したがん診療に従事する人材養成コース(インテンシブ)の履修生は、毎回参加している。またそのほか、月に一回開催する臨床遺伝カンファレンスにも参加し、実際に遺伝カウンセリング外来に陪席した症例の発表を履修生には行ってもらっている。</p> <p>滋賀医科大学 ・全科がん診療部を行う際には、できるだけ多くの関連科・部門の医療関係者に出席の依頼を行い、出欠管理を行い十分に多方面から質の高い検討ができるように心がけている。</p> <p>大阪医科薬科大学 緩和ケアチームの定例会が毎週開催されている。がん相談支援センターも多職種で編成されて活動している。また、緩和ケアの質的向上を目的として毎年PDCAサイクルの更新を行い、大阪府緩和ケア部会、三島医療圏緩和ケア部会で都度公表している。</p>
10		コース履修者の医療チーム・がん診療科の開催数、期間等	(資料8)がん診療科の体制
			令和5-6年度取組状況
	京都大学		<p>各コースにおいて、多くの合同カンファレンス等の取り組みが行なわれている。</p> <p>(高精度緩和的放射線治療・核医学治療に精通し、各地域で放射線治療を担う人材養成コース) 脳腫瘍/小児脳腫瘍ユニットカンファレンス(毎週火曜日)、頭頸部癌ユニットカンファレンス(毎週木曜日)、食道癌ユニットカンファレンス(毎週水曜日)、肺癌・縦隔腫瘍ユニットカンファレンス(毎週木曜日)、乳癌ユニットカンファレンス(毎週水曜日)、膀胱癌ユニットカンファレンス(毎週金曜日)、胆道癌ユニットカンファレンス(毎週金曜日)、大腸癌ユニットカンファレンス(毎週火曜日)、前立腺癌ユニットカンファレンス(毎週水曜日)、婦人科腫瘍ユニットカンファレンス(毎週金曜日)、小児癌ユニットカンファレンス(毎月1回火曜日)、原発不明癌/希少癌ユニットカンファレンス(不定期)、神経内分泌腫瘍ユニットカンファレンス(毎月1回水曜日)、血液腫瘍カンファレンス(隔週火曜日)、骨転移がん診療部(第3火曜日)等、各ユニットカンファレンス・がん診療科への参画 具体的には、各疾患の初診の段階で放射線治療科医師が主科の先生方と共に診察を行い、当日に治療方針について検討し、適正な治療方針を決定する。 この制度により症例の治療方針が速やかに適切に決定され、時間的なロスがなく、医療者、患者ともに大きなメリットがある。 また、治療中、治療後においても主科の先生方とともに外来をすることで、治療方針の変更、再発のチェック、再発後の救済治療などの方針決定も速やかにされるため、京大病院のがん治療の質向上のために貢献している。</p> <p>(放射線治療で顕在化している課題に対応する医学物理士養成コース) 医療チーム：放射線治療医師・診療放射線技師・医学物理士・看護師で定期的に会議を開き、診療の問題点、安全が確保されているか、などを議論する会議を設けている。 病院主催の放射線品質管理委員会に参加しており、医学物理士が副議長を務めている。 がん診療科：放射線治療科医師・診療放射線技師・医学物理士カンファレンス(毎週月曜日)、放射線治療科マンデーミーティング(毎週月曜日)、医学物理グループカンファレンス(毎週水曜日)、前立腺IMRTカンファレンス(毎週水曜日)、放射線治療症例検討会(毎週火・木・金曜日)、放射線治療部門ミーティング(隔週金曜日)</p> <p>(遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース) 医師と看護師によるカンファレンス：毎週1回月曜日午後。緩和医療の方針についてのカンファレンス：適時(2週間に1回程度)。がん診療科カンファレンス：毎週1回(月の朝)。画像カンファレンス：毎週1回(水曜日の夕方)。放射線治療カンファレンス：毎週1回(金曜日の夕方)。以上を行っている。 学内外で臨床遺伝に関わる医療関係者・大学院生を対象としたレクチャー、症例検討会を、月に1回程度行っている。</p> <p>(がんサバイバーシップケアを担うリハビリテーションスタッフの養成コース) 履修者が専門性に依りて、京都大学医学部附属病院や所属施設(京都桂病院)で実際のがん患者のリハビリテーション治療に携わり、各がん種ごとの合同カンファレンスやカンファレンスへの参加を通して、チーム医療の実際を学ばせている。</p>
	三重大学		放射線治療部門としては、頭頸部癌カンファレンス(週1回)、乳がんカンファレンス(週1回)、肺癌カンファレンス(月2回)、婦人科癌カンファレンス(週1回)、食道癌カンファレンス(月1回)に参加している。 小児がん症例検討会(週1回)、小児造血細胞移植カンファレンス(週2回)、小児がんTumor Board(2か月に1回)、小児造血細胞移植前カンファレンス(不定期)を開催している。 がんゲノム医療エキスパートパネル(毎週開催)、臨床遺伝カンファレンス(月一回)。
	滋賀医科大学		・附属病院腫瘍センターに教育・研修部門とゲノム医療部門を設置し、コース履修者の医療チーム、がん診療科、がん遺伝子パネル検査エキスパートパネルへの参加を許可している。

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和5-6年度 取組状況等																								
		大阪医科薬科大学	がん医療総合センターにおいて、月2回程度、定例のがんサワーボードを開催している。それ以外にもBNCT、骨転移カンファレンスを中心に臓器横断的なカンファレンスを実施している他、希少がんに関しては、臨時がんサワーボードを行い、即時対応している。																								
	11	院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績	<p>令和5-6年度取組状況</p> <p>京都大学</p> <p><令和5年度> がん登録提出件数 【院内がん登録】 国立がん研究センターへ 3,557件(2022年症例) 【全国がん登録】 京都府医師会へ 3,557件(2022年症例) 【院内がん登録データを利用した各種QI研究に参加】 ・『小児がん拠点病院等の連携による移行期を含めた小児がん医療提供体制整備に関する研究』代表者 松本 公一(国立成育医療研究センター) ・『QI症例研究』国立研究開発法人 国立がん研究センターがん対策研究所医療政策部 【院内がん登録データを利用した患者体験調査に参加】 事務局:国立がん研究センターがん対策研究所医療政策部(厚生労働省委託事業)</p> <p><令和6年度> がん登録提出件数 【院内がん登録】 国立がん研究センターへ 3,544件(2023年症例) 【全国がん登録】 京都府医師会へ 3,544件(2023年症例) 【全国がん登録遡り調査】 京都府医師会へ 3件 【院内がん登録データを利用した各種QI研究に参加】 ・『小児がん拠点病院等の連携による移行期を含めた小児がん医療提供体制整備に関する研究』代表者 松本 公一(国立成育医療研究センター) ・『QI症例研究』国立研究開発法人 国立がん研究センターがん対策研究所医療政策部</p> <p>三重大学</p> <p>【登録数】 令和5年度:3,114件 令和6年度:3,269件 【活用実績、地域がん登録との連携実績】 希少がんへの症例把握、県内他施設との比較検討、予後情報の取得・連携等</p> <p>滋賀医科大学</p> <p>・附属病院腫瘍センターにがん登録部門を設置している。 ・がん登録の活用に向けた手順書を設けて院内活用を図っている。</p> <p>大阪医科薬科大学</p> <p>・がん登録数 令和5年(3,434件) 令和6年(現在登録中)</p> <p>・病院施設内での院内がん登録実績は法人会議、各委員会、医局カンファレンス等で使用し、様々な情報を元に分析を行っている。 ・三島医療圏がん登録部会としての院内がん登録、地域がん登録を活用 希少がん分析、大腸がん、胆膵がん分析を圏域内施設との共有および大阪府へ報告 ・市民への啓発として、市民公開セミナーでのパネル紹介 ・学術集会では『大阪医科薬科大学病院におけるがん登録情報の活用について』や『大阪府三島医療圏がん登録部会の活度報告』、『がん登録実務者ができる臨床現場での院内がん登録の生存率等の活用実績』などを報告している。 またこれらの情報や『地域のがん生存率』をがん対策に活かしている。</p> <p>(研究における活用) DPCや医療情報と院内がん登録をリンケージしたデータベースを学内外の研究に活用した。 ・肺がん死亡率のマイクロシミュレーションへの利用 ・バイオバンク事業における生活習慣アンケートとの連携 ・緩和ケア実施状況の実態把握および苦痛のスクリーニングデータとの連携</p>																								
	12	コース履修者が関与したプロトコル(臨床研究実施計画書等)作成件数	<p style="text-align: right;">(資料9)プロトコル作成への関与状況</p> <p>令和5-6年度取組状況</p> <p>コース履修者が関与したプロトコル(臨床研究実施計画書)作成件数</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>京都大学</td> <td>0</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>大阪医科薬科大学</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>2</td> <td>14</td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table> <p>京都大学</p> <p><令和5年度> 0件 <令和6年度> 6件 (高精度緩和的放射線治療・核医学治療に精通し、各地域で放射線治療を担う人材養成コース) 1件 (遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース) 3件 (がんサバイバーシップケアを担うリハビリテーションスタッフの養成コース) 2件</p> <p>三重大学</p> <p>放射線治療医コース:令和6年度1件 小児科:令和5年度2件(教員、同プロトコルを令和6年度も引き続き行っている) 看護師養成コース:令和6年度1件 緩和ケアコース:令和6年度1件</p>		令和5年度	令和6年度	計	京都大学	0	6	6	三重大学	2	4	6	滋賀医科大学	0	1	1	大阪医科薬科大学	0	3	3	計	2	14	16
	令和5年度	令和6年度	計																								
京都大学	0	6	6																								
三重大学	2	4	6																								
滋賀医科大学	0	1	1																								
大阪医科薬科大学	0	3	3																								
計	2	14	16																								

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和5-6年度 取組状況等																												
		滋賀医科大学	令和5年度プロトコル(臨床研究実施計画書等)作成件数:0件 令和6年度プロトコル(臨床研究実施計画書等)作成件数:福井里佳1件																												
		大阪医科薬科大学	3件																												
13		コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数	(資料10)国際学会、英文誌への発表一覧																												
			<p>令和5-6年度取組状況</p> <p>コース履修生養成にあたって、コース履修生自身による「教育研究成果の発表」は、最も重要なものと考えており、がん医療のグローバル展開を見据え、英文による教育研究成果発表を推進している。これにより、履修生の教育研究意欲の向上を図った。拠点全体として、44件の国際学会、英文誌への発表を行った。</p> <p>コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>京都大学</td> <td>3</td> <td>20</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>14</td> <td>6</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>大阪医科薬科大学</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>京都薬科大学</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>18</td> <td>26</td> <td>44</td> </tr> </tbody> </table> <p>各大学における令和5-6年度取組状況</p> <p>京都大学 コース履修生の海外における研究成果の発表を支援するため、「養成管理委員会」において、国際学会等への積極的な参加を推進するための支援経費を確保(研究科長裁量経費)して発表推進への体制を構築している。 <令和5年度> 英文研究発表件数3件(学会発表2件、論文発表1件) <令和6年度> 英文研究発表件数20件(学会発表12件、論文発表8件)(うち研究科長裁量経費支援者1名)</p> <p>三重大学 該当なし</p> <p>滋賀医科大学 令和5年度国際学会、英文誌への研究論文発表数:14件 令和6年度国際学会、英文誌への研究論文発表数:6件</p> <p>大阪医科薬科大学 1件</p> <p>京都薬科大学 該当なし</p>		令和5年度	令和6年度	計	京都大学	3	20	23	三重大学	0	0	0	滋賀医科大学	14	6	20	大阪医科薬科大学	1	0	1	京都薬科大学	0	0	0	計	18	26	44
	令和5年度	令和6年度	計																												
京都大学	3	20	23																												
三重大学	0	0	0																												
滋賀医科大学	14	6	20																												
大阪医科薬科大学	1	0	1																												
京都薬科大学	0	0	0																												
計	18	26	44																												
14		コース履修者の国内学会、和文誌への研究論文発表数	(資料11)国内学会、雑誌等への発表一覧																												
			<p>令和5-6年度取組状況</p> <p>コース履修生養成にあたって、コース履修生自身による「教育研究成果の発表」は、最も重要なものと考えており、国内学会・和文誌での研究発表を推進させるため、指導教員の推薦の下、論文名、国内学会・和文誌名、研究成果等を記載させ、国内学会・和文誌への発表を推し進めている。これにより、履修生の教育研究意欲の向上を図った。拠点全体として、117件の国内学会、和文誌への発表があった。</p> <p>コース履修者の国内学会、和文誌への研究論文発表数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>京都大学</td> <td>13</td> <td>16</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>1</td> <td>8</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>37</td> <td>26</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>大阪医科薬科大学</td> <td>4</td> <td>11</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>京都薬科大学</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>55</td> <td>62</td> <td>117</td> </tr> </tbody> </table> <p>各大学における令和5-6年度取組状況</p> <p>京都大学 コース履修生の国内における研究成果の発表を支援するため、「養成管理委員会」において、国内学会等への積極的な参加を推進するための支援経費を確保(研究科長裁量経費)して発表推進への体制を構築している。 <令和5年度> 研究発表件数13件(学会発表13件) <令和6年度> 研究発表件数16件(学会発表16件)</p> <p>三重大学 放射線治療医コース:国内発表令和6年度1件 緩和ケアコース:令和5年度1件、令和6年度1件 ゲノム情報を活用したがん診療に従事する人材養成コース:令和6年度6件</p>		令和5年度	令和6年度	計	京都大学	13	16	29	三重大学	1	8	9	滋賀医科大学	37	26	63	大阪医科薬科大学	4	11	15	京都薬科大学	0	1	1	計	55	62	117
	令和5年度	令和6年度	計																												
京都大学	13	16	29																												
三重大学	1	8	9																												
滋賀医科大学	37	26	63																												
大阪医科薬科大学	4	11	15																												
京都薬科大学	0	1	1																												
計	55	62	117																												

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和5-6年度 取組状況等
		滋賀医科大学	令和5年度国内学会、和文誌への研究論文発表数:37件 令和6年度国内学会、和文誌への研究論文発表数:26件
		大阪医科薬科大学	コース履修生の国内学会発表数13件、和文誌への研究論文投稿数2件
		京都薬科大学	各大学院生を直接指導している教授が熱意をもって研究指導にあたり、学会での成果発表を促している。 <令和5年度> なし <令和6年度> 国内学会研究会発表 1件(うち筆頭 1件)
15		コース履修者の国際学会等への参加者数	(資料12)海外学会・シンポジウム等参加状況
			令和5-6年度取組状況 がん医療のグローバル展開を見据え、国際学会等へのコース履修生の参加を推進しており、拠点全体として、令和5年度4名、令和6年度2名の参加者となった。
			各大学における令和5-6年度取組状況
		京都大学	コース履修生の海外における研究成果の発表を支援するため、「養成管理委員会」において、国際学会等への積極的な参加を推進するための支援経費を確保(研究科長裁量経費)して、発表推進への体制を構築している。令和6年度においては、4名(第3期コース履修生)の支援を行った。 <令和5年度> 国際学会等への参加者数1名 <令和6年度> 国際学会等への参加者数1名
		三重大学	放射線治療医コース:0名 看護師養成コース:令和6年度国際学会等への参加1人
		滋賀医科大学	令和5年度国際学会参加数:3件 令和6年度国際学会参加数:0件
		大阪医科薬科大学	国際学会等への参加者数 0人
		京都薬科大学	該当なし
16		コース履修者の国内学会等への参加者数	(資料13)国内学会・シンポジウム等参加状況
			令和5-6年度取組状況 がんブロ履修生が専門的知識を収集できる国内主要学会への積極的な学会参加を推進しており、拠点全体として、令和5年度55名、令和6年度89名の参加者となった。
			各大学における令和5-6年度取組状況
		京都大学	コース履修生の国内における研究成果の発表を支援するため、「養成管理委員会」において、国内学会等への積極的な参加を推進するための支援経費を確保(研究科長裁量経費)して発表推進への体制を構築している。令和6年度においては、4名(第3期コース履修生1名を含む)の支援を行った。 <令和5年度> 国内学会等への参加者数 10名 <令和6年度> 国内学会等への参加者数 16名 (うち研究科長裁量経費支援者2名) (病理医養成コース)第70回日本病理学会秋期特別総会参加 1名 R6.11.7-8
		三重大学	放射線治療医コース:1名 看護師養成コース:国内学会等への参加1人(3件) ゲノム情報を活用したがん診療に従事する人材養成コース(インテンシブ)の履修生2名が、日本遺伝性腫瘍学会ならびに日本人類遺伝学会での国内発表を行ったほか、うち1名は日本癌治療学会のワークショップにて発表を行った。 緩和ケアコース:令和5年度参加1名(1件)、令和6年度参加1名(4件)
		滋賀医科大学	令和5年度国内学会参加者数:36件 令和6年度国内学会参加者数:31件
		大阪医科薬科大学	コース履修生の国内学会への参加者数は13人(医:8・薬:1・看4)
		京都薬科大学	<令和6年度> 国内学会等への参加数 3名

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和5-6年度 取組状況等																																																							
【シンポジウムやセミナー等の実施】																																																										
17	地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組件数、参加者数		(資料5)セミナー・シンポジウム等の開催状況 (資料6)インテンシブコース実施事業																																																							
事業期間中(6年間) 達成目標																																																										
<p><令和5年度> シンポジウム/フォーラム 1回</p> <p><令和6年度～令和10年度> シンポジウム/フォーラム 2回(100名程度の参加者)、専門家向けセミナー15回以上、市民向けセミナー10回以上実施</p>																																																										
シンポジウム・セミナー等の開催状況																																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">令和5年度</th> <th colspan="2">令和6年度</th> <th colspan="2">計</th> </tr> <tr> <th>開催数</th> <th>参加者</th> <th>開催数</th> <th>参加者</th> <th>開催数</th> <th>参加者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>京都大学</td> <td>8</td> <td>983</td> <td>6</td> <td>511</td> <td>14</td> <td>1,494</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>17</td> <td>1,144</td> <td>13</td> <td>440</td> <td>30</td> <td>1,584</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>15</td> <td>6,344</td> <td>12</td> <td>802</td> <td>27</td> <td>7,146</td> </tr> <tr> <td>大阪医科薬科大学</td> <td>14</td> <td>1,010</td> <td>11</td> <td>985</td> <td>25</td> <td>1,995</td> </tr> <tr> <td>京都薬科大学</td> <td>2</td> <td>253</td> <td>3</td> <td>179</td> <td>5</td> <td>432</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>56</td> <td>9,734</td> <td>45</td> <td>2,917</td> <td>101</td> <td>12,651</td> </tr> </tbody> </table>					令和5年度		令和6年度		計		開催数	参加者	開催数	参加者	開催数	参加者	京都大学	8	983	6	511	14	1,494	三重大学	17	1,144	13	440	30	1,584	滋賀医科大学	15	6,344	12	802	27	7,146	大阪医科薬科大学	14	1,010	11	985	25	1,995	京都薬科大学	2	253	3	179	5	432	計	56	9,734	45	2,917	101	12,651
	令和5年度		令和6年度		計																																																					
	開催数	参加者	開催数	参加者	開催数	参加者																																																				
京都大学	8	983	6	511	14	1,494																																																				
三重大学	17	1,144	13	440	30	1,584																																																				
滋賀医科大学	15	6,344	12	802	27	7,146																																																				
大阪医科薬科大学	14	1,010	11	985	25	1,995																																																				
京都薬科大学	2	253	3	179	5	432																																																				
計	56	9,734	45	2,917	101	12,651																																																				
令和5-6年度取組状況																																																										
各種団体(地域医療機関、地域医師会、調剤薬局、薬剤師会、患者団体等)との連携した取り組みを推進した。																																																										
各大学における令和5-6年度取組状況																																																										
京都大学	<p>(高精度緩和的放射線治療・核医学治療に精通し、各地域で放射線治療を担う人材養成コース) 市中病院を対象に、より有用性の高い知識と技術の修得を目的としたセミナーを3回開催し、参加施設に対して最新の知見に基づいた放射線治療法を提示した。 令和5年9月2日 第55回京都放射線腫瘍研究会 87名 令和6年2月17日 第56回京都放射線腫瘍研究会 81名 令和6年9月21日 第57回京都放射線腫瘍研究会 93名</p> <p>(放射線治療で顕在化している課題に対応する医学物理士養成コース) 市中病院を対象に、より有用性の高い知識と技術の修得を目的としたセミナーを3回開催し、参加施設に対して最新の知見に基づいた放射線治療法を提示した。 令和5年9月2日第55回京都放射線腫瘍研究会87名 令和6年2月17日第56回京都放射線腫瘍研究会81名 令和6年9月21日第57回京都放射線腫瘍研究会93名</p> <p>(遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース) 婦人科がんのサポーターケアに関する研究会を立ち上げて開催した。 2024年10月13日、第2回婦人科がんサポーター研究会、共催:婦人科がんサポーター研究会、京都婦人科医会、JGOG。 参加者:約70名 学内外の臨床遺伝専門医の専攻医に対する学習機会の提供として、ロールプレイ勉強会を年2回行っている。</p> <p>(がんサバイバーシップケアを担うリハビリテーションスタッフの養成コース) 令和6年3月16日(土)に、一般市民、患者・家族、医療専門職を対象とした、がんリハビリテーション特別講演会 - take the next step -を開催し、学内・学外合わせて計5大学、74名が参加した(対面開催、芝蘭会館)。本講演会は、一般社団法人日本作業療法士協会のSIG主催研修会として認められたものである。</p> <p>(インテンシブコース・新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース) 連携5大学間で実施している定期的な集合研修会において、一部の研修会は連携大学以外にも公開している。カリフォルニア大学アーバイン校のAlexandre Chan先生を招聘した講演会においては、連携大学以外に23施設の大学・病院・薬局からの参加があった。</p>																																																									
三重大学	三重県内におけるがんゲノム医療情報提供を行うWEB説明会を2024年6月に開催した。																																																									
滋賀医科大学	令和5年度 シンポジウム/セミナー15回 令和6年度 シンポジウム/セミナー14回(予定2回含む)																																																									
大阪医科薬科大学	<p>・大阪医科薬科大学大学院 医学研究科 がんプロフェッショナル養成プラン主催セミナー 参加者数(2023・5回:244名、2024・2回:56名) ※2024のうち1回は病理セミナーと共催のため人数含まず ・緩和ケアセンター勉強会 参加者数(2023・2回:112名、2024・2回:106名) ・三島圏域がん研究会 参加者数(2023・1回:69名、2024・2回:264名) ・第4回三島医療圏がん診療連携拠点病院合同市民公開セミナー 参加者数(2024:155名) ・三島医療圏・中河内医療圏がん登録部会実務者研修会 参加者数(2023:172名、2024:250名) ・がん患者学会2023 参加者数:二日間延べ164名 ・JSCSフォーラム2024 参加者数:82名 ・大阪医薬大病理セミナー 参加者数(2023:16名、2024:44名)※2024はがんプロセミナー共催 ・OMPU緩和ケアセミナー 参加者数(2023・1回:21名、2024・2回:34名)</p>																																																									
京都薬科大学	該当なし																																																									

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和5-6年度 取組状況等																																																				
	18	社会への情報発信の取組実績(一般向け講演会の開催回数・参加者数)	(資料5)セミナー・シンポジウム等の開催状況																																																				
			<p>令和5-6年度取組状況 社会への情報発信の取組事業として、別添資料「セミナー・シンポジウム等の開催状況(令和5-6年度)」のとおり推進した。</p> <p>シンポジウム・セミナー等の開催状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">令和5年度</th> <th colspan="2">令和6年度</th> <th colspan="2">計</th> </tr> <tr> <th>開催数</th> <th>参加者</th> <th>開催数</th> <th>参加者</th> <th>開催数</th> <th>参加者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>京都大学</td> <td>8</td> <td>983</td> <td>6</td> <td>511</td> <td>14</td> <td>1,494</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>17</td> <td>1,144</td> <td>13</td> <td>440</td> <td>30</td> <td>1,584</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>15</td> <td>6,344</td> <td>12</td> <td>802</td> <td>27</td> <td>7,146</td> </tr> <tr> <td>大阪医科薬科大学</td> <td>14</td> <td>1,010</td> <td>11</td> <td>985</td> <td>25</td> <td>1,995</td> </tr> <tr> <td>京都薬科大学</td> <td>2</td> <td>253</td> <td>3</td> <td>179</td> <td>5</td> <td>432</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>56</td> <td>9,734</td> <td>45</td> <td>2,917</td> <td>101</td> <td>12,651</td> </tr> </tbody> </table> <p>各大学における令和5-6年度取組状況</p> <p>京都大学 京都大学では、社会への情報発信として市民公開講座や各種セミナー等をオンライン開催にて積極的に取り組んでいる。</p> <p>(がんサバイバーシップケアを担うリハビリテーションスタッフの養成コース) 令和6年3月16日(土)に、一般市民、患者・家族、医療専門職を対象とした、がんリハビリテーション特別講演会 - take the next step -を開催し、学内・学外合わせて計5大学、74名が参加した(対面開催、芝蘭会館)。</p> <p>三重大学 令和5年度第3回市民公開講座 令和6年2月10日(土)津リージョンプラザ お城ホール 参加者人数:368名 開催方法:対面 令和6年度 パープルリボン 令和6年度市民公開講座in伊賀 令和6年11月24日(日)サンピア伊賀 白鳳の間 参加者人数:150名 開催方法:対面 令和6年度第4回市民公開講座 令和7年3月1日(土) 三重県総合文化センター中ホール 参加者数:未定(400名) 開催方法:ハイブリッド</p> <p>滋賀医科大学 令和5年度開催回数:8回 令和6年度開催回数:8回</p> <p>大阪医科薬科大学 2023.8.19-20 がん患者学会2023 参加者数:二日間延べ164名 2023.2.14 第4回 大阪医科薬科大学大学院 医学研究科がんプロセミナー 参加者数:60名 2023.11.25 第10回 市民公開セミナー 参加者数:100名 2024.11.16 第4回 三島医療圏がん診療拠点病院合同市民公開セミナー 参加者数:155名 2025.1.25 第11回 市民公開セミナー(予定)</p> <p>京都薬科大学 <令和5年度> 次世代のがん医療を担う人材育成プログラム特別講演会(1月29日、2月15日):参加者253名 <令和6年度> 次世代のがん医療を担う人材育成プログラム特別講演会(6月28日):参加者91名 公開講座(11月24日):参加者45名</p>		令和5年度		令和6年度		計		開催数	参加者	開催数	参加者	開催数	参加者	京都大学	8	983	6	511	14	1,494	三重大学	17	1,144	13	440	30	1,584	滋賀医科大学	15	6,344	12	802	27	7,146	大阪医科薬科大学	14	1,010	11	985	25	1,995	京都薬科大学	2	253	3	179	5	432	計	56	9,734	45
	令和5年度		令和6年度		計																																																		
	開催数	参加者	開催数	参加者	開催数	参加者																																																	
京都大学	8	983	6	511	14	1,494																																																	
三重大学	17	1,144	13	440	30	1,584																																																	
滋賀医科大学	15	6,344	12	802	27	7,146																																																	
大阪医科薬科大学	14	1,010	11	985	25	1,995																																																	
京都薬科大学	2	253	3	179	5	432																																																	
計	56	9,734	45	2,917	101	12,651																																																	
	19	インテンシブ事業を活用した地域医療貢献の推進状況	(資料6)インテンシブコース実施事業																																																				
			<p>令和5-6年度取組状況 インテンシブ事業を活用して、研修会やセミナー、エキスパートパネル、カンファレンス等を開催し、継続して地域医療への貢献を推進している。</p> <p>京都大学 (放射線治療で顕在化している課題に対応する医学物理士養成コース) ・京都放射線腫瘍研究会プログラムを年2回実施 (令和5年9月2日、令和6年2月17日、令和6年9月21日)</p> <p>(インテンシブコース・新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース) 連携5大学間で実施している定期的な集合研修会において、一部の研修会は連携大学以外にも公開している。カリフォルニア大学アーバイン校のAlexandre Chan先生を招聘した講演会においては、連携大学以外に23施設の大学・病院・薬局からの参加があった。</p> <p>三重大学 三重県内におけるがんゲノム医療情報提供を行うWEB説明会を2024年6月に開催し、特に新に保険適用となった薬剤を選択するために必要な検査とそのタイミングについて地域医療機関の医療従事者と共有することにより、地域におけるがんゲノム医療の普及に貢献し、その説明会には履修生も参加した。また臨床遺伝領域においても、毎月第一火曜の午後六時半から開催する遺伝カンファレンスには、県内医療従事者も参加し、履修生も参加し、ともに情報共有を行うことで、遺伝医療のリテラシー向上にも貢献している。</p> <p>滋賀医科大学 令和5年度において、1名がインテンシブコースを受講し、集合研修会にて発表を行い、修了した。令和6年度において、1名がインテンシブコースを受講し、集合研修会にて発表を行っている。また、令和5年度第4回(令和6年度第2回)集合研修会の企画を担当した。</p> <p>大阪医科薬科大学 『第5回集合研修会&薬学研究科 がんプロセミナー』を地域の医療従事者や研究者に向けて開催した。 今後も腫瘍糖尿病病領域とも連携し、地域糖尿病合併がん患者診療におけるニーズを把握し、教育プログラムをブラッシュアップし、地域医療に貢献していく。</p> <p>京都薬科大学 京滋地区医療機関に勤務するインテンシブコース受講生の専門資格のための症例審査等をフォローし認定資格取得に寄与し、地域医療に貢献している。</p>																																																				

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和5-6年度 取組状況等
【がん医療のグローバル展開を見据えた海外の関係機関との連携】			
20	コース履修者の海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み		(資料15)5大学連携海外合同教育セミナー
			<p>令和5-6年度取組状況</p> <p>「事業推進運営委員会」において、国際的な視野を有したがん専門医療人育成のために先端的医療・研究機関等にて研修する制度として「5大学連携海外合同教育セミナー」を企画し、毎年度各大学から履修生を選抜して研修を実施する連携事業の枠組みを構築した。これにより、連携大学間の異なった分野の履修生の人材交流、多職種交流、および先進的医療・研究機関との国際交流を図る。</p> <p><令和5年度> 実施なし</p> <p><令和6年度> 令和7年2月3日～2月4日にソウル大学病院にて5大学連携海外合同教育セミナーを実施する。ソウル大学病院と連携してセミナーおよび施設見学等(がん病院、がん研究センター等)の実践教育を行い、海外の臨床医等とのディスカッションや世界トップレベルの医療体制に触れることで、国際的ながん専門医療従事者としての意識付けを提供する。(拠点全体で、コース履修生8名、教員5名が参加)</p> <p>各大学における令和5-6年度取組状況</p> <p>京都大学 ・「5大学連携海外合同教育セミナー」にコース履修生4名、教員4名が参加する。 ・コース履修生の海外における研究成果の発表を支援するため、「養成管理委員会」において、国際学会等への積極的な参加を推進するための支援経費を確保(研究科長裁量経費)して、発表推進への体制を構築している。令和6年度においては、4名(第3期コース履修生)の支援を行った。</p> <p>三重大学 実績なし</p> <p>滋賀医科大学 該当なし</p> <p>大阪医科薬科大学 学内の国際交流基金の整備を行っており、コース履修生が海外への先進的医療・研究機関等へ研修を希望した場合に、教育研究上必要と認められると、一部助成を行うことができる。 また、がんプロ補助金についても、履修者が海外で開催される学会への出席する際の参加費などの補助に活用し、海外で知見を得る機会を積極的にサポートしている。</p> <p>京都薬科大学 海外での学会等の参加のためのサポート体制は整備されている。コース履修者が希望すれば留学に必要な資金に充当できる、助成金を支給する学内規程(京都薬科大学科学振興基金規程)や、研究成果を発表するための資金を補助する学内規則(京都薬科大学大学院生学会等参加補助金取扱要綱)を整備している。</p>
21	国際交流プログラムの実施数		(資料15)5大学連携海外合同教育セミナー
			<p>令和5-6年度取組状況</p> <p><令和6年度> 5大学連携の国際交流プログラムとして、韓国ソウル大学病院(2025.2.3～2.4)において「5大学連携海外合同教育セミナー」を開催し、コース履修生8名および教員5名を派遣した。</p> <p>各大学における令和5-6年度取組状況</p> <p>京都大学 (放射線治療で顕在化している課題に対応する医学物理士養成コース) 令和6年5月1日にグラスゴーで開催されたGlobal Quality Assurance of Radiation Therapy Clinical Trials Harmonization Groupに出席し、日本臨床腫瘍学グループにおける医学物理士の立場から放射線治療の品質保証・品質管理について議論した。</p> <p>(遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース) 2023年3月30日: マヒドン大学病院の婦人科腫瘍医を招いて、研究交流会を行った。また2023年5月に、マヒドン大学の医学部生1名の臨床見学を受け入れた(2週間)。いずれも本プログラムの学生が主体的に関わった。</p> <p>三重大学 実績なし</p> <p>滋賀医科大学 国際交流として海外協定校から短期留学生を受入れるSUMS Grantを設け、留学生終了後は、滋賀医科大学大学院入学を目指すものとしている。</p> <p>大阪医科薬科大学 医学研究科主催セミナーとして、3回、海外から講師を講師を招聘し、講演をいただいたり、座談会形式で海外での研究の状況について意見交換をする機会をもった。 2023/12/18『がん対策のためのマイクロシミュレーションモデル』参加者数:36名 2024/1/30『Prof. Oginoと話そう! ~海外で研究しませんか?~』参加者数:27名 2024/3/8『英国におけるがんのアウトカムの格差に関する講演会~Persistent inequalities in cancer care and cancer outcomes: what are we doing wrong?~』参加数:64名</p> <p>京都薬科大学 該当なし</p>
22	海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数		
	京都大学		<p>令和5-6年度取組状況</p> <p>(病理医養成コース) ハーバード医科大学病理部教授三野真里先生より「肺癌・膵臓がんに関する病理の講演」R6.7.3</p> <p>(インテンシブコース・新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース) 2回: シンシナティ小児病院水野知行先生、カリフォルニア大学アーバイン校AlexandreChan先生</p>

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和5-6年度 取組状況等
		三重大学	実績なし
		滋賀医科大学	該当なし
		大阪医科薬科大学	医学研究科がんプロが主催しているセミナーで、3回海外から講師を招聘し、講演をしていただいた。 2023/12/18『がん対策のためのマイクロシミュレーションモデル』 Prof. Ruth Etzioni (Fred Hutchinson Cancer Research Center) 2024/3/8『英国におけるがんのアウトカムの格差に関する講演会～Persistent inequalities in cancer care and cancer outcomes: what are we doing wrong?～』 Bernard Rachet教授(ロンドン大学衛生学熱帯医学学校 Inequalities in Cancer Outcome Network (ICON)) 2024/1/30『Prof. Oginoと話そう!～海外で研究しませんか?～』 荻野 周史教授 (Harvard T. H. Chan School of Public Health)
		京都薬科大学	該当なし

【がん医療人材養成拠点間の枠組みを越えた協力体制の構築】

23	がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数	(資料5)セミナー・シンポジウム等の開催状況 (資料6)インテンシブコース実施事業
京都大学	<p>令和5-6年度取組状況</p> <p>(放射線治療で顕在化している課題に対応する医学物理士養成コース) 大阪(令和5年11月)、徳島(令和6年6月)、熊本(令和5年9月、令和6年11月)、北海道(令和6年11月)において、がん診療連携拠点病院、地域医療機関、放射線治療関連団体を対象に放射線治療に関する講演を行った。</p> <p>(がんサバイバーシップケアを担うリハビリテーションスタッフの養成コース) 近畿小児脳腫瘍の家族会・経験者グループ(miracle Brain)や、一般社団法人キャンサーフィットネス、京都乳がんピアサポートサロン～fellows～などの患者・家族会に、学生と共に参加し、企画・運営や患者・家族との対話を通して、地域で暮らすがんサバイバーの視点を取り入れた教育に取り組んだ。</p> <p>(インテンシブコース・新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース) 連携5大学間で実施している定期的な集合研修会において、一部の研修会は連携大学以外にも公開している。カリフォルニア大学アーバイン校のAlexandreChan先生を招聘した講演会においては、連携大学外の7つの大学を含む、23施設の大学・病院・薬局からの参加があった。</p>	
三重大学	<p>○令和5年度 がん診療連携協議会 令和6年3月18日(月) 開催方法:Web 参加者人数:28名、参加機関21 がん相談支援部会:6月27日(20施設、29名)、10月31日(20施設、31名)、1月23日(18施設、29名) 緩和ケア部会:3月5日(14施設、25名) 医科歯科連携部会:12月3日(16施設、27名) 看護部会:5月18日(5施設、8名)、3月5日(4施設7名) ●三重県がんにおける質の高い看護師育成研修:7月20日～8月9日(10施設、12名、実習施設4)、Fu研修:10月18日、1月17日 ●がん患者の意思決定支援～そのひとらしく生きることを支えるJ研修:1月12日(19名) ●アピアランスケア基礎研修:12月2日(土)(15施設、49名) ●アピアランスケア指導者育成研修:2月8日(木)(10施設、22名) ○令和6年度 がん診療連携協議会 令和7年3月10日(月) 開催方法:Web がん相談支援部会:6月27日(20施設、30名)、10月31日(20施設、29名)、1月30日 緩和ケア部会:6月25日(44名、21施設) 医科歯科連携部会:2月6日 看護部会:5月14日(5施設、8名) ●三重県がんにおける質の高い看護師育成研修:7月18日～8月7日(13施設、14名、実習施設4)、Fu研修:10月16日、1月15日 ●がん患者の意思決定支援～そのひとらしく生きることを支えるJ研修:12月11日(31名) ●アピアランスケア基礎研修:11月23日(土)(19施設、27名)</p>	
滋賀医科大学	<p>【先制がん医療を担う薬剤師養成コース】</p> <p>令和5年度 ・第28回滋賀県がん薬物療法conference(R5/7/5:92名) ・第8回滋賀医大「連携充実加算」算定に伴う講演会(R5/9/7:44名) ・FLT3-ITD陽性AMLの新たな治療戦略(R5/9/27:35名)</p> <p>令和6年度 ・第10回 滋賀医大「連携充実加算」算定に伴う講演会(R6/10/3:49名)</p> <p>【複合的がん個別化医療を推進する医療人養成コース】</p> <p>令和5年度 ・「第1回がんを学ぼう市民公開講座(R5/7/24)」/対面12名、オンデマンド70名 ・「第2回がんを学ぼう市民公開講座(R5/8/14)」/対面8名、オンデマンド50名 ・「第3回がんを学ぼう市民公開講座(R5/9/11)」/対面6名、オンデマンド71名 ・「第4回がんを学ぼう市民公開講座(R5/9/29)」/対面3名、オンデマンド58名 ・「第5回がんを学ぼう市民公開講座(R5/11/9)」/対面11名、オンデマンド85名 ・「第6回がんを学ぼう市民公開講座(R5/12/26)」/対面8名、オンデマンド199名 ・「第15回東近江圏がん診療公開講座(R5/11/3)」/対面86名、オンデマンド6322名 ・「第16回東近江圏がん診療公開講座(R6/1/28)」/対面120名、オンデマンド7778名</p> <p>令和6年度 ・「第1回がんを学ぼう市民公開講座(R6/7/5)」/対面2名、オンデマンド112名 ・「第2回がんを学ぼう市民公開講座(R6/8/6)」/対面6名、オンデマンド206名 ・「第3回がんを学ぼう市民公開講座(R6/9/9)」/対面13名、オンデマンド122名 ・「第4回がんを学ぼう市民公開講座(R6/10/4)」/対面9名、オンデマンド82名 ・「第5回がんを学ぼう市民公開講座(R6/11/7)」/対面20名、オンデマンド(配信中) ・「第6回がんを学ぼう市民公開講座(R6/12/9)」/対面8名、オンデマンド(配信準備中) ・「第21回 東近江医療圏がん診療公開講座(R6/9/7)」/対面56名、オンデマンド(配信中) ・「第22回 東近江医療圏がん診療公開講座(R6/11/30)」/対面64名、オンデマンド(配信準備中) ・日本緩和医療学会関西支部学術大会(R6/9/28)」/対面+ondemanndo 426名</p>	

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和5-6年度 取組状況等
		大阪医科薬科大学	<p>・三島医療圏・中河内医療圏がん登録部会実務者研修会 参加者数(2023:172名、2024:250名) ・三島圏域がん研究会 参加者数(2023・1回:69回、2024:2回 264名) ・第4回三島医療圏がん診療連携拠点病院合同市民公開セミナー 参加者数(2024:155名)</p> <p>医療統計学 伊藤准教授が2023/11/27に開催された全国がん登録 都道府県行政担当者研修会で講師を務め、2024年6月の全国がん登録協議会学術集会実務者研修会においても講師を務めた。その他、2次医療圏内のがん拠点病院にがんの臨床倫理で講師を派遣している他、がん教育として、小学校などにも多職種で講師を派遣している。 (令和5年度には2回、令和6年度には7回派遣し、現在、8回目を調整中である。)</p>
		京都薬科大学	病院連携プログラムとして、令和6年度中に「地域がん診療連携拠点病院」で多職種と連携しながら、がん薬物療法における新たなエビデンスを構築できる薬剤師を目指し、学生1名を派遣予定である。
24		多職種連携教育の実施件数・参加者数、多職種連携教育推進の取組み状況	<p>(資料5)セミナー・シンポジウム等の開催状況 (資料6)インテンシブコース実施事業 (資料14)5大学連携学生短期研修プログラム (資料15)5大学連携海外合同教育セミナー (資料16)5大学連携医療フォーラム</p> <p>令和5-6年度取組状況 多職種連携教育として、5大学が連携して次の取り組みを行った。</p> <p>1)「5大学連携学生短期研修プログラム」 <令和5年度> 実施なし <令和6年度> 本プログラムは、実践教育として、コース履修生を選抜して、5大学が連携して実施する合同研修で、令和6年度は、京都薬科大学を主幹校として、令和6年10月10日～11日に京都薬科大学(1日目)及び京都大学医学部附属病院(2日目)において実施した。1日目は16名が参加し、全体研修として、研究者による講演「難治性がんに対する新しい治療薬の創出をめざして」及び元がん患者の視点での講演「小児がんを経験して」の2つの講演を行った。続いて、次世代のがんプロフェッショナル医療人として、多職種や領域横断的な連携ができる関係性の構築や気づき・発見の場となることを目的に、研究交流フォーラム(ポスター発表)実施した。2日目は、12名が参加し、グループに分かれて多職種が協働する医療現場の見学等を行い、まとめとして研修内容の発表を行った。医師、薬剤師、作業療法士と多岐にわたる参加履修生のがんプロ教育を受けるための共通意識の向上を図るもので、研修後に実施したアンケート、報告書においても高評価を得ている。</p> <p>2)「5大学連携海外合同教育セミナー」 <令和5年度> 実施なし <令和6年度> 本セミナーは、実践教育として、国際的な視野を有したがん専門医療人育成のために、コース履修生を選抜して、先端的医療・研究機関等にて研修(実践教育)を行うもので、令和7年2月3日～2月4日にソウル大学病院と連携してソウル大学病院(がん病院、がん研究センター等)にて実施した。海外の臨床医等とのディスカッションや世界トップレベルの医療体制に触れることで、国際的ながん専門医療従事者としての意識付けを提供し、かつ連携大学間の異なった分野の履修生の人材交流、多職種交流、および先進的医療・研究機関との国際交流を図る。</p> <p>3)「5大学連携医療フォーラム」 連携する5大学の医療関係従事者、教育研究者、学生を対象に開催。 <令和5年度> 令和6年1月28日に京都大学を主幹校としてがんプロのキックオフイベントとして京都大学芝蘭会館にてハイブリットにより開催した。令和5年度の「5大学連携医療フォーラム」は、全国がんプロ協議会顧問による講演、拠点連携校の各代表が自校の取り組みを紹介、また、新しく開講した5大学連携インテンシブコースである薬剤師養成コースについてのパネルディスカッションを行った。(会場参加36名、オンライン参加47名、計83名参加) <令和6年度> 令和7年1月10日に三重大学を主幹校として京都大学芝蘭会館にてハイブリットにより開催。 第1部「各大学の取り組みと成果報告」、II部「5大学連携薬剤師養成インテンシブコースについて」、III部「特別講演」を実施。</p> <p>各大学における令和5-6年度取組状況</p> <p>京都大学 (高精度緩和的放射線治療・核医学治療に精通し、各地域で放射線治療を担う人材養成コース) 年に数回、病棟看護師、外来看護師、各科研修医向けの放射線治療に関する勉強会・レクチャーを開催している。各参加者は、10名～20名程度。 さらに年に2回、医師、医学物理士、診療放射線技師対象の研究会を行っている。 令和5年9月2日 第55回京都放射線腫瘍研究会 87名 令和6年2月17日 第56回京都放射線腫瘍研究会 81名 令和6年9月21日 第57回京都放射線腫瘍研究会 93名</p> <p>(放射線治療で顕在化している課題に対応する医学物理士養成コース) 京都大学工学研究科授業「放射線治療計画・計測学実習」「医学物理学」 本コースの教員は、医学物理士の人材養成を図ると共に、医学物理士が効率的に活用できる放射線治療装置の研究者・技師養成のため、工学研究科生命・医工融合分野にて放射線治療の臨床現場で生じた様々な問題に対処し、高精度放射線治療を実現するため装置の性能、照射精度、治療品質を維持管理するための手法を学習できる授業を提供しており、診療放射線関連の研究者、技師養成を行っている。(参加者数:どちらも1名)</p> <p>(遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース) 婦人科がんのサポーターケアに関する研究会を立ち上げて開催した。 2024年10月13日、第2回婦人科がんサポーター研究会、共催:婦人科がんサポーター研究会、京都婦人科医会、JGOG。 参加者:約70名</p>

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和5-6年度 取組状況等
			(がんサバイバーシップケアを担うリハビリテーションスタッフの養成コース) 履修者が専門性に応じて、京都大学医学部附属病院や所属施設(京都桂病院)で実際がん患者のリハビリテーション治療に携わり、各がん種ごとの合同カンファレンスやカンファレンスへの参加を通して、多職種連携教育に取り組んだ。
		三重大学	令和5年度 早期からの緩和ケアを考える会(1回、62人) 緩和ケアセミナー(3回、291人) がんチーム医療研究会(1回、28人) がん医療に見られる認知機能障害〜気づく・評価する・支援する〜(1回、53人) 三重がん放射線治療研究会(1回、267人) 令和6年度 早期からの緩和ケアを考える会(1回、31人) 緩和ケアセミナー(1回、75人)
		滋賀医科大学	令和5年度:滋賀県に各種の医療職を輩出している学外施設(京都薬科大学、摂南大学、大阪医科薬科大学、立命館大学、同志社女子大学、大谷大学)からの学生・研修生・大学院生の受け入れを厳重なコロナウイルス感染症対策下に行い、附属病院腫瘍センター化学療法室で計31名にがん薬物療法の研修を実施した(合計指導時間 279時間)。また、腫瘍センター緩和ケアチームで学外施設(京都薬科大学、摂南大学、大阪医科薬科大学、立命館大学、同志社女子大学、大谷大学)からの学生・研修生の受け入れを行い、計31名にがん緩和ケアの研修を実施した(合計指導時間47時間)。さらに、京都薬科大学大学院生1名に延べ42日間のがん医療実習を実施し、彦根市立病院化学療法室スタッフ4名(医師1名、看護師2名、薬剤師1名)に通院治療センター施設研修(1日)を実施した。また、がん看護研修(基礎編、演習編)で看護師110名にがん医療に関わる研修を実施した(合計10回)
		大阪医科薬科大学	がん医療総合センターで多職種が参加する会議(キャンサーボード)開催している。 また、各研究科毎にセミナーを開催し、多職種で教育を受けられる機会を設けている。
		京都薬科大学	令和6年度には実施には至らなかったが、主に「がん患者のQOL向上および終末期医療を担う人材養成コース」の「地域在宅医療プログラム」研修として、少子高齢化、医療従事者の枯渇や偏在、広大な医療圏など課題を抱えている地域で基幹病院や保険薬局、他の医療従事者などとの連携した終末期医療の実習について調整中である。
25		がん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会等の実施状況	
		京都大学	令和5-6年度取組状況 <令和5年度> ・第1回緩和ケア(PEACE)研修会(対面開催) 2023年9月12日 13名参加 ・第1回ELNEC-J研修会(他院と合同開催)(WEB開催) 2023年10月14~15日 53名参加 ・第2回ELNEC-J研修会(京大単独開催)(対面開催) 2024年1月13~14日 18名参加 <令和6年度> ・第1回緩和ケア(PEACE)研修会(対面開催) 2024年9月7日 26名参加 ・第1回ELNEC-J研修会(他院と合同開催)(WEB開催) 2024年10月26~27日 70名参加 ・第2回ELNEC-J研修会(京大単独開催)(対面開催) 2025年1月18~19日 19名参加 緩和医療科の初期研修医に対して1か月間の研修期間中に3回の講義を実施 <令和5年度> 7名 <令和6年度> 10名
		三重大学	緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会として、①緩和ケアセミナー(令和5年10月20日、令和6年1月25日、令和6年10月24日開催) ②患者の意向を反映した意思決定のための研修会(令和6年8月25日) ③対人援助スピリチュアルケア研修(令和6年1月28日・2月11日・28日の3日間、令和6年11月17日・12月1日・15日の3日間)を開催している。
		滋賀医科大学	腫瘍センター講演会6回
		大阪医科薬科大学	主催でのフォローアップ研修はないが、大阪府実施分を案内し、受講している。
26		各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進	
		京都大学	令和5-6年度取組状況 <令和5年度> がんチーム医療研修(1回)(医師・看護師・薬剤師 20名参加) 京都放射線腫瘍研究会(2回)(医師・看護師・診療放射線技師 168名参加) <令和6年度> 京都放射線腫瘍研究会(2回(うち1回予定))(医療従事者193名参加(うち100名予定))
		三重大学	第6回三重がん放射線治療研究会を令和6年3月9日に行い、放射線治療医、放射線技師、看護師を対象としたチーム医療の推進を行った。
		滋賀医科大学	【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 ・帝京大学がんセンターに講師を派遣し、人材交流を行っている
		大阪医科薬科大学	がん医療総合センターは、化学療法センターや放射線治療センター、緩和ケアセンターなどのがん診療部門で構成されており、各部門で随時研修可能な体制を構築している。また、キャンサーボードや骨転移キャンサーボード、臓器別のカンファレンスにて、多診療科による議論を通じてチーム医療の研修を推進している。
		京都薬科大学	該当なし

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和5-6年度 取組状況等
【事業の運営体制(実施、評価、連携)】			
27	連携5大学での事業責任体制、各大学の取り組み事業の実施体制		<p>令和5-6年度取組状況</p> <p>事業の運営体制</p> <p>【事業推進運営委員会】・・・連携5大学間 連携する5大学の事業を効果的に推進させ、事業の責任体制を明確にするため、事業責任者、連携大学担当コーディネータを配置し、事業推進責任者が招集して事業の企画立案・実施・評価の決定を行う。 (構成員) 事業推進責任者、連携大学担当コーディネーター、事業推進運営委員会委員</p> <p>【養成管理委員会等】・・・各大学 各大学において、事業の実施に向けての現実的な取組を決定 (構成員) 大学担当コーディネーター、コースコーディネーター、事務局担当者</p> <p>各大学における令和5-6年度取組状況</p> <p>京都大学 令和5-6年度取組状況</p> <p>事業の運営体制</p> <p>【事業推進運営委員会】・・・連携5大学間 連携する5大学の事業を効果的に推進させ、事業の責任体制を明確にするため、事業責任者、連携大学担当コーディネータを配置し、事業推進責任者が招集して事業の企画立案・実施・評価の決定を行う。 (構成員) 事業推進責任者、連携大学担当コーディネーター、事業推進運営委員会委員</p> <p>【養成管理委員会】 京都大学において、事業の実施に向けての現実的な取組を決定 (構成員) 大学担当コーディネーター、コースコーディネーター、事務局担当者</p> <p>三重大学 5大学連携事業推進運営委員会が令和5年7月19日に令和5年度第1回、令和6年6月26日に令和6年度第1回、令和6年11月14日に令和6年度第2回され、いずれの回も教員1名、事務1名が参加した。また、令和7年2月～3月開催予定である令和6年度第3回にも参加予定である。</p> <p>滋賀医科大学 連携5大学で構成される事業推進運営委員会等を通じて、事業に関する情報収集と連携を行っている。 学内では学生課大学院教育支援係の支援の下、臨床腫瘍学講座が事業コーディネータと統括を行い、同講座、外科学講座、小児科学講座、放射線医学講座、薬剤部が各大学院コースを担当している。適宜、対面・メールでの学内がんプロ運営会議を開催し、進捗の把握、評価、今後の方策を決定している。毎年1回、大学執行部に学内補填の審査と評価を受けている。</p> <p>大阪医科薬科大学 年2回事業推進運営委員会に参加し、各校との情報共有、海外セミナーや5大学短期研修、医療シンポジウムの開催を行うことなどを決定している。 学内では各コースの責任者で構成した運営委員会を立ち上げ、連携している大学の活動状況の報告や各研究科毎の意見交換や大学の活動について検討をしている。学内の運営委員会での決定事項やがんプロ全体の活動については、医学研究科教授会において報告し、学内全体への活動状況の周知を行っている。</p> <p>京都薬科大学 事業責任者が招集する事業推進運営委員会に出席し、事業の企画立案・実施・評価(外部評価を含む。)の決定事項を情報収集する。 京都薬科大学内では大学院教育検討委員会ががんプロ学外研修プログラムの適切性を審議、決定している。</p>
28	外部委員による外部評価を実施し、PDCAサイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを行う体制になっているか		<p>令和5-6年度取組状況</p> <p>【外部評価委員会】 外部有識者を評価委員として外部評価を実施し、PDCAサイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを行う体制を構築しており、令和6年度は、令和5年度と令和6年度の事業期間の外部評価を実施する。</p>
29	連携5大学による「合同フォーラム」の開催状況		<p>(資料16)5大学連携医療フォーラム</p> <p>令和5-6年度取組状況</p> <p><令和5年度> キックオフイベントとして「5大学連携医療フォーラム」を令和6年1月28日(日)にハイブリット開催した。拠点連携校の各代表が自校の取り組みを紹介し、新しく開講した5大学連携インテンシブコースである薬剤師養成コースについてのパネルディスカッションを行った。全国がんプロ協議会顧問の松浦先生より、がんプロの歴史についてのご講演もあり、新規事業開始にあたり、拠点関係者が対面で集うことで改めて意思統一を行い、キックオフに相応しいイベントとなった。(会場参加36名、オンライン参加47名、計83名参加) 当日のフォーラムでの報告内容は、ホームページにてオンデマンド配信し、広く一般社会に向けて公開している。 https://ganpro.med.kyoto-u.ac.jp/forum/event240128</p> <p><令和6年度> 令和7年1月10日に三重大学を主幹校として京都大学芝蘭会館にてハイブリットにより開催。 第I部「各大学の取り組みと成果報告」、II部「5大学連携薬剤師養成インテンシブコースについて」、III部「特別講演」を実施。</p>

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和5-6年度 取組状況等
	30	連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数	<p>令和5-6年度取組状況</p> <p><令和5年度> 連携する5大学の事業を効果的に推進するために、「5大学連携事業推進運営委員会」を1回(R5.7.19)開催した。</p> <p><令和6年度> 連携する5大学の事業を効果的に推進するために、「5大学連携事業推進運営委員会」を3回(R6.6.26、R611.14、R7.3月頃開催予定)開催した。 また、大学間の人材交流、多職種交流を目的として「5大学学生短期研修プログラム」(R6.10.10-11)を京都薬科大学及び京都大学医学部附属病院で実施、「5大学連携医療フォーラム」(R7.1.10)を京都大学芝蘭会館にてハイブリット開催、「5大学連携海外合同教育セミナー」(R7.2.3-4)を韓国ソウル大学病院にて実施した。 さらに、他拠点が開催するシンポジウム等については、コース履修生への参加案内を積極的に行った。</p> <p>各大学における令和5-6年度取組状況</p> <p>京都大学 (遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース) 5大学連携医療フォーラムに参加した。</p> <p>(がんサバイバーシップケアを担うリハビリテーションスタッフの養成コース) 令和6年9月27日(金)に、関西がんのリハビリテーション研究会主催の第25回関西がんのリハビリテーション研究会を共催し、計131名が参加した(Web)。</p> <p>(インテンシブコース・新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース) 連携5大学間での年6回の定期的な集合研修会や研究発表会を通じて、薬学領域における連携を強化する体制を構築した。</p> <p>三重大学 令和5年度 5大学連携医療フォーラム(令和6年1月28日)に教員1名がパネリストとして参加した。 令和6年度 5大学学生短期研修プログラム(令和6年10月10日-11日)にがんプロ履修生が2名参加した。 5大学連携医療フォーラム(令和7年1月10開催予定)がはんプロは履修生1名が研究成果発表を行う予定であり、教員1名が特別講演を実施する予定である。 5大学連携海外合同教育セミナー(令和7年2月2日-4日)にがんプロ履修生1名および教員1名が参加予定である。</p> <p>滋賀医科大学 本事業の後援で日本緩和医療学会関西支部学術大会を開催し、京都大学、大阪医科薬科大学から実行委員や講師を招聘し人材育成に関して連携の推進を図った。</p> <p>大阪医科薬科大学 令和5年度 5大学連携医療フォーラムではコーディネーターが本学のコースについて紹介し、薬学研究科の教員がディスカッションに参加した。令和6年度の5大学連携医療フォーラムでは履修者1名が発表を行う予定。 令和6年度 5大学連携学生短期研修プログラムでは本学から履修生3名、教員1名が参加させていただいた。連携する他大学の履修生との交流をしたことで、多くの刺激を受け、いろいろな学びを得る機会となった。 2月に開催される5大学連携海外教育セミナーでは本学から履修生2名、教員1名が参加予定で、与えていただいた機会をより良い経験につなげられるようにしたいと意気込んでいる。 医学研究科がんプロ主催のがんプロセミナーでは毎回、連携大学のみならず、全国の大学や医療機関からもWEBを通じて参加していただいている。</p> <p>京都薬科大学 令和6年度 5大学学生短期研修プログラム(R6.10.10-10.11)を当番校として開催し、がんプロ履修生4名が参加した。 令和6年度 5大学連携海外合同教育セミナー(R7.2.2-4)に学生1名が参加予定。 5大学連携薬剤師養成インテンシブコースではインテンシブコース受講者2名が参加し、それぞれ発表を行った。また、インテンシブコース集合研修会を受講生以外にも案内し、受講生以外の大学院生や教員も参加している。</p>
	31	連携5大学 コース履修者の e-learning 受講登録率	<p>令和5-6年度 取組状況</p> <p>京都大学 京都大学版e-learningは、ホームページにて受講者募集の案内をしており、受講対象者は、京都大学と連携大学のコース履修生に加え、次の者が受講登録することができる。 1)京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科薬科大学、京都薬科大学とその附属病院等に在籍する医療関係者 2)がん診療を専門とする事を志望する上記各大学の学生 3)本事務局が上記の趣旨に適合すると判断した方</p> <p>e-learningコース履修生受講登録者内訳は以下のとおり</p> <p><令和5年度> ・新規申請登録者8名 学生以外の医療関係者の令和5年度新規申請は、6名の受講登録があった。</p> <p><令和6年度> ・新規申請登録者21名学生以外の医療関係者の令和6年度新規申請は、4名の受講登録があった。</p> <p><令和5-6年度>・正規コース履修生の総数49名のうち、受講登録者29名 ・受講登録率拠点全体59% 京都大学89%、23名 連携4大学26%、6名</p> <p>三重大学 実績なし</p>

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和5-6年度 取組状況等
		滋賀医科大学	京都大学版 e-learning へ、がんプロ履修生1名が受講登録し教育活動に活用している。
		大阪医科薬科大学	運営委員会においてコース責任者を通じて、連携5大学のe-learningの受講登録を案内し、受講率の向上を目指している。薬学研究科においてはがんプロ履修生1名が新規登録している。
		京都薬科大学	令和6年度のe-learning登録者数は全がんプロ履修生6名のうち5名が履修登録をしている。今後もアナウンスを継続し、登録者数を増やしていく。
32		新たな e-learning 講義科目の提供の取組みについて	<p>令和5-6年度 取組状況</p> <p>京大拠点では以前より独自のe-learningのシステムを構築し、これまでのがんプロフェッショナル事業に科目として提供してきた。このe-learningは履修対象者、学内者だけでなく、拠点全域の関連医療機関からも受講申請を受け入れている。第4期がんプロ開始にあたり、令和5年度に18科目、令和6年度に1科目を追加し、現在の科目数は、145となっている。</p> <p>講義を担う18名の講師は腫瘍循環器学、腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学、ゲノム医療、免疫チェックポイント阻害薬の有害事象、CAR-T療法の専門家であり、各講義を連携校間で共有し、最先端の臨床研究を受講生に届けることができるようになった。</p> <p><新規提供科目></p> <ul style="list-style-type: none"> 「Cardio-oncology腫瘍循環器【心筋症】」京都大学川口展子特定助教 「Cardio-oncology腫瘍循環器【免疫チェックポイント阻害薬による心血管系有害事象】」京都大学村上孝作特定准教授 「Cardio-oncology腫瘍循環器【放射線性心障害】」京都大学岸徳子特定助教 「Cardio-oncology腫瘍循環器【はじめに】」京都大学尾野亘教授 「Cardio-oncology腫瘍循環器【その他】」京都大学加藤恵理特定病院助教 「Cardio-oncology腫瘍循環器【血栓症】」京都大学山下侑吾助教 「Overview of OncoNephrology」京都大学柳田素子教授 「血液透析患者のOnconeurology」京都大学松原雄講師 「腎機能の評価と薬物動態」京都大学中川俊作准教授 「OncoNephrologyとは？～腫瘍内科医の取り組み～」京都大学堀松高博特定講師 「老年腫瘍学各論」京都大学松本繁巳特定教授 「老年腫瘍学(1)」杏林大学長島文夫教授 「がんゲノム医療講義①がん遺伝子パネル検査の実臨床と最近の話題」京都大学松原淳一准教授 「がんゲノム医療講義②臓器横断的分子標的治療」京都大学吉岡正博特定病院助教 「免疫チェックポイント阻害薬の有害事象【総論】」京都大学村上孝作特定准教授 「免疫チェックポイント阻害薬の有害事象【各論】」京都大学白柏魁特特定病院助教 「ALLに対するCAR-T細胞療法」京都大学平松英文講師 「CAR-T細胞療法の基本と悪性リンパ腫における運用」京都大学新井康之助教
33		主幹大学での事業支援事務組織体制	<p>令和5-6年度 取組状況</p> <p>医学研究科事務部教務課にプロジェクトに係る総務的業務、経理的業務、教務的業務と幅広い業務を横断的に支援できる教育推進室を設置して、事業の支援を行っている。</p>
34		がん遺伝子パネル検査実施数	<p>事業期間中(6年間) 達成目標</p> <p>各年600件以上を目標とする。</p> <p>令和5-6年度取組状況</p> <p>京都大学 <令和5年度> 219件 <令和6年度> 183件(12/20現在)</p> <p>三重大学 令和5年度 350件、令和6年度 365件</p> <p>滋賀医科大学 R5-6年度: 270件(見込み)</p> <p>大阪医科薬科大学 がん遺伝子パネル検査実施数 令和5年度 総数70件 (FoundationOne® CDx: 61件 FoundationOne® Liquid CDx: 9件) 令和6年度(令和6年12月20日時点) 総数75件 (FoundationOne® CDx: 64件 FoundationOne® Liquid CDx: 11件)</p> <p>京都薬科大学 該当なし</p>
35		バイオバンクの保存試料数(がん関係)	<p>令和5-6年度取組状況</p> <p>京都大学 <令和5年度> 7,189名分 <令和6年度> 7,792名分 (12/20現在)</p> <p>三重大学 消化器・呼吸器・婦人科を中心とした各種癌に対する血清・血漿・組織を合わせ、約3,000本</p>

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和5-6年度 取組状況等
		滋賀医科大学	2,000件
		大阪医科薬科大学	2024.12.20現在の保存件数(合計) 悪性腫瘍 3,310件(2023年度より166件増) 正常 2,937件(2023年度より295件増) その他 95件(2023年度より1件増)
【事業の普及】			
36	本事業のホームページを開設し、積極的な情報公開を行う体制となっているか		
		京都大学	<p>令和5-6年度 取組状況</p> <p>本がんプロ拠点のホームページのデザインは、令和5年度にサイトデザインを一新し、第3期に引き続き、事業活動の社会への周知、地域医療貢献のために各種フォーラムや公開講座等のイベント活動をホームページに逐次公開しており、社会からのがんプロ活動の理解を頂けるよう発信・充実に努めている。</p> <p>「イベント」欄では、本拠点のイベント活動だけでなく、他拠点の公開講座や近畿地区3拠点とのフォーラム等の開催情報を提供し、他拠点間交流や多職種交流教育にも努め、「活動報告」欄では本拠点の主なプログラムの取組活動を広く情報公開すると共に、「5大学連携医療フォーラム」欄では、当日の講演内容等もオンデマンド配信にて、広く一般の方に向けて視聴提供をしており、積極的な情報公開を促進している。</p> <p>また、「成果報告」欄では、毎年度がんプロ事業活動について学外の外部評価委員による評価結果も含む「外部評価報告書」を公開しがんプロ事業への理解を得ることに努めている。</p> <p>https://ganpro.med.kyoto-u.ac.jp/ 「高度化・多様化するがん医療を担う人材育成」</p>
		三重大学	三重大学大学院のホームページでそれぞれ入学案内を含めた本事業の情報公開を行った。また、がんプロ推奨セミナーの案内をリアルタイムで行い、県内の医療機関の多職種に参加を呼び掛けた。
		滋賀医科大学	令和5年度にサイトデザインを一新し、本学のがんプロホームページから、京都大学拠点事業のホームページへとリンクさせている。また、本学ががんプロホームページには、受入人数・授業科目・養成像や実施したセミナー等を掲載し積極的な情報公開を行っている。
		大阪医科薬科大学	今期より新たに本事業単独のホームページを本学大学院ページに作成し、コースの概要や体制、セミナーの開催情報など、積極的な発信を行っている。また、研究科のWEBサイトや拠点のホームページにおいてもがんプロ講演・セミナーについて情報公開を行い、広報活動を行った。
		京都薬科大学	京都大学がんプロホームページを本学ががんプロホームページにリンクさせている。 本学リンクページ： https://www.kyoto-phu.ac.jp/education_research/cancer20242028/index.html また、公開講座の情報は京都薬科大学トップページの新着情報、本学生涯教育センターなどに積極的に公開している。
37	県内でのがん対策の企画、立案への貢献の取組みについて		
		京都大学	<p>令和5-6年度 取組状況</p> <p><令和5年度> 京都府がん医療戦略推進会議の各部会(院内がん登録部会、相談支援部会、研修部会、緩和ケア部会、看護師研修に関する会議、外来化学療法部会、地域連携部会)に参加し、活動に協力している。(総勢27名が活動中) ※当院は外来化学療法部会と研修部会の事務局を務め、年1回部会を主催している。 ・R5.10.4 外来化学療法部会(緩和ケア部会との合同会議)Web開催 参加人数 60名 ・R6.2.2 研修部会 Web開催 参加人数 26名</p> <p>また、府内で実施している以下の事業に講師派遣する等、府のがん対策の企画立案に積極的に協力している。 ・生命のがん教育推進プロジェクト・・・小中学校や高等学校等でのがんの基本知識に関する授業を行う R5.5.31 同志社中学校 2年生291名 R5.6.23 同志社高等学校 1年生370名 R5.12.5 西京高等学校附属中学校 1・2年生240名 R6.2.15 下鴨小学校 6年生59名 (各回につき、医師1名を講師として派遣)</p> <p>・かかりつけ医(がん対応力)向上研修・・・地域の医師を対象に最新情報等の研修を行う。 本年度は「脳腫瘍」をテーマに医師1名が講演を行った。 R6.3.2(土) WEB講演 参加人数 32名</p> <p>・LCAS研修会(小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会)をWeb開催した。 R6.2.18(日) 受講者は全国施設の医師、看護師、理学療法士、作業療法士、心理士、MSWなど 計49名</p> <p>・令和元年度から小児がん連携病院の指定が始まった関係で、当院の連携病院10施設の現況報告書を取りまとめ、提出した。</p> <p>・R5.9.2 小児がん拠点病院公開シンポジウム(対面開催と後日動画配信) →小児がん拠点病院として京都府、京都府立医科大学附属病院と協働し、開催した。当院より医師1名が講演を行った。 テーマ:ライフステージに応じた支援体制「小児がん治療と妊孕性温存」 会場参加:47名 後日配信:95名</p>

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和5-6年度 取組状況等
			<p><令和6年度> 京都府がん医療戦略推進会議の各部会(院内がん登録部会、相談支援部会、研修部会、緩和ケア部会、看護師研修に関する会議、がん薬物療法部会、地域連携部会)に参加し、活動に協力している。(総勢26名が活動中) ※外来化学療法部会はR6年度よりがん薬物療法部会へ名称変更を行った。 ※当院はがん薬物療法部会と研修部会の事務局を務め、年1回部会を主催している。 ・R6.12.4 がん薬物療法部会 Web開催 参加人数 30名 ・R7.2.12 研修部会 Web開催予定</p> <p>また、府内で実施している以下の事業に講師派遣する等、府のがん対策の企画立案に積極的に協力している。 ・生命のがん教育推進プロジェクト・・・小中学校や高等学校等でのがんの基本知識に関する授業を行う R6.7.9 西野小学校 6年生45名 R6.10.3 山城高等学校 1年生362名 R6.11.26 近衛中学校 1年生122名 (各回につき、医師1名を講師として派遣)</p> <p>・かかりつけ医(がん対応力)向上研修・・・地域の医師を対象に最新情報等の研修を行う。 本年度は「血液腫瘍」をテーマに医師1名が講演を行う予定。 R7.3.29(土) WEB講演(予定)</p> <p>・R6.11.23情報支援研修を京都府立医科大学附属病院と協働してWeb開催した。 受講者は全国施設のがん相談員、看護師など 計23名</p> <p>・令和元年度から小児がん連携病院の指定が始まった関係で、当院の連携病院10施設の現況報告書を取りまとめ、提出した。</p> <p>・R7.3.22 小児がん拠点病院公開シンポジウム(対面開催と後日動画配信)開催予定 一小児がん拠点病院として京都府、京都府立医科大学附属病院と協働し、開催を行う。 当院より医師1名が講演を行う他、看護師1名がパネリストとして参加予定。 テーマ:小児がんの晩期合併症がサバイバーに与える影響とその対策</p> <p>(遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース) 京都府の子宮がん検診委員会の事業内容をサポートしている。</p> <p>三重大学 小児AYA領域においては、県庁関係部署と院内で複数回会議を行い、実際がん対策への企画・立案を行った。</p> <p>滋賀医科大学 滋賀県がん診療連携協議会のすべての部会に職員を委員として派遣しており、県内のがん対策の実行を支援している。また滋賀県がん対策推進協議会に委員を派遣し、「第3期滋賀県がん対策推進基本計画」の推進に取り組んだ。大津市がん対策推進協議会に委員を派遣している。</p> <p>大阪医科薬科大学 大阪府主催のがん診療連携協議会には2024年度は部会も含めて、10回参加しており、2、3月に開催予定の部会にも出席を予定している。(6.19開催 緩和ケア部会、6.21開催 がん登録・情報提供部会、7.22開催 小児・AYA部会、7.24開催 がんゲノム医療推進部会の他、5つの部会と協議会に参加した。)</p> <p>京都薬科大学 該当なし</p>
38	ITを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築の取組み		<p>令和5-6年度 取組状況</p> <p>京都大学 (遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース) 関連病院間でのインターネットアクセス可能なサーバーを開設して、関連病院が京大産婦人科での講義やカンファレンスでの情報共有を図るシステムを利用している。</p> <p>三重大学 三重大学のがんセンターが事務局となり、周辺地域の医療機関とIDリンクによるITを活用した地域医療連携ネットワークを構築し、地域完結型医療を推進した。</p> <p>滋賀医科大学 ・東近江医療圏メーリングリスト、ならびに滋賀県がん診療連携協議会・診療支援部会機関病院メーリングリストを運用し、医療研修に関わる情報を発信した。 ・がん関係の研修・講演会をオンデマンド配信している。 ・大津市、草津市の行政と医療機関と連携して地域緩和ケア連絡会議をオンラインで開催している。</p> <p>大阪医科薬科大学 広域医療連携センター 医療連携室において、Webからの初診予約申込システム「やくばと」の導入 当該システムの導入により、24時間365日申し込みができるようになり、当院と患者間での調整ができるようになったことから、紹介元の医療機関の負担軽減につながった。導入前に比べ、紹介元・患者双方の利便性の向上に寄与した。</p> <p>かかりつけ医検索システム「メディグル」の導入 「エリア」「(標榜している)診療科」「当院の連携先」他「フリーワード」など、条件選択することで医療機関検索が即座に可能であり、どのスタッフが応対しても均一な情報提供サービスが可能となった。また情報も常に最新のものが更新され、患者自身が「いつでも」「どこでも」検索サイトへアクセスすることができるため、利便性への向上へも寄与した。</p>

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和5-6年度 取組状況等
	39	テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上への取組み	<p>令和5-6年度 取組状況</p> <p>京都大学 (遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース) 関連病院間での定期的なテレビ会議システム(Zoom,WebEx)を利用したモーニングレクチャーを開催し、関連病院が京大産婦人科での講義やカンファレンスでの情報共有を図るシステムを利用している。代表的なものとして下記がある。 2024年6月25日第30回「外科医からみた骨盤解剖～経会陰アプローチと骨盤リンパ節郭清～」 2023年4月25日第23回「明日からできる！コルボスコピー」 2023年2月28日第21回「婦人科領域のセンチネルリンパ生検」</p> <p>(がんサバイバーシップケアを担うリハビリテーションスタッフの養成コース) テレビ会議システムを用いてカンファレンス、ミーティングを実施する事で、府内のみならず遠方の研究者、教員と連携して教育、研究を行い、医療の質向上を図っている。</p> <p>三重大学 多職種緩和ケアTVカンファレンスは、県内7病院に加えて令和6年度から1施設を追加し、合計8施設を結んで、毎月開催している。TVカンファレンスでは、各病院・施設で活動するがんプロ修了生であるがん看護専門看護師を中心に、各施設のチームメンバーとともに参加し、対応困難な緩和ケア事例を通して互いに研鑽する機会としている。</p> <p>滋賀医科大学 大津市、草津市の行政と医療機関と連携して地域緩和ケア連絡会議をオンラインで開催している。</p> <p>大阪医科薬科大学 テレビ会議システムではないが、三島圏域がん研究会、三島医療圏・中河内医療圏がん登録部会実務者研修会、がんゲノムエキスパートパネルは多くの方が参加できるWEB会議のシステムを利用して実施している。</p>
	40	がん医療に関係する企業等との共催・連携推進の取組み	<p>令和5-6年度 取組状況</p> <p>京都大学 (高精度緩和的放射線治療・核医学治療に精通し、各地域で放射線治療を担う人材養成コース) ・放射線医学への応用が期待される深層学習を用いた研究開発を、株式会社Ristと共同で行っている。 ・患者間・位相間非線形位置合わせデータベースの開発を、イーグロス株式会社と共同で行っている。 ・放射線照射中の標的位置確認のために用いられるイメージング用画像の画質向上に向けた研究開発を、Varian Medical Systemsと共同で行っている。 ・動体追尾機能、ジナル機構、リング機構などを搭載した国産放射線治療装置の開発を、株式会社日立ハイテクと共同で行っている。</p> <p>(放射線治療で顕在化している課題に対応する医学物理士養成コース) ・放射線照射中の標的位置確認のために用いられるイメージング用画像の画質向上に向けた研究開発を、Varian Medical Systemsと共同で行っている。 ・動体追尾機能、ジナル機構、リング機構などを搭載した国産放射線治療装置の開発を株式会社日立ハイテクと共同で行っている。</p> <p>(遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース) 2023年3月18日産婦人科手術療法・周期期研究会 2023年4月28日婦人科がん患者のQOL向上を目指して。 2024年8月25日「サマークリニカルフォーラム」 2024年10月14日婦人科がんサポーター研究会(第一三共、武田薬品、エーザイ)</p> <p>三重大学 実績なし</p> <p>滋賀医科大学 (複合的がん個別化医療を推進する医療人養成コース) 2023年4月19日:Biwako Pharmacist Seminar 共催:中外製薬株式会社 2024年7月30日:Meet the Expert on Hepatocellular Carcinoma 共催:中外製薬株式会社</p> <p>大阪医科薬科大学 がん患者学会2023、日本計算機統計学会 JSCSフォーラム2024を共催した。 2024.11.20 がんゲノム検査を考える in MISHIMA 呼吸器内科医師・消化器内科医師、病理医、ゲノム関連医療従事者の多職種を対象24名参加</p> <p>京都薬科大学 該当なし</p>
	41	がん研究基盤の発展構築へ向けた取組み状況	<p>令和5-6年度 取組状況</p> <p>京都大学 (高精度緩和的放射線治療・核医学治療に精通し、各地域で放射線治療を担う人材養成コース) 臨床放射線治療グループ、医学物理グループ、放射線生物学グループに分かれ、新たながん治療法開拓に向けて、研究を推進している。各グループで定期的にミーティングを開催し、さらにグループ間での密接な連携も行う。月に数回、3グループからの研究発表も行う機会を設けている。</p> <p>(放射線治療で顕在化している課題に対応する医学物理士養成コース) 臨床放射線治療グループ、放射線生物学グループ、医学物理グループに分かれ、新たながん治療法開拓に向けて、研究を推進している。各グループで定期的にミーティングを開催し、さらにグループ間での密接な連携も行う。月に数回、3グループからの研究発表も行う機会を設けている。</p>

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和5-6年度 取組状況等
			(遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース) ①婦人科がんの病理標本における免疫細胞の分布の詳細を、AIを用いて客観的に評価し、臨床的意義を探索している。 ②電子カルテ内のデジタル情報に加えて文字情報から、医学的に重要な情報を抽出する生成AIシステムを開発し、臨床実装を目指している。 ③治療抵抗性子宮体癌に共通してみられる腫瘍微小環境の特徴を探索し、微小環境の制御による新規治療戦略の創出を狙っている。 ④早期子宮頸癌に対する個別治療戦略の適応を目指した、MRIを組み込んだ診療アルゴリズムの構築に向けた多施設共同研究をおこなっている。 ⑤Patientreportedoutcomeから、医学的に重要な情報を整理して評価する新たな尺度開発に取り組んでいる。
			(がんサバイバーシップケアを担うリハビリテーションスタッフの養成コース) 定期的なゼミの開催と、個別指導を通して、研究、臨床、がんサバイバーに対する社会活動に関する指導を行い、安全で、専門的な知識を持った研究活動、臨床活動、社会活動を促し、がん研究基盤の発展構築に向けた取り組みを行っている。
			(インテンシブコース・新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース) 新規医薬品の開発や臨床での薬剤適正使用において、数理モデルとシミュレーションを活用するファーマコメトリクスを専門とするチームを京都大学医学部附属病院先端医療研究開発機構(iACT)内に設置し、抗がん薬をはじめとするハイリスク薬の薬物動態学-薬力学研究の基盤を構築した。また、米国シンシナティ小児病院やカリフォルニア大学アーバイン校などから講師を招き、国際色豊かな最先端研究事例を学ぶ機会を提供した。
			三重大学 複合的がん免疫療法センターを中心にして、以下の研究開発を進めている。 ・免疫チェックポイント阻害薬不応性がんに着効するTriCombo ACT療法の研究開発 ・がん治療に用いるヒト型抗体の作製と解析 ・がんの変異抗原等に対するTCRの分離と標的ペプチドの解析T細胞由来小胞体ベシクルの解析と臨床への応用 ・新しいがん免疫療法のトランスレーショナルリサーチ: TCR遺伝子改変T (TCR-T)細胞の輸注療法 ・新しいがん免疫療法のトランスレーショナルリサーチ: CHPナノゲル/蛋白複合体がんワクチン (三重大オリジナルがんワクチン臨床開発) ・がん免疫療法臨床試験のリバーストランスレーショナルリサーチ: がん免疫療法モニタリング研究
			滋賀医科大学 ・次世代シークエンサー、マイクロアレイ、バイオマーカー解析装置、多分子迅速解析装置、超高感度分子解析装置などの機器を用いて、がんブロードコース在籍の大学院生にトレーニングを行い、各自の研究に活用している。 ・年々高度化するがん研究の解析装置の研修体制をさらに充実させるとともに、国内連携大学にも大学院生を派遣して人材交流を行っている。 ・附属病院腫瘍センターで京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、摂南大学、県内医療機関からの学生・研修生にがん薬物療法の実地研修を行った。 ・附属病院腫瘍センター緩和ケアチームで京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、摂南大学、県内医療機関からの学生・研修生にがん緩和ケアの実地研修を行った。 ・附属病院腫瘍センター主体でがん看護研修プログラムにて看護師にがん医療に関わる研修を実施した。
大阪医科薬科大学 【がんサバイバーの身体的・精神的・社会的ケアや再発予防ケアを担う看護師養成コース】 ・術後再発降臨がん患者の化学療法中のアンメットケアニーズに関する研究 【プレジジョンメディシンを推進するための臨床研究開発を担う人材育成コース】 プレジジョンメディシンに基づく臨床試験に必要な知識・技術を修得するため、特に、Phase1試験を含む早期開発臨床試験を、がんブロードコースを含む医師・薬剤師・看護師・CRC等が連携して症例を検討することで、がん臨床研究の基盤を整備している。また、今年度は第1相試験のDCT体制を構築し、国立がんセンターのパートナー施設として実際の運用を行った。さらに、分子標的治療薬の副作用を個別化医療の視点から買ひ召すべく、疾患特異的iPSを用いた研究を推進している。 【地域のがん医療を担う放射線治療専門医養成コース】 高精度放射線治療実施体制の整備、また、関西BNCT共同医療センターとの連携によるBNCT研究の推進により、研究基盤の発展構築に取り組んでいる。 【難治性がん性疼痛に対応できるペインクリニック養成コース】 がん性疼痛の発生メカニズムの解明に関する研究に取り組んでいる。 【がんゲノム医療に精通した病理診断医コース】 がんゲノム医療を担う院内各診療科との連携強化のため、カンファレンス等を充実させている。また、がんゲノム医療を考慮した分子病理サブタイプングに関する研究を開始している。 【データサイエンスに基づく誰一人取り残さないがん対策を実現するための人材育成コース】 リアルワールドデータを活用したがん対策・がん医療の評価を行うためのデータベース活用基盤を整備した。全国がん登録、レセプトデータベースなど全国規模のデータベースを学内の研究者が活用できるように研究倫理審査及び二次利用申請を行っている。本学教員が代表を務める。厚生労働省研究事業「誰一人取り残さないがん対策における格差のモニタリングと要因解明に資する研究」班(R5-7年度)において、本学のコース所属の大学院生が研究協力者として、研究に参画している。			
京都薬科大学 該当なし			
42	新たながん医療分野の開拓推進に向けた取組み状況		<p>令和5-6年度 取組状況</p> <p>京都大学 (高精度緩和的放射線治療・核医学治療に精通し、各地域で放射線治療を担う人材養成コース) ①放射線治療科では2011年9月より世界に先駆けてVero4DRTを用いた動物追尾照射を開始した。さらに、株式会社日立ハイテクとともにその後継機である国産の放射線治療装置OXRAYの開発を行っている。革新的な新規放射線照射法DynamicSwingArc照射は患者が動くことなく非同一平面からの照射を実現できる。 ②上述のOXRAYでは呼吸によって動く腫瘍を自動で追尾して照射する動物追尾照射が可能である。現状では腫瘍付近に金属マーカーを挿入しているが、当グループでは金属マーカーを用いず直接腫瘍を認識するマーカーレス技術を開発している。DynamicSwingArc中の動物追尾機能も開発している。 ③2024年12月現在、我が国ではまだ4施設しか実施できないコーンビームCTを使った即時適応放射線治療の研究を行っている。 ④実験検体および臨床検体中のDNA、RNA、タンパクなどを解析して放射線治療抵抗性の原因究明とその克服法を開発している。 ⑤また、低酸素などの腫瘍内微小環境や生体中の酸化還元バランスが、放射線治療効果に及ぼす影響についての研究も推進している</p>

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和5-6年度 取組状況等
			<p>(放射線治療で顕在化している課題に対応する医学物理士養成コース) ・京都大学放射線治療科および関連病院における肺がんや膵がん、前立腺がんのCT画像を用いて人間の目では抽出できない特微量や、施行された放射線治療の線量分布の特微量をアルゴリズムにより抽出し、また予後データと結びつけることにより、CT画像から予後を予測するシステムを開発している。 ・放射線医学への応用が期待される深層学習を用いて、CT画像やMR画像上で放射線治療計画に必要な臓器の輪郭の自動抽出を行っている。</p> <p>・京大病院放射線治療科では株式会社日立ハイテクとともに国産の放射線治療装置OXRAYを開発している。革新的な新規放射線照射法 Dynamic SwingArc照射は患者が動くことなく非同一直線からの照射を実現できる。 ・上述のOXRAYでは呼吸によって動く腫瘍を自動で追尾して照射する動体追尾照射が可能である。現状では腫瘍付近に金属マーカーを挿入しているが、当グループでは金属マーカーを用いず直接腫瘍を認識するマーカーレス技術を開発している。また、回転型強度変調放射線治療や Dynamic SwingArc中の動体追尾機能も開発している。 ・関連病院と連携し、MR画像誘導即時適応放射線治療中のMR画像を用いた動体解析研究を行っている。</p> <p>(遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース) ①Patientreportedoutcomeから、医学的に重要な情報を整理して評価する新たな尺度開発に取り組んでいる。 ②電子カルテ内のデジタル情報に加えて文字情報から、医学的に重要な情報を抽出する生成AIシステムを開発し、臨床実装を目指している。</p> <p>(がんサバイバーシップケアを担うリハビリテーションスタッフの養成コース) 学会・研修会への積極的な参加を促し、学会発表・情報収集などのアウトリーチ、教育活動を行い、新たながん医療分野の開拓に向けた取り組みを行っている。</p> <p>(先端治療学コース) 当院に入院中のCART細胞治療患者に関して、週1回の血液腫瘍カンファレンスを通じてonthejobtrainingを行なっている。加えて、患者検体を用いた免疫環境の解析を実施している。また週1回のエキスパートパネルに出席してもらい、担当症例に関しては、レポート作成も行っている。学会発表と論文執筆を義務付けており、これらの指導を通じて小児・血液がん専門医取得へサポートを行なっている。</p> <p>(インテンシブコース・新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース) 新規医薬品の開発や臨床での薬剤適正使用において、数理モデルとシミュレーションを活用するファーマコメトリクスを専門とするチームを京都大学医学部附属病院先端医療研究開発機構(iACT)内に設置し、早期臨床開発に貢献できる体制を整備した。</p> <p>三重大学 ・2023年に三重大学 OncoCardiology Research Centerが新たに設立され、腫瘍循環器領域での臨床研究、基礎的研究に取り組んでいる。臨床研究においては、薬物療法による心毒性のリスク因子の同定、リスク因子別のモニタリング、早期診断法の開発などに循環器内科と共同で取り組んでいる。 ・がん免疫療法を安全に実施するための医師(がん関連診療科、免疫関連診療科)、看護師、薬剤師、医療安全管理部スタッフ等で構成する免疫療法対策チームを発足し、活動を行っている。</p> <p>滋賀医科大学 ・新しいがん医療の開発に向けて大学附属先端がん研究センターを運営するとともに、腫瘍内科と国内外の先端的がんゲノム医療・研究機関と共同研究体制を構築している。</p> <p>大阪医科薬科大学 近年の技術的進歩により、強度変調放射線治療(IMRT)や定位放射線治療(SRT)などの高精度治療の普及、また、ホウ素中性子捕捉療法(BNCT)の診療・研究の両面での推進するとともに、次代を担う専門医の育成、医学物理士の配備にも注力していく。 さらに、大阪医科大学附属病院は、平成30年4月にがんゲノム医療連携病院の認定を受けて、令和元年4月がん医療総合センター内に新たにがんゲノム医療管理室を設置した。 がんに対する企業主導の第1相臨床試験において、国立がんセンター中央病院と共に国内で初めてDCTを活用した。本試みでは、DCTIにおける新たな早期開発試験の実施体制を評価し、居住地を問わず多くの患者さんが臨床試験にアクセスできる実施体制の構築を目指している。 その他、難治性がん性疼痛に対する、神経破壊術や脊髄鎮痛法などのインターベンショナル治療を施行できる専門医の育成に注力している。また、それらの治療後の地域の受け入れ態勢の構築を目指している。</p> <p>京都薬科大学 該当なし</p>
43		コース修了者の進路や活動状況(地域定着状況)	<p>令和5-6年度取組状況</p> <p>京都大学 (高精度緩和的放射線治療・核医学治療に精通し、各地域で放射線治療を担う人材養成コース) コース修了者は、京都府、大阪府、滋賀県、奈良県などの近隣府県だけでなく、兵庫県、和歌山県、岡山県、静岡県にて勤務している。さらに、2名が海外留学中である。</p> <p>(放射線治療で顕在化している課題に対応する医学物理士養成コース) 修士課程修了者は3名、2名は医療関係ではない企業に就職、1名は企業にて放射線治療システム開発に従事。</p> <p>(遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース) 主に関西の癌拠点病院にて勤務し、高品質な癌治療の普及に尽力している。</p> <p>(がんサバイバーシップケアを担うリハビリテーションスタッフの養成コース) 令和6年度より学生の受け入れを行っており、コース修了者がいないため、該当なし</p> <p>(先端治療学コース) 当院のスタッフとして小児AYAがん患者の診療に従事すると同時に、大学院生の指導にもあたっている。</p>

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和5-6年度 取組状況等
			(インテンシブコース・新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース) コース修了者がR7年度より京都大学医学部附属病院薬剤部に薬剤師として就職
		三重大学	実績なし
		滋賀医科大学	修了者の多くは、博士号とがん専門分野の専門医資格を取得し、地域の医療機関や国内外の医療・研究機関で中核を担う人材として活躍している。
		大阪医科薬科大学	医学研究科においては平成21年度以降の入学者の半数以上が本学内において、診療や教育活動に従事している。 がんサバイバーの身体的・精神的・社会的ケアや再発予防ケアを担う看護師養成コースにおいてはコース修了生の進路は大阪医科薬科大学病院に戻り、がん看護専門看護師の資格取得を目指し、院内で活動する予定である。
		京都薬科大学	該当なし

資料1

第4期 がんプロ 教育プログラム・コース別受入目標人数・受入実績 (正規コース)

(2024.12.23現在)

区分	大学名	コース名	受入目標人数							受入実績							修了者数								
			年度別							年度別							年度別								
			R5	R6	R7	R8	R9	R10	計	R5	R6	R7	R8	R9	R10	計	R5	R6	R7	R8	R9	R10	計		
① がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成(12)			4	14	14	14	14	14	74	5	12	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0		
1	京都大学	学際的腫瘍学コース	0	2	2	2	2	2	10	0	2					2	0							0	
2	京都大学	高精度緩和的放射線治療・核医学治療に精通し、各地域で放射線治療を担う人材養成コース	1	2	2	2	2	2	11	1	2					3	0							0	
3	京都大学	病理医養成コース	0	1	1	1	1	1	5	0	1					1	0							0	
4	京都大学	多職種連携による緩和ケアを実践する人材養成コース	0	1	1	1	1	1	5	0	0					0	0							0	
5	京都大学	放射線治療で顕在化している課題に対応する医学物理士養成コース	2	2	2	2	2	2	12	3	2					5	0							0	
6	三重大学	痛みの治療およびがん関連学際領域に対応し地域に定着する放射線治療医養成コース	0	1	1	1	1	1	5	0	1					1	0							0	
7	三重大学	がん患者のQOL向上及び終末期医療を担う看護師養成コース	0	1	1	1	1	1	5	0	1					1	0							0	
8	滋賀医科大学	地域の放射線治療を担う医療人養成コース	0	1	1	1	1	1	5	0	1					1	0							0	
9	大阪医科薬科大学	地域のがん医療を担う放射線治療専門医養成コース	0	1	1	1	1	1	5	0	0					0	0							0	
10	大阪医科薬科大学	がんゲノム医療に精通した病理診断医コース	0	1	0	1	0	1	3	0	1					1	0							0	
11	大阪医科薬科大学	難治性がん性疼痛に対応できるペインクリニック医養成コース	1	0	1	0	1	0	3	1	0					1	0							0	
12	京都薬科大学	がん患者のQOL向上および終末期医療を担う人材養成コース	0	1	1	1	1	1	5	0	1					1	0							0	
② がん予防の推進を行う人材養成(7)			3	8	8	8	8	8	43	4	14	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	
13	京都大学	遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース	1	1	1	1	1	1	6	2	2					4	0							0	
14	京都大学	がんサバイバーシップケアを担うリハビリテーションスタッフの養成コース	0	1	1	1	1	1	5	0	5					5	0							0	
15	三重大学	がんサバイバーシップケアを担う小児がん治療専門医コース	0	1	1	1	1	1	5	0	0					0	0							0	
16	滋賀医科大学	ゲノム医療を担う臨床遺伝専門医養成コース	0	1	1	1	1	1	5	0	0					0	0							0	
17	滋賀医科大学	先制がん医療を担う薬剤師養成コース	0	1	1	1	1	1	5	0	2					2	0							0	
18	大阪医科薬科大学	データサイエンスに基づく誰一人取り残さないがん対策を実現するための人材育成コース	1	2	2	2	2	2	11	1	3					4	0							0	
19	大阪医科薬科大学	がんサバイバーの身体的・精神的・社会的ケアや再発予防ケアを担う看護師養成コース	1	1	1	1	1	1	6	1	2					3	0							0	
③ 新たな治療法を開発できる人材の養成(10)			1	12	12	12	12	12	61	2	12	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	
20	京都大学	先端治療学コース	0	3	3	3	3	3	15	0	5					5	0							0	
21	京都大学	がんの医療・研究においてビッグデータや人工知能を活用できる人材育成コース	0	1	1	1	1	1	5	0	1					1	0							0	
22	三重大学	個別化医療の新たな治療法開発および免疫療法を担う腫瘍内科医養成コース	0	1	1	1	1	1	5	0	0					0	0							0	
23	三重大学	婦人科腫瘍における個別化医療を推進する人材養成コース	0	1	1	1	1	1	5	0	0					0	0							0	
24	三重大学	がん免疫療法や個別化医療に精通した薬剤師養成コース	0	1	1	1	1	1	5	0	0					0	0							0	
25	滋賀医科大学	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	0	1	1	1	1	1	5	0	1					1	0							0	
26	滋賀医科大学	複合的がん個別化医療を推進する医療人養成コース	0	1	1	1	1	1	5	0	0					0	0							0	
27	大阪医科薬科大学	革新的ながん診断・治療法の研究開発を担う人材育成コース	0	1	1	1	1	1	5	0	1					1	0							0	
28	大阪医科薬科大学	プレシジョンメディシンを推進するための臨床研究開発を担う人材育成コース	1	1	1	1	1	1	6	2	1					3	0							0	
29	京都薬科大学	近未来の医薬品・治療法の開発を担う人材養成コース	0	1	1	1	1	1	5	0	3					3	0							0	
合 計			8	34	34	34	34	34	178	11	38	0	0	0	0	49	0	0	0	0	0	0	0	0	
			(大学別内訳)	京都大学	4	14	14	14	14	14	74	6	20	0	0	0	0	26	0	0	0	0	0	0	0
			三重大学	0	6	6	6	6	6	30	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	
			滋賀医科大学	0	5	5	5	5	5	25	0	4	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	
			大阪医科薬科大学	4	7	7	7	7	7	39	5	8	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	
			京都薬科大学	0	2	2	2	2	2	10	0	4	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	

第4期 がんプロ 教育プログラム・コース別受入目標人数・受入実績（インテンシブコース）

(2024.12.23現在)

区分	大学名	コース名	受入目標人数							受入実績							修了者数							
			年度別						計	年度別						計	年度別						計	
			R5	R6	R7	R8	R9	R10		R5	R6	R7	R8	R9	R10		R5	R6	R7	R8	R9	R10		
① がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成			1	3	3	3	3	3	16	1	4	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	
1	三重大学	緩和医療専門医・認定医養成コース	1	1	1	1	1	1	6	1	2					3	0	0					0	
2	大阪医科薬科大学	がん関連学際領域(腫瘍糖尿病学・腫瘍循環器学)を担う次世代のプロフェッショナル養成コース	0	2	2	2	2	2	10	0	2					2	0	0					0	
② がん予防の推進を行う人材養成			2	2	2	2	2	2	12	3	2	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	
3	三重大学	ゲノム情報を活用したがん診療に従事する人材養成コース	2	2	2	2	2	2	12	3	2					5	0	0					0	
③ 新たな治療法を開発できる人材の養成			3	5	5	5	5	5	28	3	7	0	0	0	0	10	0	3	0	0	0	0	3	
4	京都大学	新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース								1	1					2	0	1					1	
	三重大学									1	2					3	0	1					1	
	滋賀医科大学			3	5	5	5	5	5	28	1	1					2	0	1					1
	大阪医科薬科大学										0	1					1	0	0					0
	京都薬科大学										0	2					2	0	0					0
合 計			6	10	10	10	10	10	56	7	13	0	0	0	0	20	0	3	0	0	0	0	3	
		(大学別内訳)	京都大学						0	1	1	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	
			三重大学						0	5	6	0	0	0	0	11	0	1	0	0	0	0	1	
			滋賀医科大学						0	1	1	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	
			大阪医科薬科大学						0	0	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	
			京都薬科大学						0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	

資料2

「資格取得者数一覧」(令和5年度～令和10年度)

コースを開設している 大学・研究科・専攻 名	コース名	修業 年限	④受験・合格・資格取得者数																		
			学会等認定資格名	R5			R6			R7			R8			R9			R10		
				受験 者数	合格 者数	資格 取得者 数	受験 者数	合格 者数	資格 取得者 数	受験 者数	合格 者数	資格 取得者 数	受験 者数	合格 者数	資格 取得者 数	受験 者数	合格 者数	資格 取得者 数	受験 者数	合格 者数	資格 取得者 数
計			11	10	22	9	7	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
京都大学医学研究科 医学専攻	高精度緩和放射線治療・核医学治療に 精通し、各地域で放射線治療を担う人材 養成コース	4	放射線治療専門医 (日本放射線腫瘍学会)	0	0	0	1	1	1												
京都大学医学研究科 医学専攻	病理医養成コース	4	細胞診専門医 (日本臨床細胞学会)	1	1	1															
京都大学医学研究科 人間健康科学系専攻 (修士課程)	放射線治療で顕在化している課題に対応 する医学物理士養成コース	2	医学物理士 (医学物理士認定機構)	0	0	0	1	1	0												
京都大学医学研究科 人間健康科学系専攻 (博士後期課程)	放射線治療で顕在化している課題に対応 する医学物理士養成コース	3	医学物理士 (医学物理士認定機構)	1	0	0	1	1	1												
京都大学医学研究科 医学専攻	遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイ バー医療コース	4	UBCT日本がん治療認定医機構 がん治療認定医試験	0	0	4	0	0	4												
京都大学医学研究科 医学専攻	遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイ バー医療コース	4	日本婦人科腫瘍学会 専門医	0	0	0	0	0	0												
京都大学医学研究科 医学専攻	遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイ バー医療コース	4	日本癌治療認定医	1	1	2	0	0	3												
京都大学医学研究科 医学専攻	遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイ バー医療コース	4	日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医	0	0	0	0	0	0												
京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻	がんサバイバーシップケアを担うリハビリ テーションスタッフの養成コース (修士課程)	2	一般社団法人日本作業療法士協会 専門作業療法士(がん)	-	-	-	0	0	0												
京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻	がんサバイバーシップケアを担うリハビリ テーションスタッフの養成コース (博士後期課程)	3	一般社団法人日本作業療法士協会 専門作業療法士(がん)	-	-	-	0	0	0												
京都大学医学研究科 医学専攻	先端治療学コース	4	小児科専門医(日本小児科学会)	1	1	3															
京都大学医学研究科 医学専攻	先端治療学コース	4	小児血液・がん専門医(日本小児血液・がん 学会)	0	0	0															
三重大学医学系研究 科生命医学専攻	個別化医療の新たな治療法開発および免 疫療法を担う腫瘍内科医養成コース	4	認定血液専門医 (日本血液学会)	0	0	0	0	0	0												
三重大学医学系研究 科生命医学専攻	個別化医療の新たな治療法開発および免 疫療法を担う腫瘍内科医養成コース	4	総合内科専門医 (日本内科学会)	0	0	0	0	0	0												
三重大学医学系研究 科生命医学専攻	痛みの治療およびがん関連学際領域に 対応し地域に定着する放射線治療医養成 コース	4	放射線治療専門医 (日本医学放射線学会)	0	0	0	0	0	0												
三重大学医学系研究 科生命医学専攻	婦人科腫瘍における個別化医療を推進す る人材養成コース	4	婦人科腫瘍専門医 (日本婦人科腫瘍学会)	0	0	0	0	0	0												
三重大学医学系研究 科生命医学専攻	がんサバイバーシップケアを担う小児がん 治療専門医コース	4	小児血液・がん専門医 (日本小児血液・がん学会)	0	0	5	1	未	5												
三重大学医学系研究 科生命医学専攻	がん免疫療法や個別化医療に精通した薬 剤師養成コース	4	がん専門薬剤師 (日本医療薬学会)	0	0	0	0	0	0												
三重大学医学系研究 科看護学専攻	がん患者のQOL向上及び終末期医療を 担う看護師養成コース	2	がん看護専門看護師 (日本看護協会)	0	0	0	0	0	0												
三重大学医学系研究 科生命医学専攻	ゲノム情報を活用したがん診療に従事す る人材養成コース(インテンシブコース)	2	臨床遺伝専門医 (日本人類遺伝学会・日本遺伝カウンセリング 学会)	0	0	0	2	1	1												
三重大学医学系研究 科生命医学専攻	緩和医療専門医・認定医養成コース(イン テンシブコース)	2	緩和医療専門医 (日本緩和医療学会)	0	0	0	0	0	0												
滋賀医科大学 医学系研究科医学専 攻	がん局所環境に基づいた新規治療法の 開発を担う医療人養成コース	2	がん治療認定医 (日本がん治療認定医機構)	1	1	1															
滋賀医科大学 医学系研究科医学専 攻	先制がん医療を担う薬剤師養成コース	4	がん専門薬剤師 (日本医療薬学会)	1	1	1															
滋賀医科大学 医学系研究科医学専 攻	先制がん医療を担う薬剤師養成コース	4	医療薬学専門薬剤師 (日本医療薬学会)	1	1	1															
滋賀医科大学 医学系研究科医学専 攻	先制がん医療を担う薬剤師養成コース	4	抗腫化学療法認定薬剤師 (日本化学療法学会)	1	1	1															
滋賀医科大学 医学系研究科医学専 攻	地域の放射線医療を担う医療人養成コー ス	1	放射線科診断専門医 (日本専門医機構認定)				1	1	1												
滋賀医科大学 医学系研究科医学専 攻	先制がん医療を担う薬剤師養成コース	1	日本糖尿病療養指導士 (日本糖尿病療養指導士認定機構)				1	1	1												
大阪医科薬科大学 医学研究科医学専 攻	プレジジョンメディシンを推進するための 臨床研究開発を担う人材育成コース	4	呼吸器専門医(日本呼吸器学会)	1	1	1	0	0	0												
大阪医科薬科大学 医学研究科医学専 攻	データサイエンスに基づく誰一人取り残さ ないがん対策を実現するための人材育成 コース	4	乳癌専門医(日本乳癌学会)	1	1	1	0	0	0												
大阪医科薬科大学 医学研究科医学専 攻	難治性がん性疼痛に対応できるペインク リニャン養成コース	4	麻酔科専門医(日本麻酔科学会)	1	1	1	0	0	0												
京都大学(京都薬科 大学/薬学研究科)	新たな治療法の開発と薬物療法マネジ メントに貢献する5大学連携薬剤師養成 コース(インテンシブコース)	1	がん薬物療法認定薬剤師	0	0	0	1	1	1												

資料3

令和5-6年度 がんプロ履修生調査(要望・改善点)

【京都大学】

NO.	項目	要望、改善点等	コース名
1	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	e-learningがアップデートされるとよいと思う	高精度緩和的放射線治療・核医学治療に精通し、各地域で放射線治療を担う人材養成コース
2	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	大変満足	放射線治療で顕在化している課題に対応する医学物理士養成コース
3	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	研究発表旅費助成について 助かりました	放射線治療で顕在化している課題に対応する医学物理士養成コース
4	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	研究発表旅費助成について 助かっております。ありがとうございます。	遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース
5	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	eラーニング講義が最新の情報でないものもあり改訂があればより有り難いと思います	遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース
6	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	Eラーニング講義について、何度も視聴できることや最後に確認のテストがついていることにとっても満足しています。	がんサバイバーシップケアを担うリハビリテーションスタッフの養成コース
7	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	e-learningがアップデートされるとよいと思う	がんサバイバーシップケアを担うリハビリテーションスタッフの養成コース
8	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	がん医療を学べる機会を設けていただき、非常に満足しております。特に、2024年10月に開催された「令和6年度5大学連携学生短期研修プログラム」における研究交流フォーラムが良かったです。そこでは、がんプロの院生たちとポスター発表を通じてディスカッションを行いました。がん治療のさまざまな分野で学んでいる院生たちと直接意見を交わすことができ、とても貴重な経験となりました。皆様が情熱を持って研究に取り組んでいる姿に刺激を受け、私自身も研究へのモチベーションが高まり、がん医療の発展に少しでも貢献していきたいと感じました。	がんサバイバーシップケアを担うリハビリテーションスタッフの養成コース
9	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	大変満足 5大学連携学生短期研修プログラムにおいて、小児白血病サバイバーのお話を聞いたのがとても良かった。また、1日目の懇親会において他大学の研究者同士のコネクションが築けたことはとても有用だった。さらに、京大病院のC-RACTやバイオバンクをはじめとする施設を見学できたのがとても勉強になった。大変貴重な機会をいただけてとても光栄です。	先端治療学コース
10	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	「研究発表旅費助成について」 第34回 日本医療薬学会年会における発表のため旅費助成を賜りました。発表以外にも臨床的な知見を深めるために全日程参加したいと考えていましたが、交通費や宿泊費が高額であり旅程を悩んでいました。しかし本助成に採択いただき、無事に発表を終えた上で全日程にて情報収集に集中できました。これより、がんプロ履修生として必要になるであろう知識や、臨床現場における研究の現状を肌で感じ、大学院生として成長したと考えています。このような機会を設けていただいたことには大変感謝しております、ありがとうございます。今後も精力的に研究活動を行っていきたく強く思わせていただいた事業でした。	先端治療学コース
11	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	分野を網羅した豊富なe-Learningがあり大変満足。	先端治療学コース
12	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	履修生、OBと対面で交流できる機会が増えると嬉しいです。がんプロを通して共同研究など研究が発展させていきたいです。	先端治療学コース 新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース

【三重大学】

NO.	項目	要望、改善点等	コース名
1	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	日々大変お世話になっております。海外の学会に参加させていただいたり、非常に良い経験をさせて頂いたので満足しています。	がん患者のQOL向上及び終末期医療を担う看護師養成コース
2	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	論理的にスピリチュアルペインとそのケアを学び実践できる機会があり臨床にとっても役立った。専門的緩和ケアの提供において難渋することが多かったが、対応方法を学ぶことができた意義は大きいと感じている。	緩和医療専門医・認定医養成コース(インテンシブコース)
3	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	研究に関して一から学べるよう指導があり、これまで苦手としてきたことに取り組む意欲ができるようになった。	緩和医療専門医・認定医養成コース(インテンシブコース)

【滋賀医科大学】

NO.	項目	要望、改善点等	コース名
1	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	がんプロ主催のシンポジウムおよび国内・国際学術集会での成果発表等を積極的に支援し、コース履修者の成果について第三者の評価を受ける機会を設け履修意欲の向上に努めている。	複合的がん個別化医療を推進する医療人養成コース
2	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	コース履修者がより能動的に学び、考察できるよう演習・実習形式の科目を設けている。	複合的がん個別化医療を推進する医療人養成コース
3	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	次世代シーケンサー、マイクロアレイ、バイオマーカー解析装置、多分子迅速解析装置、超高感度分子解析装置などの機器を用いて、がんプロコース在籍の大学院生にトレーニングを行い、各自の研究に活用している。	複合的がん個別化医療を推進する医療人養成コース

【大阪医科薬科大学】

NO.	項目	要望、改善点等	コース名
1	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	学会など多数参加させていただいており、満足しております	プレジジョンメディシンを推進するための臨床研究開発を担う人材育成コース

【京都薬科大学】

NO.	項目	要望、改善点等	コース名
1	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	京都大学附属病院の見学で実習の際にはみることのできなかつた施設を多数見れたことがよかった	近未来の医薬品・治療法の開発を担う人材養成コース
2	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	自身の研究に必要となる知識や技術を学びたい時に、経済的な理由からその機会を見送るといことがなかつたので大変満足しております。	近未来の医薬品・治療法の開発を担う人材養成コース
3	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	研究に対するモチベーション向上につながり、満足した。特に、所属する大学以外の大学院生と合同で研修を行ったことで、こんなにも熱意をもって研究に取り組まれている方々がいらつしゃるのかと、刺激をもらうことができた。	近未来の医薬品・治療法の開発を担う人材養成コース

4	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	インテンシブコースの集合研修会プログラムで、医師の講演やインテンシブコースの先生方の研究成果発表を聞くことができるため、非常に勉強になっております。 改善して欲しい点は、履修内容を履修生に対して明確に示していない点です。様々なコースがあるため、各コースで内容の詳細を決定することは非常に困難かと思いますが、各コースにおける必修内容や追加で実施可能な研修などがある場合は詳細に教えて欲しいと思っております。また、必須で参加しなければならない研修などの日程について直前ではなく、できるだけ早めに教えていただけると幸いです。	がん患者のQOL向上および終末期医療を担う人材養成コース
5	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	がんに関わる様々な研究や知見に触れることができ良かった。	新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース(インテンシブコース)
6	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	一般病院で薬剤師として勤務する中で大学の先生方から症例添削やアドバイスをいただく機会があり大変有難いと思った。e-Learningでは新たな知識を得ることができて普段の臨床業務にも役立った。	新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース(インテンシブコース)

がんに特化した講座の設置状況

大学名	名称	分類	目的	体制	総計	専任					兼任					設置年月	
						計	教授	准教授	講師	助教	その他	計	教授	准教授	講師		助教
京都大学	京都大学大学院医学研究科腫瘍内科学分野	化学療法	1) 化学療法を中心とした高度ながん治療を展開する 2) 化学療法を中心とした新しいがん医療の開発研究を推進する化学療法を中心とした優れたがん医療の専門医を養成する	[計画] 教授1(専任)、准教授1(専任)、助教1(専任)	3	3	1	1		1		0					H24.09
				[実施] 教授1(専任)、准教授1(専任)、講師1(専任)	3	3	1	1	1		0						
三重大学	三重大学大学院医学系研究科生命医科学専攻放射線腫瘍学講座	放射線療法	医学部、大学院での放射線治療の教育を充実させることにより、放射線治療医の育成を強化し、三重県の放射線治療レベルの向上に貢献することを目的とする。	[計画] 教授1名(専任)、助教1名(専任)	2	2	1			1		0				H24.04	
				[実施] 教授1名(兼任)、助教1名(専任)	1	0			0		1	1					
滋賀医科大学	滋賀医科大学医学部臨床腫瘍学講座	化学療法 その他	最新のがん薬物療法を促進するとともに、がんの予防、診断、治療の面から高度先進がん医療の研究・臨床展開と教育を通じたがん専門医・医療スタッフの育成を推進し、社会に貢献する。	[計画] 教授(専任)1名、講師(専任)2名、助教(専任)1名	4	4	1		2	1		0				H24.10	
				[実施] 教授(専任)1名、講師(専任)3名、講師(兼任)2名、助教(兼任)1名	7	4	1	1	2		3		2	1			
大阪医科大学	大阪医科大学医学研究科腫瘍学教室	放射線療法	医学の発展に放射線医学がどのように関わり、貢献しているかを明らかにするために放射線医学全般に関する造詣を深め、放射線腫瘍学の進歩に貢献することを目的とした研究を行う。放射線腫瘍学を軸として、生物学的、物理学的要素を加味し、悪性腫瘍の治療成績の向上と副作用の軽減を目的とした研究を行わせる。	[計画] 教授(専任)1名、准教授(専任)1名、講師1名、助教3名	4	4	1	1	1	3		0				R1.08	
				[実施] 教授(専任)1名、講師1名、助教4名(内、1名時短)、助教(准)1名	7	7	1	0	1	5		0					
大阪医科大学	大阪医科大学医学研究科腫瘍内科学教室	化学療法	ゲノム医療の発展や分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬などの開発により、がんの診断、治療、研究は急速に拡大している。この様な現状を踏まえ、「腫瘍内科学教室」を設置している。	[計画] 教授(専任)1名	1	1	1									R4.04	
				[実施] 教授(専任)1名	1	1	1										

資料5

セミナー・シンポジウム等の開催状況（令和6年度）

※「学内参加者数」は主催大学以外の京大拠点（京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科薬科大学、京都薬科大学）の大学を含む。

No	セミナー・シンポジウムの名称	主催大学	令和6年度目標			令和6年度開催実績				
			開催回数	参加者数	参加大学数	開催回数	学内参加者数	学外参加者数	参加大学数	
									京大拠点大学	左記以外
1	5大学連携医療フォーラム	京都大学	1	80	5	1	51	5	5	3
2	腫瘍内科医会セミナー(共催)	徳島大学	1	80	35	1		88		24
3	第57回京都放射線腫瘍研究会	京都大学				1	34	59	3	4
4	がんプロ公開講座:Alexandre Chan先生講演会	京都大学				1	38	35	3	7
5	第2回婦人科がんサポーター研究会(共催)	京都大学(共催)				1		70		
6	第25回関西がんのリハビリテーション研究会(共催)	京都大学(共催)				1		131		
7	MIE Ovarian Cancer Symposium	三重大学	1	15	1	1	8	14	1	1
8	第16回三重乳腺疾患治療研究会	三重大学	1	30	1	1	18	21	1	0
9	第16回三重メディカルオンコロジーフォーラム	三重大学	1	20	1	1	13	13	1	1
10	Mie Lung Cancer Symposium	三重大学	1	30	1	1	19	16	1	0
11	AZ Lung Cancer Symposium in Mie	三重大学	1	40	1	1	12	44	2	1
12	第14回早期からの緩和ケアを考える会	三重大学	1	30	1	1	9	22	1	0
13	AZ Lung Cancer Expert Meeting in Mie	三重大学	1	60	1	2	22	53	1	1
14	三重大学緩和ケアセミナー2024 第33回	三重大学	1	70	5	1	21	54	1	4
15	肺癌 Expert Meeting in MIE	三重大学	1	10	1	1	13	6	1	0
16	三重県産婦人科腫瘍研究会	三重大学	1	20	1	1	8	10	1	1
17	子宮体がん治療を再考する	三重大学	1	10	1	1	7	7	1	0
18	Pain Live Symposium	三重大学	1	20	1	1	11	19	1	0
19	滋賀がん市民公開講座(がんを学ぼう市民公開講座)	滋賀医科大学	6	50	1	6	学内3 学外55 オンデマンド 550		1	0
20	滋賀がん医療講演会(腫瘍センター講演会)	滋賀医科大学	3	50	1	1	25	0	1	0
21	滋賀医大「連携充実加算」算定に伴う講演会	滋賀医科大学	2	50	1	1	2	47	1	0
22	東近江医療圏がん診療公開講座	滋賀医科大学	2	50	1	2	24	96	1	0
23	Meet the Expert on Hepatocellular Carcinoma	滋賀医科大学				1	他社主催のため実績不明		1	0
24	開学50周年記念 市民公開講座「がん・新型コロナ(新興感染症)」	滋賀医科大学				1	12月22日開催予定		1	0
25	第5回集合研修会・大阪医科薬科大学大学院薬学研究科 がんプロフェッショナル養成プラン主催セミナー	大阪医科薬科大学	1	50	10	1	13	38	5	1
26	大阪医科薬科大学大学院 医学研究科 がんプロフェッショナル養成プラン主催セミナー	大阪医科薬科大学	6	300	5	1	18	32	3	3

No	セミナー・シンポジウムの名称	主催大学	令和6年度目標			令和6年度開催実績				
			開催回数	参加者数	参加大学数	開催回数	学内参加者数	学外参加者数	参加大学数	
									京大拠点大学	左記以外
27	緩和ケアセンター勉強会	大阪医科薬科大学	2	100	0	2	70	36		
28	三島圏域がん研究会	大阪医科薬科大学	3	300	2	2	92	172		
29	市民公開セミナー	大阪医科薬科大学	2	300	0	1	155			
30	三島医療圏・中河内医療圏がん登録部会実務者研修会	大阪医科薬科大学	1	100	0	1	250			
31	第3回 大阪医薬大病理セミナー／大阪医科薬科大学大学院 医学研究科 がんプロフェッショナル養成プラン主催セミナー	大阪医科薬科大学				1	44	0	1	0
32	OMPU緩和ケアセミナー	大阪医科薬科大学	1	30	0	1	25	9	1	1
33	大阪医科薬科大学大学院 看護学研究科 がんプロ講演会	大阪医科薬科大学	1	50	3	1	15	16	1	0
34	令和6年度 5大学連携学生短期研修プログラム	京都薬科大学	1	40	5	1	43	0	5	0
35	次世代のがん医療を担う人材育成プログラム特別講演会	京都薬科大学	1	100	1	1	6	39	1	0
36	市民公開講座	京都薬科大学	2	200	1	1	91	0	1	0
	合計		48	2,285	87	45	1,446	863	72	28

セミナー・シンポジウム等の開催状況（令和5年度）

※「学内参加者数」は主催大学以外の京大拠点（京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科薬科大学、京都薬科大学）の大学を含む。

No	セミナー・シンポジウムの名称	主催大学	令和5年度目標			令和5年度開催実績				
			開催回数	参加者数	参加大学数	開催回数	学内参加者数	学外参加者数	参加大学数	
									京大拠点大学	左記以外
1	5大学連携医療フォーラム	京都大学	1	100	5	1	61	22	5	2
2	がんプロフェッショナル養成プラン 公開講座	京都大学				1	121	130	1	0
3	がんリハビリテーション特別講演会	京都大学				1	13	61	5	0
4	がんプロ薬剤師インテンシブコース講演会	京都大学				1	27	35	5	7
5	第2回遺伝性腫瘍アドバンスセミナー	京都大学				1	9	262	182	
6	京都放射線腫瘍研究会	京都大学				2	168			
7	がんリハビリテーション特別講演会 - take the next step -	京都大学				1	74			
8	第13回早期からの緩和ケアを考える会	三重大学	1	30	1	1	19	43	1	1
9	子宮頸癌再発薬物療法セミナーin東海	三重大学	1	20	1	1	22	0	1	0
10	Mie Gynecologic Oncology Abend 2023	三重大学	1	40	1	1	25	20	1	1
11	三重婦人科腫瘍講演会	三重大学	1	20	1	1	11	15	1	1
12	第15回三重メディカルオンコロジーフォーラム	三重大学	1	20	1	1	20	13	1	1
13	三重大学緩和ケアセミナー2023	三重大学	1	70	5	3	74	217	4	14
14	第31回三重県産婦人科腫瘍研究会	三重大学	1	10	1	1	7	11	1	0
15	Endometrial Cancer Expert Seminar in MIE	三重大学	1	40	1	1	14	35	1	0
16	がんチーム医療研究会	三重大学	1	20	1	1	17	11	1	0
17	三重肺癌研究会	三重大学	1	30	1	1	10	22	1	0
18	第3回三重県産婦人科手術手技研究会	三重大学	1	40	1	1	17	30	1	0
19	がん医療に見られる認知機能障害～気づく・評価する・支援する～	三重大学	1	50	10	1	11	42	2	0
20	第43回 日本臨床細胞学会東海連合会総会ならびに学術集会	三重大学	1	300	5	1	46	280	1	8
21	三重がん放射線治療研究会	三重大学	1	60	1	1	11	56	1	1
22	第14回三重乳腺疾患治療研究会	三重大学	1	30	1	1	29	16	1	0
23	滋賀がん市民公開講座(がんを学ぼう市民公開講座)	滋賀医科大学	6	50	1	6	学内 7 学外 39 オンデマンド 533		1	0
24	滋賀がん医療講演会(腫瘍センター講演会)	滋賀医科大学	3	50	1	3	121	1	1	0
25	滋賀医大「連携充実加算」算定に伴う講演会	滋賀医科大学	2	50	1	2	8	87	1	0
26	FLT1-ITD陽性AMLの新たな治療戦略	滋賀医科大学	1	50	1	1	7	28	1	0
27	おしえて がんゲノム医療in滋賀	滋賀医科大学	1	50	1	1	WEBのみ 30		1	0
28	東近江医療圏がん診療公開講座	滋賀医科大学	2	50	1	2	対面合計 206 オンデマンド 5,277		1	0

No	セミナー・シンポジウムの名称	主催大学	令和5年度目標			令和5年度開催実績				
			開催回数	参加者数	参加大学数	開催回数	学内参加者数	学外参加者数	参加大学数	
									京大・筑大	左記以外
29	大学院 医学研究科 がんプロフェッショナル養成プラン主催セミナー	大阪医科薬科大学	4	200		5	101	143	2	8
30	緩和ケアセンター勉強会	大阪医科薬科大学				2	92	20	1	
31	三島圏域がん研究会	大阪医科薬科大学				1	25	44	1	
32	市民公開セミナー	大阪医科薬科大学		定員100		1	10	90	1	
33	三島医療圏・中河内医療圏がん登録部会実務者研修会	大阪医科薬科大学				1	12	160	1	
34	がん患者学会	大阪医科薬科大学				1	5	159	1	0
35	JSCSフォーラム	大阪医科薬科大学				1	3	79	1	0
36	第2回 大阪医薬大病理セミナー	大阪医科薬科大学	1			1	46	0	1	0
37	OMPU緩和ケアセミナー	大阪医科薬科大学				1	19	2	1	
38	次世代のがん医療を担う人材育成プログラム特別講演会	京都薬科大学	2	200	1	2	253	0	1	0
	合計		38	1,580	44	56	1,508	2,134	234	44

資料6

令和5-6年度 インテンシブコース実施事業

()の数字は参加人数

【京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科薬科大学、京都薬科大学】

新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース(インテンシブ)

23/12/20	がんプロ薬剤師インテンシブコース2023年度第1回キックオフ講演会(109)
24/03/06	令和5年度第2回薬剤師インテンシブコース集合研修会(40)
24/05/29	令和6年第3回薬剤師インテンシブコース集合研修会(62)
24/07/24	令和6年第4回薬剤師インテンシブコース集合研修会(62)
24/09/14	令和6年第5回薬剤師インテンシブコース集合研修会(51)
24/11/06	令和6年第6回薬剤師インテンシブコース集合研修会(71)

【三重大学】

緩和医療専門医・認定医養成コース(インテンシブ)

23/10/20	第31回緩和ケアセミナー(112名) ハイブリッド開催 多職種
23/01/25	第32回緩和ケアセミナー(90名) ハイブリッド開催 多職種
24/10/24	第33回緩和ケアセミナー(75名) ハイブリッド開催 多職種
25/01/24	第34回緩和ケアセミナー 肺っブリッド開催 多職種<予定>
24/03/24	がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会(20名) 多職種
24/06/01	がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会(16名) 多職種
24/08/25	患者の意向を反映した意思決定のための研修会基本版(58名)多職種
25/03/02	患者の意向を反映した意思決定のための研修会基本版(名)多職種<予定>
25/03/08	患者の意向を反映した意思決定のための研修会在宅版(名)多職種<予定>
24/1/28,2/11,2/25	対人援助・スピリチュアルケア研修(3日間)(5名) 多職種

24/11/17,12/1,1
2/15 対人援助・スピリチュアルケア研修(3日間)(15名) 多職種

24/07/26 第14回早期からの緩和ケアを考える会 (34名) 多職種

ゲノム情報を活用したがん診療に従事する人材養成コース(インテンシブ)

毎週火曜日 エキスパートパネル

毎週火曜日、
木曜日 遺伝カウンセリング

毎月第一火曜
日 遺伝カウンセリングカンファレンス

【大阪医科薬科大学】

がん関連学際領域(腫瘍糖尿病学・腫瘍循環器学)を担う次世代のプロフェッショナル養成コース (インテンシブ)

該当なし

資料7

令和6年度に導入された医療チーム

大学名	名称	分類	活動内容	備考
			該当なし	

令和5年度に導入された医療チーム

大学名	名称	分類	活動内容	備考
京都大学	Cardio-oncologyユニット	「化学療法」 「放射線療法」	心血管障害症例の治療方針の検討および経過報告をする。	
三重大学	婦人科腫瘍ユニット	「婦人科」 「放射線科」 「病理」	1回/2月、婦人科悪性疾患術後の術前画像診断・病理結果を病理、放射線科、婦人科で検討	
三重大学	婦人科腫瘍ユニット	「婦人科」 「放射線科」	1回/週、婦人科悪性疾患の放射線治療方針 放射線科、婦人科で検討	

医療チームの整備体制(令和6年度)

大学名	名称	分類	活動内容	備考
京都大学	脳腫瘍/ 小児脳腫瘍ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	脳神経外科・放射線治療科・小児科合同による集学的がん診療	
京都大学	頭頸部がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	耳鼻咽喉科・頭頸部外科、放射線治療科、腫瘍内科合同による集学的がん診療	
京都大学	肺がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	呼吸器内科、呼吸器外科、放射線治療科、放射線診断科による集学的がん診療	
京都大学	乳がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	乳腺外科、外来化学療法部、放射線治療科、放射線診断科、病理診断部、集学的がん診療部からなる集学的診療体制を構築	
京都大学	食道がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	消化管外科、消化器内科、腫瘍内科、放射線治療科、耳鼻科・頭頸部外科からなる集学的診療体制	
京都大学	胃がん/ GISTユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	腫瘍内科、消化管外科、消化器内科による集学的がん診療	
京都大学	大腸がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	腫瘍内科、消化器内科、消化管外科、肝胆膵・移植外科、放射線治療科による集学的がん診療	
京都大学	胆道がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	消化器内科、肝胆膵・移植外科、腫瘍内科、放射線診断科、放射線治療科による集学的診療	
京都大学	膵臓がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	肝胆膵・移植外科、消化器内科、放射線治療科、腫瘍内科による集学的がん診療	

京都大学	前立腺がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	泌尿器科・放射線治療科による集学的がん診療	
京都大学	婦人科腫瘍ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「その他」	婦人科腫瘍に関する診療科横断的チーム医療	
京都大学	メラノーマユニット	「化学療法」 「放射線療法」 「その他」	皮膚科、腫瘍内科、放射線治療科による集学的がん診療	
京都大学	骨転移ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	整形外科、放射線治療科、乳腺外科、泌尿器科による集学的がん診療	
京都大学	原発不明がん／希少がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」	診療科横断的かつ迅速な治療方針の決定と治療の実践	
京都大学	遺伝性腫瘍ユニット	「その他」	遺伝相談も含めたチーム医療	
京都大学	NET(神経内分泌腫瘍)ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	非がん領域の診療科も含めたチーム医療	
京都大学	小児がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	小児腫瘍に関する横断的ながん療法	
京都大学	OncoNephrology ユニット	「化学療法」 「緩和ケア」 「腎障害」 「その他」	腎臓内科、腫瘍内科、薬剤部によるがん領域と腎臓領域の両面から連携したチーム医療	
京都大学	irAE(免疫関連有害事象)ユニット	「化学療法」 「放射線療法」	irAE症例の治療方針の検討および経過報告をする。	
京都大学	血液腫瘍ユニット	「化学療法」 「放射線療法」	血液腫瘍に関する血液内科、放射線治療科による集学的がん診療	
京都大学	緩和ケアチーム ユニット	「緩和ケア」	多職種横断的なチームによる診療と支援	
三重大学	口腔ケアチーム	「緩和ケア」	がん治療前の口腔ケア	
三重大学	緩和ケアチーム	「緩和ケア」	多職種横断的なチームによる緩和ケア診療・ケアと支援 週1回チームラウンドと症例カンファレンスの実施	
三重大学	小児緩和ケアカンファレンス	「緩和ケア」	小児・AYA患者に係る緩和ケアカンファレンス(1回/月) 小児科医・緩和ケア医・精神科医がん看護専門看護師・小児看護専門看護師・病棟リンクナース・薬剤師・CLS・認定心理士・MSWで検討	
三重大学	栄養サポートチーム	「その他」	がん患者の栄養管理	
三重大学	褥瘡チーム	「その他」	がん患者の褥瘡管理	
三重大学	乳癌治療検討会	「放射線療法」 「化学療法」	1回/1週、放射線科、腫瘍内科、乳腺外科で乳癌患者の治療方針を検討	
三重大学	乳腺疾患術後検討会	「その他」	1回/2週、乳腺疾患術後の病理結果を病理、乳腺外科で検討	

三重大学	乳房MRI検討会	「その他」	1回/週、乳房MRIの画像診断を放射線科、乳腺外科で検討	
三重大学	乳腺疾患検討会	「その他」	1回/月、放射線科、病理、乳腺外科で術後症例の画像・病理について勉強	
三重大学	膵がん教室	「化学療法」	医師、薬剤師、管理栄養士、看護師、ソーシャルワーカー、臨床心理士による膵がん教室を月2回実施	
三重大学	内科小児科合同移植カンファレンス	「化学療法」	血液内科医、小児科医、輸血部医、薬剤師、看護師による、治療、移植等ミーティング1回/月実施	
三重大学	がん免疫療法対策チーム	「化学療法」	診療科横断的、多職種連携によるがん免疫療法のチーム医療	
三重大学	AYAがんチーム	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	小児科、腫瘍内科、産婦人科、緩和ケア科、小児トータルケアセンターからなる集学的診療体制	
三重大学	小児がんチーム	「放射線療法」 「化学療法」 「がんリハビリ」 「ゲム医療」 「緩和ケア」 「その他」	小児がん患者のトータルケアを目指し、多職種によるテーマ別小グループを作成し、目標をもって活動を開始している。	
三重大学	小児・AYAがんトータルケアセンター	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	小児がんおよびAYA世代がんを対象とした、小児科、腫瘍内科、産婦人科、緩和ケア科および同センターからなる集学的診療体制	
滋賀医科大学	化学療法チーム	「化学療法」	医師7名、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーがチーム回診と定例カンファレンスを行っている。	
滋賀医科大学	緩和ケアチーム	「緩和ケア」	医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーがチーム回診と定例カンファレンスを行っている。	
滋賀医科大学	栄養サポートチーム	「放射線療法」 「化学療法」 「その他」	医師、看護師、薬剤師、管理栄養士がチーム回診と定例カンファレンスを行っている。	
滋賀医科大学	呼吸器カンファレンス	「放射線療法」 「化学療法」 「その他」	呼吸器内科、呼吸器外科、腫瘍内科、放射線科が定例カンファレンスと集学的治療を行っている。	
滋賀医科大学	消化器カンファレンス	「放射線療法」 「化学療法」 「その他」	消化器内科、消化器外科、腫瘍内科、放射線科が定例カンファレンスと集学的治療を行っている。	
滋賀医科大学	乳腺腫瘍カンファレンス	「放射線療法」 「化学療法」 「その他」	乳腺外科、放射線科が定例カンファレンスと集学的治療を行っている。	
滋賀医科大学	家族性腫瘍カンファレンス	「その他」	腫瘍診療科医師、臨床遺伝専門医、病理医、認定遺伝カウンセラー、看護師、薬剤師が定例カンファレンスと遺伝カウンセリング対応を行っている。	
滋賀医科大学	がん遺伝子パネル検査エキスパートパネル	「化学療法」 「その他」	腫瘍診療科医師、臨床遺伝専門医、病理医、認定遺伝カウンセラー、看護師、薬剤師が定例カンファレンスを行っている。	
滋賀医科大学	放射性核種療法カンファレンス	「放射線療法」 「化学療法」	腫瘍診療科医師、放射線科医が定例カンファレンスと治療を行っている。	
大阪医科薬科大学	緩和ケアセンター	「その他」	がん患者の痛みや心のケアに関するチーム医療 医師(緩和医療専門医、精神科専門医)、歯科医師、看護師(がん看護専門看護師、がん化学療法看護認定看護師、がん放射線療法看護認定看護師)、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、公認心理士(臨床心理士)	

大阪医科薬科大学	化学療法センター	「化学療法」	主に消化器がん、腎がん、原発不明がんに関するチーム医療	
大阪医科薬科大学	褥瘡対策室	「その他」	皮膚科および形成外科の専門医と認定看護師を中心として、多職種が連携して活動	
大阪医科薬科大学	遺伝カウンセリング室	「その他」	臨床遺伝学を専門とする医師、認定遺伝カウンセラーを中心に、遺伝・遺伝性疾患に関することについて、相談・説明・カウンセリングを行う	
大阪医科薬科大学	栄養サポートチーム	「その他」	医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、歯科医師、歯科衛生士、臨床検査技師、言語聴覚士、事務スタッフが連携し、患者さんに適切な栄養を提供する	
大阪医科薬科大学	がん相談支援センター	「その他」	がん専門の看護師、医療ソーシャルワーカー、公認心理師、事務員などご相談内容に応じて、それぞれの担当者が相談に対応	
大阪医科薬科大学	肝疾患センター	「肝臓」	肝臓病についての理解を深め、日常生活に対する疑問や病気に対する不安を解消することを目的に、医師・看護師・薬剤師・栄養士・医療ソーシャルワーカーが各テーマについて肝臓病教室を開催	
大阪医科薬科大学	循環器センター	「循環器」	循環器疾患の診療を担う循環器内科、心臓血管外科・小児心臓血管外科、小児科(循環器)が核となっています。あらゆる循環器疾患を扱います	
大阪医科薬科大学	低侵襲血管内治療センター	「血管内」	循環器内科、脳神経外科・脳血管内治療科、放射線診断科、小児科、消化器内科、麻酔科・ペインクリニック等の関連診療科医師と当センターが連携し専任の看護師・薬剤師・診療放射線技師・臨床工学技士と共にチーム医療を行う	
大阪医科薬科大学	口腔ケアチーム	「口腔内」	口腔外科医が関連部署と連携し治療を行う	

がんセンターの体制

【京都大学】

	がんセンター名	がん種	主な診療科名	メンバー・職種(◎:リーダー)	内容	新規治療開始患者のうち検討症例の割合
1	脳腫瘍・小児脳腫瘍ユニットカンファレンス	脳腫瘍	脳神経外科 放射線治療科 小児科	◎脳神経外科医 放射線治療医 小児科医 看護師 作業療法士・理学療法士 薬剤師	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
2	前立腺がんユニットカンファレンス	前立腺がん 精巣がん 陰茎がん	泌尿器科 放射線治療科	◎泌尿器科医、放射線治療科医、画像診断科、病理部門、看護師	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
3	肺がんユニットカンファレンス	肺がん 悪性中皮腫 縦隔腫瘍	呼吸器内科 呼吸器外科 放射線治療科 放射線診断科	◎呼吸器内科医、呼吸器外科医、放射線治療科医、放射線診断科医	集学的治療を要する患者の治療方針検討、他科への治療依頼、治療難渋例についてのディスカッション	25%未満実施
4	乳がんユニットカンファレンス	乳がん	乳腺外科 腫瘍内科 放射線治療科 放射線診断科 病理診断科	◎乳腺外科医、腫瘍内科医、放射線治療科医、放射線診断科医、病理診断科医	新規、継続治療患者のの治療並びに診断の標準化を行う。	全例実施
5	食道がんユニットカンファレンス	食道がん	消化管外科 消化器内科 放射線治療科 腫瘍内科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科	◎消化管外科医、消化器内科医、放射線治療科医、耳鼻科・頭頸部外科医、腫瘍内科医、理学療法士	新規治療開始患者および再発患者の治療方針の検討および経過報告をする。	全例実施
6	膵臓がんユニットカンファレンス	膵臓がん	肝胆膵・移植外科 消化器内科 放射線治療科 放射線診断科 腫瘍内科 遺伝子診療部	◎肝胆膵・移植外科医、腫瘍内科医、放射線治療科医、放射線診断科医、消化器内科医、精神科医、看護師、薬剤師、遺伝カウンセラー、ソーシャルワーカー	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
7	血液腫瘍ユニットカンファレンス	造血器腫瘍	血液内科 放射線治療科	◎血液内科医、放射線治療医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
8	緩和ケアチームユニットカンファレンス	全種	緩和医療科 各診療科	◎緩和ケア医、精神科医、各診療科医、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、作業療法士	新規依頼患者および継続診察患者の支援方針・療養場所の選択の検討および経過報告をする。	20～30%実施
9	頭頸部がんユニットカンファレンス	頭頸部がん	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 放射線治療科 腫瘍内科	◎耳鼻咽喉科・頭頸部外科医、放射線治療医、腫瘍内科医、看護師	新規治療開始患者の治療方針決定。 放射線治療中患者の経過報告。 治療中患者で今後の治療方針が悩ましい症例の方針決定。	全例実施
10	胃がん・GISTユニットカンファレンス	胃がん 消化管間質腫瘍(GIST)	腫瘍内科 消化器内科 消化管外科 放射線治療科	◎腫瘍内科医、消化管外科医、消化器内科医、放射線治療医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
11	小児がんユニットカンファレンス	骨軟部腫瘍 神経芽腫などの小児がん	小児科 整形外科 小児外科 眼科 耳鼻咽喉科 泌尿器科	◎小児科医、整形外科医、必要時:小児外科医、耳鼻咽喉科医、泌尿器科医、眼科医	新規治療開始患者、治療中患者の治療方針決定および経過報告をする。	全例実施
		小児脳腫瘍	小児科 脳外科 放射線治療科	◎小児科医、脳外科医、放射線治療科	新規治療開始患者、治療中患者の治療方針決定および経過報告をする。	全例実施
12	大腸がんユニットカンファレンス	大腸がん	腫瘍内科 消化器内科 消化管外科 肝胆膵・移植外科 放射線治療科	◎腫瘍内科医、消化器内科医、消化管外科医、肝胆膵移植外科医、放射線治療科医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施

13	原発不明がん・希少がんユニットカンファレンス	原発不明がん 希少がん	腫瘍内科 病理診断科 放射線診断科 放射線治療科 呼吸内科 小児科 消化器内科 整形外科	◎腫瘍内科医、消化器内科医、病理診断科医、小児科医、呼吸器内科医、婦人科医、放射線治療医、放射線診断医、肝胆膵移植外科医、消化管外科医、乳腺外科医、整形外科医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	75%以上100%未満
14	骨転移ユニットカンファレンス	転移性骨腫瘍	ウイルス・再生医学研究所 整形外科 放射線治療科 呼吸内科 リハビリテーション科	◎整形外科医、乳腺外科医、放射線治療医、泌尿器科医	新規対象患者の診断、治療方針の決定、治療中患者の方針の検討および経過報告をする。	50%以上75%未満
15	家族性腫瘍ユニットカンファレンス	家族性腫瘍	遺伝子診療部 産科・婦人科 乳腺外科 泌尿器科 眼科	◎遺伝子診療部、臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラー	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
16	婦人科腫瘍ユニットカンファレンス	子宮がん 卵巣がん 外陰がん	産科婦人科	◎婦人科医、放射線治療医、放射線診断医、病理医、看護師	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
17	NET(神経内分泌腫瘍)ユニットカンファレンス	神経内分泌腫瘍	肝胆膵・移植外科 腫瘍内科 糖尿病・内分泌・栄養内科 消化器内科 放射線診断科	◎肝胆膵移植外科医、腫瘍内科医、消化器内科医、内分泌代謝内科医、放射線診断科医、放射線治療医	新規依頼患者および継続診察患者の支援方針の検討および経過報告をする。	全例実施
18	メラノーマユニットカンファレンス	悪性黒色腫	皮膚科 耳鼻科 腫瘍内科 産科婦人科 薬剤部 放射線治療科	◎皮膚科医、腫瘍内科医、病理診断医、放射線治療医、薬剤師	新規依頼患者および継続診察患者の支援方針の検討および経過報告をする。	全例実施
19	オンコネフロジーユニットカンファレンス	腎がん 尿路がん 副腎腫瘍	腎臓内科 腫瘍内科 薬剤部	◎腎臓内科医、腫瘍内科医、薬剤部	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
20	クリニカルシーケンスユニットカンファレンス	原発不明がん 希少がん 標準治療が終了もしくは収量が見込まれる固形がん	腫瘍内科 病理診断科 遺伝子診療部	◎腫瘍内科医、肝胆膵移植外科医、泌尿器科医、婦人科医、放射線治療医、消化器内科医、消化管外科医、乳腺外科医、整形外科、放射線診断医、臨床遺伝専門医、病理医、バイオインフォマティクス、ゲノム基礎研究者、認定遺伝カウンセラー、ゲノム医療コーディネーター	クリニカルシーケンス(OncoPrime)を受けた患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
21	胆道がんユニットカンファレンス	胆道がん 胆のうがん 肝がん	肝胆膵・移植外科 消化器内科 腫瘍内科 放射線診断科 放射線治療科	◎肝胆膵移植外科医、消化器内科医、腫瘍内科医、放射線診断科医、放射線治療科医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
22	エキスパートパネル	原発不明がん 希少がん 標準治療が終了もしくは収量が見込まれる固形がん、および血液癌	腫瘍内科を中心に化学療法を担当する全診療科が参加 病理診断科 遺伝子診療部	◎腫瘍内科医、肝胆膵移植外科医、泌尿器科医、婦人科医、放射線治療医、消化器内科医、消化管外科医、乳腺外科医、整形外科、放射線診断医、臨床遺伝専門医、病理医、ゲノム基礎研究者、認定遺伝カウンセラー、ゲノム医療コーディネーター	遺伝子パネルを受けた患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
23	irAEユニットカンファレンス	免疫チェックポイント阻害剤対象がん種	免疫膠原病内科を中心に免疫チェックポイント阻害剤を使用する全診療科	◎免疫膠原病内科医、腫瘍内科医、血液内科医、肝胆膵移植外科医、泌尿器科医、婦人科医、放射線治療医、消化器内科医、消化管外科医、乳腺外科医、放射線診断医、循環器内科医	irAE症例の治療方針の検討および経過報告をする。	irSAE症例
24	CardioOncologyユニットカンファレンス	全癌種	循環器内科を中心に腫瘍循環器に関わる全診療科	◎循環器内科医、免疫膠原病内科医、腫瘍内科医、血液内科医、肝胆膵移植外科医、泌尿器科医、婦人科医、放射線治療医、消化器内科医、消化管外科医、乳腺外科医、放射線診断医	i心血管障害症例の治療方針の検討および経過報告をする。	心血管障害症例

【三重大学】

	カンサーボード名	がん種	メンバーの診療科名	メンバー職名・職種(◎:リーダー)	内容	新規治療開始患者のうち検討症例の割合
1	乳癌治療検討会	乳癌	放射線科 腫瘍内科 乳癌外科	◎乳癌外科医 腫瘍内科医 放射線治療医 薬剤師 看護師	1回/1週、放射線科、腫瘍内科、乳癌外科で乳癌患者の治療方針を検討	全例実施
2	乳癌疾患術後検討会	乳癌	病理 乳癌外科	◎乳癌外科医 病理医	1回/月、乳癌疾患術後の病理結果を病理、乳癌外科で検討	全例実施
3	乳房再建検討会	乳癌	形成外科 乳癌外科	◎乳癌外科医 形成外科医	1回/月、形成外科、乳癌外科で乳房再建予定症例について検討	全例実施
4	乳癌疾患カンファレンス	乳癌	乳癌外科 放射線科 病理	◎乳癌外科医 放射線診断医 病理医 放射線技師 臨床検査技師	1回/2ヶ月、乳癌疾患の画像と病理を対して検討	毎回2~3例 (現在、休止中)
5	がんゲノム医療エキスパートパネル	特定なし	ゲノム医療部、検査部、病理部、腫瘍内科、耳鼻科、消化器内科、消化管外科、呼吸器内科、産婦人科、看護部、その他関連する診療科医師など	◎医師、看護師、遺伝カウンセラー、	がんパネル検査のデータのディスカッション	
6	Tumor Board	特定なし	放射線診断科、放射線治療科、IVR科、病理部、腫瘍内科、小児科、整形外科、緩和ケア科、その他関連する診療科すべて	◎医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、放射線技師、ケースワーカー	1回/月、診断困難例、治療難渋例についての検討	
7	骨転移合同カンファレンス	特定なし	放射線診断科、放射線治療科、IVR科、腫瘍内科、整形外科、緩和ケア科、その他関連する診療科すべて	◎医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、放射線技師	1回/月、骨転移例についての検討	
8	血液腫瘍内科全体症例検討会	造血器腫瘍 固形腫瘍	血液内科、腫瘍内科	◎血液内科医、腫瘍内科医、乳癌外科医	1回/週、造血器腫瘍患者、固形腫瘍患者の治療方針を検討	全例実施
9	血液内科検討会	造血器腫瘍	血液内科	◎血液内科医、臨床検査技師	1回/週、造血器腫瘍患者の治療方針を検討	全例実施
10	小児がん検討会	小児がん	小児科	◎小児科医、小児血液専門医	1回/週、小児がん患者の治療方針を検討	全例実施
11	小児造血細胞移植カンファレンス	小児がん	小児科	◎小児科医、小児血液専門医、看護師、薬剤師、管理栄養士	2回/週、小児がんで造血細胞移植患者の治療方針を検討	全例実施
12	小児造血細胞移植前カンファレンス	小児がん	小児科、放射線治療科、緩和ケア科、高度生殖医療センター、栄養部、薬剤部、輸血部、その他関連する診療科すべて	◎医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、放射線技師、管理栄養士、産婦人科医、ケースワーカー	不定期	全例実施
13	小児科Tumor Board	小児がん	小児科	◎小児科医、小児血液専門医	1回/2か月、当院における小児がん患者の疾患別治療成績の解析、課題の抽出、今後の治療方針の検討	全例実施

14	緩和ケアカンファレンス	特定なし	緩和ケア科、精神神経科、循環器内科	◎緩和ケア科医師、精神神経科医師、循環器内科医師、がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師、認定心理士、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー	2回/週、新規依頼患者および介入継続患者の苦痛の評価、診療・ケアの方針、意思決定支援、療養先支援に関する検討と情報共有をする。	全例実施
15	小児緩和ケアカンファレンス	小児がん	緩和ケア科、小児科、精神神経科	◎緩和ケア科医師、小児科医師、精神神経科医師、がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師、小児看護専門看護師、病棟看護師、認定心理士、チャイルドライフスペシャリスト、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー	1回/月、新規治療開始症例の情報共有、家族ケアを含む全人的苦痛への対応、学習・生活を含む生活に視点をあてたニーズへの対応に関する検討	全例実施

【滋賀医科大学】

	がん種	メンバーの診療科名	メンバー職名・職種(◎:リーダー)	内容	新規治療開始患者のうち検討症例の割合	
1	腫瘍薬物療法カンファレンス	全固形腫瘍	腫瘍内科 消化器内科 消化器外科 乳腺外科	◎腫瘍センター副センター長、腫瘍内科医、消化器内科医、乳腺外科医、呼吸器内科医、消化器外科医、薬剤師、看護師	新規の入院患者対診、外来初診患者の治療方針の検討および経過報告をする。	全例実施
2	肺癌放射線治療カンファレンス	肺癌	放射線科 呼吸器外科 呼吸器内科	◎放射線科科長、放射線科医、呼吸器外科医、呼吸器内科医	新規入院患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
3	骨髄移植カンファレンス	白血病 リンパ腫	血液内科 小児科	◎血液内科医、血液内科ローテーター、小児科医	移植予定者について前処置薬の検討および移植後患者についての経過報告をする。	全例実施
4	血液疾患カンファレンス	血液全疾患	血液内科 薬剤部 検査部 輸血部	◎血液内科医、病棟看護師、薬剤師、血液検査技師、薬剤部検査技師	全ての入院症例の経過報告と問題点を検討する。	全例実施
5	婦人科癌カンファレンス	婦人科がん	母子・女性診療科 放射線科 薬剤部	◎母子・女性診療科科長、母子・女性診療科医、放射線治療医、	新規入院患者、外来初診患者の治療方針、術式の検討および経過報告をする。	全例実施
6	乳癌カンファレンス	乳癌	乳腺一般外科	◎乳腺一般外科科長、乳腺外科医、放射線科医、病理医、研修医、学生	新規入院患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
7	胃癌カンファレンス	食道癌 胃癌	消化器内科 消化器外科 放射線科 病理部、光学診療部	◎消化器内科医、消化器外科医、内視鏡医、放射線診断医、病理医、研修医、学生	新規手術患者の治療方針の決定および術後経過報告、病理診断報告、術前画像診断の評価などを行う。	全例実施
8	肝胆膵がんカンファレンス	肝胆膵がん	消化器内科 消化器外科 放射線科 病理部、光学診療部	◎消化器外科医、消化器内科医、内視鏡医、放射線診断医、病理医、研修医、学生	新規手術患者の治療方針の決定および術後経過報告、病理診断報告、術前画像診断の評価などを行う。	75%以上-100%未満実施
9	大腸癌カンファレンス	大腸癌	消化器内科 消化器外科 放射線科 病理部、光学診療部	◎消化器内科医、消化器外科医、内視鏡医、放射線診断医、病理医、研修医、学生	新規手術患者の治療方針の決定および術後経過報告、病理診断報告、術前画像診断の評価などを行う。	全例実施
10	乳腺カンファレンス	乳癌	乳腺一般外科、放射線科、病理部	◎乳腺一般外科科長、乳腺外科医、放射線科医、病理医、研修医、放射線治療医、近隣病院の乳腺科医、放射線科医、放射線技師	乳癌患者の診断、治療方針を検討する	50%以上-75%未満実施
11	脳腫瘍治療カンファレンス	脳腫瘍	脳神経外科	◎脳神経外科医、学生	脳腫瘍にて入院の患者の治療方針、治療経過ならびに外来患者の治療方針について評価報告する	全例実施
12	泌尿器癌カンファレンス	泌尿器癌	泌尿器科	◎泌尿器科科医、学生	泌尿器癌入院患者の治療方針につき討議する。主な外来抗がん療法患者について評価する。	全例実施
13	耳鼻科放射線科合同カンファレンス	頭頸部癌	耳鼻科 放射線科	◎耳鼻咽喉科科長、耳鼻咽喉科医、放射線治療医、診療放射線技師、看護師	放射線治療を受ける頭頸部癌の治療方針や治療経過について検討、評価する。	全例実施

14	放射線治療カンファレンス	全がん腫	放射線科	◎放射線治療医、診療放射線技師、看護師	放射線治療新規患者の照射範囲・線量の確認や治療中患者の治療方針について検討する。	全例実施
15	緩和ケアカンファレンス	全悪性腫瘍	腫瘍内科 腫瘍センター 精神科 薬剤部 看護部	◎腫瘍内科長・腫瘍センター長、腫瘍内科医、精神科医、がん診療全科医、看護師、薬剤師、理学療法士、MSW	新規の介入患者対診、外来初診患者の治療方針の検討および経過報告をする。	全例実施
16	緩和ケアカンファレンス	頭頸部癌	歯科 口腔外科 緩和ケアチーム ソーシャルワーカー	◎歯科口腔外科医、精神科医認定看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー	高齢患者の治療後の療養施設決定のための検討、評価を行う	全例実施
17	皮膚悪性腫瘍カンファレンス	皮膚癌、皮膚原発悪性リンパ腫	皮膚科	◎皮膚科医	入院患者および外来手術患者の治療方針を決定する。	全例実施
18	骨転移カンファレンス	転移性骨腫瘍	整形外科 放射線科	◎整形外科医、放射線科医、乳腺一般外科医、消化器外科医、血液内科医、呼吸器内科医、呼吸器外科医、泌尿器科医、母女性科医、耳鼻咽喉科医、	骨転移患者の治療方針を決定する	50%以上-75%未満実施
19	小児血液腫瘍多職種カンファレンス	小児血液腫瘍	小児科 看護部 薬剤部 栄養治療部 リハビリテーション部	◎小児科医、整形外科医、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、作業療法士	小児血液腫瘍患者の新規入院症例と問題の多い症例を多職種で検討する	全例実施
20	がんセンターボード	原発不明癌	腫瘍センター、呼吸器外科、泌尿器科、消化器外科、消化器内科、放射線科、整形外科、腫瘍内科、病理部、看護部	◎消化器外科医、消化器内科医、呼吸器外科医、泌尿器科医、放射線科医、整形外科医、腫瘍内科医、病理医、医学生、研修医、看護師	大腸癌術後、多発肺腫瘍、多発リンパ節腫瘍のある原発不明の淡明細胞癌症例に対する、分子標的薬治療の妥当性について	25%未満実施
21	がんゲノム医療エキスパートパネル	特定なし	腫瘍センターがんゲノム医療部門、検査部、病理部、腫瘍内科、臨床遺伝相談科、耳鼻科、消化器内科、消化管外科、呼吸器内科、産婦人科、小児科、看護部、その他関連する診療科医師など	◎医師、看護師、薬剤師、認定遺伝カウンセラー、	がんパネル検査のデータのディスカッション	

【大阪医科薬科大学】

	がん種	メンバーの診療科名	メンバー職種・職種(◎:リーダー)	内容	新規治療開始患者のうち検討症例の割合	
1	小児がんカンファレンス	小児固形がん	小児科、脳外科、小児外科、放射線科	各科医師、看護師	患者の治療方針の決定	75%以上-100%未満実施
2	婦人科悪性腫瘍術前カンファレンス	子宮がん 卵巣がん	婦人科腫瘍科	婦人科腫瘍科:科長、医長、医員	手術予定者患者の治療方針の決定及び経過報告	全例実施
3	婦人科悪性腫瘍術後カンファレンス	子宮がん 卵巣がん	婦人科腫瘍科 放射線診断科	婦人科腫瘍科:科長、医長、医員 放射線治療医、病理医	手術予定者患者の治療方針の決定及び経過報告	全例実施
4	ケモカンファレンス	消化器がん	化学療法センター	化学療法センター長、消化器内科医、研修医、病棟看護師、外来看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、CRC	新規治療開始患者の治療方針の決定及び経過報告	全例実施
5	上部消化管外科内科カンファレンス	胃がん 食道がん	化学療法センター 消化器外科	化学療法センター長、消化器内科医、消化器外科医	手術適応、化学療法適応について検討	全例実施
6	下部消化管外科内科カンファレンス	大腸がん	化学療法センター 消化器外科	化学療法センター長、消化器内科医、消化器外科医	手術適応、化学療法適応について検討	全例実施
7	Breast Cancer Bord	乳がん	乳腺内分泌外科、放射線診断科治療科、整形外科	乳腺内分泌外科科長、放射線治療医、病理診断医、整形外科医、看護師、薬剤師	新規治療開始患者の治療方針の決定及び経過報告	全例実施

8	骨メタカンファレンス	がん全般の骨転移又は疑い	院内がん連絡担当医、がんセンター関係	副がんセンター長、放射線診断医、整形外科医、呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科医、リハビリテーション医、看護師、薬剤師、理学療法士、診療情報管理し、化学療法センター長、がんに関わる診療科医師、緩和ケア医師	骨転移有、疑い患者の治療方針の検討、症例結果報告	75%以上-100%未満実施
9	がんセンターがんセンターボード	指定なし 治療困難事例	院内がん連絡担当医、がんセンター関係	副がんセンター長、放射線診断医、整形外科医、呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科医、リハビリテーション医、看護師、薬剤師、理学療法士、診療情報管理し、化学療法センター長、がんに関わる診療科医師、緩和ケア医師	診療科を問わず治療方針を検討	25%未満実施
10	LDC	肺がん 転移性肺腫瘍 縦隔腫瘍	呼吸器外科、呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科、病理部・病理診断科、放射線診断科、放射線腫瘍科	呼吸器外科科長、呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科、科長、各科医員、放射線診断医・治療医、病理医	新規治療患者の治療方針決定	全例実施

資料9

令和6年度 プロトコル(臨床研究実施計画書等)作成への関与状況

【京都大学】

NO.	プロトコル(臨床研究実施計画書等)作成への関与状況	所属コース	氏名
1	心電図同期CTおよびMRIを用いた放射線治療線量分布の解析	高精度緩和的放射線治療・核医学治療に精通し、各地域で放射線治療を担う人材養成コース	村上 高志
2	C1509 婦人科がん患者に対するモバイルアプリケーションなどを用いたデータベースの構築とヘルスケア評価の探索的研究	遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース	梅宮 槇樹
3	R4816 治療中のがん患者を対象とするモバイルアプリケーションなどを用いた症状別受診勧奨度推奨尺度 Focused On Critical Symptoms	遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース	梅宮 槇樹
4	多様な生成AIモデルを使った、臨床情報抽出・生成の精度検証	遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース	石田 憲太郎
5	「大腸癌患者におけるオキサリプラチン投与期間中の末梢神経障害及びADL・QOLの経過とそれらの関連性の検討」の研究実施計画書作成(2024年度)	がんサバイバーシップケアを担うリハビリテーションスタッフの養成コース	伊藤 凌太郎
6	2024年「造血管腫瘍入院患者の健康関連QOLに関連する身体的特徴」研究計画書完成(7月)、医の倫理委員会承認(8月) Supportive Care in Cancer投稿中(11月)	がんサバイバーシップケアを担うリハビリテーションスタッフの養成コース	小藤 大樹

【三重大学】

NO.	プロトコル(臨床研究実施計画書等)作成への関与状況	所属コース	氏名
1	小児AYA世代再発急性リンパ性白血病の治療実態と予後把握に関する前方視的観察研究(ALL-R23研究)	がんサバイバーシップケアを担う小児がん治療専門医コース	豊田秀実(教員)
2	小児・AYA世代初回高リスク再発急性リンパ性白血病に対するイノズマブオゾガマイシンとmini-hyper CVDIによる寛解導入療法の第II相試験(PEDAYA-R23試験)	がんサバイバーシップケアを担う小児がん治療専門医コース	豊田秀実(教員)
3	米国で利用されているストロー(HiccAway)の国内入院中患者での使用感に関する調査:前向き観察研究	がん患者のQOL向上及び終末期医療を担う看護師養成コース	岸 鷹平
4	三重大学医学部附属病院における緩和ケアチーム介入のレジストリ研究(進行中)	緩和医療専門医・認定医コース(インテンシブコース)	竹口有美

【滋賀医科大学】

NO.	プロトコル(臨床研究実施計画書等)作成への関与状況	所属コース	氏名
1	R2024-052「プロトンポンプ阻害薬ポプロザンの安全性評価のための探索的臨床薬理学研究」	先制がん医療を担う薬剤師養成コース	福井里佳

【大阪医科薬科大学】

NO.	プロトコル(臨床研究実施計画書等)作成への関与状況	所属コース	氏名
1	「高齢者進行・再発非小細胞肺癌に対するドセタキセル+ヒト型抗VEGFR-2モノクローナル抗体(ラムシルマブ)についての有効性と安全性についての後方視的解析」	プレジジョンメディシンを推進するための臨床研究開発を担う人材育成コース	船本智哉
2	進展型小細胞肺癌に対する化学療法+免疫チェックポイント阻害剤併用療法における好中球/リンパ球比の臨床的有用性の検討(倫理委員会申請準備中)	プレジジョンメディシンを推進するための臨床研究開発を担う人材育成コース	石川翔一
3	基礎研究基盤Cとして、「肺癌分子標的薬オシメルチニブ起因性心臓機能障害モデル樹立とメカニズム解析」のテーマで申請を行った。	プレジジョンメディシンを推進するための臨床研究開発を担う人材育成コース	満屋奨

令和5年度 プロトコル(臨床研究実施計画書等)作成への関与状況

【京都大学】

NO.	プロトコル(臨床研究実施計画書等)作成への関与状況	所属コース	氏名
	該当なし		

【三重大学】

NO.	プロトコル(臨床研究実施計画書等)作成への関与状況	所属コース	氏名
1	小児AYA世代再発急性リンパ性白血病の治療実態と予後把握に関する前方視的観察研究(ALL-R23研究)	がんサバイバーシップケアを担う小児がん治療専門医コース	豊田秀実(教員)
2	小児・AYA世代初回高リスク再発急性リンパ性白血病に対するイノツズマブオゾガマイシンとmini-hyper CVDIによる寛解導入療法の第II相試験(PEDAYA-R23試験)	がんサバイバーシップケアを担う小児がん治療専門医コース	豊田秀実(教員)

【滋賀医科大学】

NO.	プロトコル(臨床研究実施計画書等)作成への関与状況	所属コース	氏名
	該当なし		

【大阪医科薬科大学】

NO.	プロトコル(臨床研究実施計画書等)作成への関与状況	所属コース	氏名
	該当なし		

令和6年度 国際学会、英文誌への発表一覧

【京都大学】

NO.	取組状況等	所属コース	氏名
1	学会等発表 「the 3rd ICRPT」、「Estimation of three-dimensional target positions from a single direction using orthogonal kV x-ray imaging subsystems for markerless tumor tracking」、「2024年4月」(筆頭発表)	放射線治療で顕在化している課題に対応する医学物理士養成コース	清水 優琴音
2	学会等発表 2024 AAPM 66th Annual Meeting “Tri-domain Peristaltic Artifact Reduction Model for Mitigating Motion Artifacts in Cone-beam CT Imaging”, 2024, July (筆頭)	放射線治療で顕在化している課題に対応する医学物理士養成コース	大西 隆生
3	学会等発表 2024/4 日本産婦人科学術講演会、 タイトル:A Retrospective Study of MRI Findings and Pathohistological Features of IB1(FIGO 2008) Cervical Cancer 発表年月:2024/4 筆頭演者	遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース	高 一弘
4	学会等発表 2024/7 日本婦人科腫瘍学会 タイトル:A Retrospective Study of Changes in Perioperative Total Cholesterol Levels in Patients with Corpus Cancer 発表年月:2024/7/16 筆頭演者	遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース	高 一弘
5	学会等発表 2024/9 日本癌学会 タイトル:A Retrospective Study of MRI Findings and Pathohistological Features of Early Stage Cervical Cancer 発表年月:2024/9/19 筆頭演者	遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース	高 一弘
6	学会等発表 Taiwan Association of Obstetrics and Gynecology, Annual Congress、A Retrospective Analysis of the Efficacy of Bevacizumab Maintenance on the Histopathological Mesenchymal Subtype of High-grade Serous Ovarian Carcinoma., Mar 2024 筆頭合評	遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース	石田 憲太郎
7	学会等発表 「16th ACPE and 29th JSPE (第16回国際薬剤疫学会アジア会議及び第29回日本薬剤疫学会学術総会)(16th Asian Conference on Pharmacoepidemiology and 29th Japanese Conference on Pharmacoepidemiology joint meeting)・一般ポスター」	先端治療学コース	長谷部 依央
8	学会等発表 「Antidepressant Use for Patients with Depression and the Risk of Diabetes」(2024年10月12日)(Ito Hasebe・Keiko Ikuta, Shunsaku Nakagawa, Kenji Momo, Yuki Shigetsura, Daiki Hira, Tomohiro Terada) (筆頭)	先端治療学コース	長谷部 依央
9	学会等発表 第52回日本免疫学会学術集会、ICOS+CD4 T cells contribute to development of anti-PD-1 antibody-induced lung injury through promoting B cell differentiation.、2024年1月(筆頭発表)	先端治療学コース 新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース	横井 茉里
10	学会等発表 The 3rd International Symposium of Clinical Immunology, Distinguishing Clinical and Serological Features of Immune-related Adverse Events-related Arthritis (irAE-A) and Rheumatoid Arthritis (RA): Serum Globulin as a Potential Predictor of RA Relapse After Immune Checkpoint Inhibitor Therapy.、2024年5月(共著発表)	先端治療学コース 新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース	横井 茉里
11	学会等発表 「JSAI2024」、「Genes Feature Extraction Method in Gene Regulatory Networks Based on Distance between Graphs」、「2024年5月」	がんの医療・研究においてビッグデータや人工知能を活用できる人材育成コース	大島 将
12	学会等発表 Asia Pacific Oncology Pharmacy Congress 2024, Development of a population pharmacokinetic model for bevacizumab in Japanese cancer patients with proteinuria., Oct 12th, 2024	新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース	増田 崇
13	論文発表 Modern Pathology, Location of Fibroblastic Foci: Does the Lesion You Observe Really Suggest Usual Interstitial Pneumonia?, 2024/11/29 online ahead print (筆頭)	病理医養成コース	桂川 広幸
14	論文発表 Japan Society of Clinical Oncology 「Electronic patient reported outcomes as digital therapeutics for patients with cancer: a narrative review of current practices and future directions」2024年10月 共著者	遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース	梅宮 槇樹
15	論文発表 Cureus Successful Management of a Renin-Secreting Tumor in Pregnancy: A Case Report 11/08/2024 (責任著者)	遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース	石田 憲太郎
16	論文発表 Cell Reports Methods, Development of a 3-dimensional organotypic model with characteristics of peripheral sensory nerves, 2024/8(筆頭発表)	先端治療学コース	荻堂 亮甫
17	論文発表 Mitani K, Ogata H, Takachi T, Fukui W, Kawaguchi K, Ogura T, Horikoshi Y, Kawasaki T, Watanabe K. Successful peripheral blood stem cell harvesting for two pediatric cases of atypical teratoid/rhabdoid tumor with low bodyweight. Pediatr Blood Cancer. 2024 Mar;71(3):e30833. doi: 10.1002/pbc.30833	先端治療学コース	三谷 一樹
18	論文発表 「AAPS PharmSciTech」 「Real-time particle emission monitoring for the non-invasive prediction of lung deposition via a dry powder inhaler.」(2024年5月) (筆頭発表)	先端治療学コース	畠添咲希子

19	論文発表 J Pharm Health Care Sci, Subjective symptoms are triggers for the detection of immune checkpoint inhibitor-induced interstitial lung disease and associate with disease severity: a single-center retrospective study.、2024年8月(筆頭発表)	先端治療学コース 新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース	横井 茉里
20	論文発表 Low serum concentrations of bevacizumab and nivolumab owing to excessive urinary loss in patients with proteinuria: a case series. Cancer Chemother Pharmacol 94, 615-622. (2024).	新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース	増田 崇

【三重大学】

NO.	取組状況等	所属コース	氏名
	該当なし		

【滋賀医科大学】

NO.	取組状況等	所属コース	氏名
1	Nguyen Thi Hoa, Atsushi Takano, Yohei Miyagi, Yataro Daigo. Identification of URST4 as a new biomarker and target therapy for precise breast cancer treatment. 83rd Annual Meeting of the Japanese Cancer Association, Fukuoka, September 2024.	複合的がん個別化医療を推進する医療人養成コース	Nguyen Thi Hoa
2	Hoa Thi Nguyen, Atsushi Takano, Yohei Miyagi, Yataro Daigo. Identification of URST4 as a prognostic factor and therapeutic target for breast cancer. 69th Annual Meeting of the Japan Society of Human Genetics. October 9-12, 2024.	複合的がん個別化医療を推進する医療人養成コース	Nguyen Thi Hoa
3	Mbugua RW, Takano A, Tsevegjav B, Yokose T, Yamashita T, Miyagi Y, Daigo Y. Characterization of KIF20B as a novel prognostic biomarker and therapeutic target for breast cancer. Int J Oncol 64: 43, 2024.	複合的がん個別化医療を推進する医療人養成コース	Regina W. Mbugua
4	Langenbeck's Archives of Surgery, 409:209, 2024 Clinical impact of various drain-fluid data for the postoperative complications after hepatectomy: criteria of prophylactic drain removal on postoperative day 1	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	森治樹
5	Anticancer Research, 44 (10) 4483-4492, 2024 Contribution of Immunoscore to Survival Prediction in Pancreatic Ductal Adenocarcinoma	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	森治樹
6	Rika Fukui, Satoshi Noda, Yoshito Ikeda, Yuiichi Sawayama, Tomohiro Terada, Yoshihisa Nakagawa, Shin-ya Mrita. Relationships of proton pump inhibitor-induced renal injury with CYP2C19 polymorphism: a retrospective cohort study. Clin. Pharmacol. Ther., 115(5), 1141-1151 (2024)	先制がん医療を担う薬剤師養成コース	福井里佳

【大阪医科薬科大学】

NO.	取組状況等	所属コース	氏名
	該当なし		

【京都薬科大学】

NO.	取組状況等	所属コース	氏名
	該当なし		

令和5年度 国際学会、英文誌への発表一覧

【京都大学】

NO.	取組状況等	所属コース	氏名
1	学会等発表 "2023/12 ASGO(台湾) タイトル:A retrospective study of the utility of MRI findings in the consideration of surgical procedures for early-stage cervical cancer 発表年月:2023/12/1 筆頭演者	遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース	高 一弘
2	学会等発表 「The 21st International Congress of Therapeutic Drug Monitoring and Clinical Toxicology 2023」「Real-time inhalants particle emission monitoring for non-invasive prediction of lung deposition」「September 2023」(共著発表)	先端治療学コース	畠添 咲希子
3	論文発表 Cureus Efficacy and Safety of the Surgery-First Approach Compared to the Chemotherapy-First Approach for Treating Low-Risk Gestational Trophoblastic Neoplasia: A Systematic Review and Meta-Analysis, 2023 Sep 21, 共著	遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース	石田憲太郎

【三重大学】

NO.	取組状況等	所属コース	氏名
	該当なし		

【滋賀医科大学】

NO.	取組状況等	所属コース	氏名
1	Regina W. Mbugua, Atsushi Takano, Bayarbat Tsevegjav, Yohei Miyagi, Yataro Daigo. Identification of URST8 as a novel prognostic biomarker and therapeutic target for breast cancer. 82th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association, Yokohama, September 2023.	複合的がん個別化医療を推進する医療人養成コース	Regina W. Mbugua
2	Nguyen Thi Hoa, Atsushi Takano, Bayarbat Tsevegjav, Regina W. Mbugua, Yohei Miyagi, Yataro Daigo. Identification of URST4 as a prognostic biomarker and therapeutic target for breast cancer. 82th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association, Yokohama, September 2023.	複合的がん個別化医療を推進する医療人養成コース	Nguyen Thi Hoa
3	Regina Wachuka Mbugua, Atsushi Takano, Bayarbat Tsevegjav, Yohei Miyagi, Yataro Daigo. Molecular characterization of URST7 as a novel prognostic biomarker and therapeutic target for various subtypes of breast cancer. 68th Annual Meeting of the Japan Society of Human Genetics. October 11-14, 2023.	複合的がん個別化医療を推進する医療人養成コース	Regina W. Mbugua
4	Nguyen Thi Hoa, Atsushi Takano, Bayarbat Tsevegjav, Regina Wachuka Mbugua, Yohei Miyagi, Yataro Daigo. Identification of URST4 as a prognostic biomarker and therapeutic target for breast cancer. 68th Annual Meeting of the Japan Society of Human Genetics. October 11-14, 2023.	複合的がん個別化医療を推進する医療人養成コース	Nguyen Thi Hoa
5	Regina Wachuka Mbugua, Atsushi Takano, Bayarbat Tsevegjav, Yohei Miyagi, Yataro Daigo. Molecular characterization of URST7 as a novel prognostic biomarker and therapeutic target for various subtypes of breast cancer. 2024 Japanese Society of Medical Oncology Annual Meeting. February 22-24, 2024.	複合的がん個別化医療を推進する医療人養成コース	Regina W. Mbugua
6	Nguyen Thi Hoa, Atsushi Takano, Bayarbat Tsevegjav, Regina Wachuka Mbugua, Yohei Miyagi, Yataro Daigo. Characterization of URST4 as a new biomarker and therapeutic target for various subtypes of breast cancer. 2024 Japanese Society of Medical Oncology Annual Meeting. February 22-24, 2024	複合的がん個別化医療を推進する医療人養成コース	Nguyen Thi Hoa
7	Nguyen Thi Hoa. Identification of URST4 as a candidate prognostic biomarker and therapeutic target for breast cancer. コホート・生体試料支援プラットフォーム (CoBiA)・若手研究支援発表会 2024年2月20日, 東京	複合的がん個別化医療を推進する医療人養成コース	Nguyen Thi Hoa
8	Regina Wachuka Mbugua, Atsushi Takano, Bayarbat Tsevegjav, Yohei Miyagi, Yataro Daigo. Identification of URST8 as a novel prognostic biomarker and therapeutic target for breast cancer. 40th SUMS Symposium, December 2023, Otsu, Japan	複合的がん個別化医療を推進する医療人養成コース	Regina W. Mbugua
9	Nguyen Thi Hoa, Atsushi Takano, Bayarbat Tsevegjav, Regina Wachuka Mbugua, Yohei Miyagi, Yataro Daigo. Characterization of URST4 as a new biomarker and therapeutic target for breast cancer. 40th SUMS Symposium, December 2023, Otsu, Japan	複合的がん個別化医療を推進する医療人養成コース	Nguyen Thi Hoa
10	Langenbeck's Archives of Surgery. 408:427. 2023 Postoperative computed tomography findings predict re-drainage cases after early drain removal in pancreaticoduodenectomy	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	新田信人
11	15th biennial Congress of the European-African Hepato-Pancreato-Biliary Association(E-AHPBA), Lyon The nutritional supportive effect by early administration of pancrelipase after pancreatectomy for pancreatic cancer.	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	前川毅
12	the 7th Kasai- Yeungnam HBP Surgeons Meeting Risk factors of postoperative complications in hepatectomy	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	新田信人

13	American Association for Cancer Research Annual Meeting, 2023 Apr, Orlando, FL, Philadelphia Molecular characterization of mouse colorectal cancer cell lines with high potential of peritoneal metastasis,	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	森治樹
14	APASL2024・Kyoto Hemorrhagic complications after hepatectomy in patients receiving antithrombotic therapy	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	森治樹

【大阪医科薬科大学】

NO.	取組状況等	所属コース	氏名
1	(論文発表) JTO Clinical and Research Reports, Severe Drug-Induced Interstitial Lung Disease After Administration of Osimertinib as Adjuvant Treatment for Resected EGFR-Mutated NSCLC: A Case Report, February 2024, fist author	プレジジョンメディシンを推進するための臨床研究開発を担う人材育成コース	満屋 奨

【京都薬科大学】

NO.	取組状況等	所属コース	氏名
	該当なし		

令和6年度 国内学会、雑誌等への発表一覧

【京都大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏名
1	学会等発表 第32回日本乳癌学会学術総会、当院にて放射線治療を施行した乳癌脳転移症例の検討、2024年7月、共著発表	高精度緩和的放射線治療・核医学治療に精通し、各地域で放射線治療を担う人材養成コース	村上 高志
2	学会等発表 日本放射線腫瘍学会第37回学術大会、原発性肺癌への体幹部定位放射線治療における線量増加の初期経験、2024年11月、筆頭発表	高精度緩和的放射線治療・核医学治療に精通し、各地域で放射線治療を担う人材養成コース	村上 高志
3	学会等発表 「日本放射線腫瘍学会第37回学術大会」、「横隔膜に基づくマーカーレス動体追尾照射に向けた標的位置推定精度に関する要因分析」、「2024年11月」(筆頭発表)	放射線治療で顕在化している課題に対応する医学物理士養成コース	清水 優琴音
4	学会等発表 「日本放射線腫瘍学会第37回学術大会」、「Radiomics特徴量に基づく高リスク前立腺癌根治的照射後のPSA再発予測」、「2024年11月」	放射線治療で顕在化している課題に対応する医学物理士養成コース	平田 恒太
5	学会等発表 第63回日本生体医工学会大会「生成AIの医療応用-放射線治療分野の観点から」2024年5月(共著発表)	放射線治療で顕在化している課題に対応する医学物理士養成コース	大西 隆生
6	学会等発表 日本放射線腫瘍学会第37回学術大会 「サイノグラムドメインを用いたCBCTアーチファクト除去のための深層学習モデルの開発」2024年11月 (筆頭発表)	放射線治療で顕在化している課題に対応する医学物理士養成コース	大西 隆生
7	学会等発表 癌治療学会 会長企画 教育シンポジウム2 生成AIを安全に応用する試み~非構造化カルテ情報からのデータ抽出~ 2024年10月26日	遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース	石田 憲太郎
8	学会等発表 第48回日本神経心理学会学術集会、頭蓋咽頭腫および胚細胞腫瘍患者の高次脳機能が身体活動に与える影響の検討、2024年9月、筆頭発表	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	駒木 美紗
9	学会等発表 第46回 日本疼痛学会、新規3次元感覚神経オルガノイドを用いた糖尿病性末梢神経障害の機序解明、2024/11(筆頭発表)	先端治療学コース	荻堂 亮甫
10	学会等発表 低体重のAtypical teratoid rhabdoid tumor (AT/RT) 2小児例に対する末梢血幹細胞採取. 三谷一樹, 緒方 瑛人, 高地 貴行, 福井 渉, 川口 晃司, 小倉 妙美, 堀越 泰雄, 川崎 達也, 渡邊 健一郎. 第46回日本造血・免疫細胞療法学会総会2024/3/21-23	先端治療学コース	三谷 一樹
11	学会等発表 「第34回 日本医療薬学会年会」「吸入粉末剤の局所性副作用軽減を指向した吸入パターン最適化に関する基礎検討」「2024年11月3日」(筆頭発表)	先端治療学コース	畠添 咲希子
12	学会等発表 第28回日本がん免疫学会総会、ICOS+CD4 T細胞はICOS-ICOSLシグナルを介して抗PD-(L)1抗体誘発性肺傷害の発症に寄与する、2024年7月(筆頭発表)	先端治療学コース 新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース	横井 菜里
13	学会等発表 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会、ICOS+ CD4 T cells and CXCL13 are predictive factors for the development of anti-PD-(L)1 therapy-induced pneumonitis、2025年3月(予定)、筆頭発表	先端治療学コース 新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース	横井 菜里
14	学会等発表 「第38回人工知能学会」、「グラフ間距離に基づく遺伝子制御ネットワークの重要遺伝子抽出法の提案」、「2024年5月」、「筆頭発表: 全国大会優秀賞受賞」	がんの医療・研究においてビッグデータや人工知能を活用できる人材育成コース	大島 将
15	学会等発表 「第7回フレッシュャーズ・カンファランス、母集団薬物動態解析による蛋白尿発現患者におけるペバシズマブ体内動態の定量的評価、2024年6月15-16日」	新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース	増田 崇
16	学会等発表 「第18回次世代を担う若手のための医療薬科学シンポジウム、日本人癌患者におけるペバシズマブの体内動態に蛋白尿が及ぼす影響の評価、2024年10月3-4日」	新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース	増田 崇

【三重大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏名
1	学会発表 放射線治療後長期経過観察を行った胸椎アミロイドーアの1例 第37回日本放射線腫瘍学会 2024年11月21日～23日 横浜	痛みの治療およびがん関連学際領域に対応し地域に定着する放射線治療医養成コース	斉原 和志
2	国内学会: 第30回日本遺伝性腫瘍学会学術集会、演題名: がん遺伝子パネル検査の二次的所見について組織と血液検体における比較検討、日程: 令和6年5月31日(会期: 5月31日～6月1日)	ゲノム情報を活用したがん診療に従事する人材養成コース(インテンシブコース)	藤原 拓海
3	国内学会: 日本人類遺伝学会第69回大会、演題名: Cases of patients with tumors harboring BAP1 mutation provided with genetic counseling as secondary findings of CGP、日程: 令和6年10月12日(会期: 10月10～12日)	ゲノム情報を活用したがん診療に従事する人材養成コース(インテンシブコース)	藤原 拓海
4	国内学会: 第124回日本外科学会定期学術集会「切除不能進行再発若年性大腸癌における臨床病理学的因子・Genome profilingの検討」(2024年4月20日)(筆頭発表)	ゲノム情報を活用したがん診療に従事する人材養成コース(インテンシブコース)	北嶋 貴仁
5	国内学会: 日本人類遺伝学会第69回大会「Evaluations of secondary findings using CGP with a focus on family history in colorectal cancer」(2024年10月10日)(筆頭発表)	ゲノム情報を活用したがん診療に従事する人材養成コース(インテンシブコース)	北嶋 貴仁
6	国内学会: 第62回日本癌治療学会学術集会「Evaluations of secondary findings using CGP with a focus on childhood, adolescent and young adult-onset cancer」(2024年10月26日)(筆頭発表)	ゲノム情報を活用したがん診療に従事する人材養成コース(インテンシブコース)	北嶋 貴仁
7	国内学会: 第79回日本大腸肛門病学会学術集会「がん遺伝子パネル検査を受検した大腸癌患者172例における遺伝子変異の検討」(2024年11月29日)(筆頭発表)	ゲノム情報を活用したがん診療に従事する人材養成コース(インテンシブコース)	北嶋 貴仁
8	学会発表 第6回日本緩和医療学会東海北陸支部学術集会、当院の基本的緩和ケアによるがん疼痛緩和の現状と緩和ケアチーム介入の意義、2024年11月16日(筆頭発表)	緩和医療専門医・認定医養成コース(インテンシブコース)	竹口 有美

【滋賀医科大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏名
1	第124回日本外科学会定期学術集会・常滑 当院におけるBRAF V600E変異陽性大腸癌7例の検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	仁科勇佑
2	第124回日本外科学会定期学術集会・常滑 肝切除におけるClavien-Dindo grade IIIa以上の術後合併症の危険因子の検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	新田信人
3	第124回日本外科学会定期学術集会・常滑 大腸癌術後腹腔内癒着形成の予測因子としてのレプテンの有用性	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	前川毅
4	第45回癌免疫外科研究会・横浜 サイトカインに着目したiPS細胞由来の再生T細胞の抗腫瘍活性の検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	新田信人
5	第28回日本がん免疫学会総会・第37回日本バイオセラピー学会学術集会総会合同大会・東京 直腸癌術前治療における効果予測因子としての腫瘍浸潤リンパ球数の検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	仁科勇佑
6	第28回日本がん免疫学会総会・第37回日本バイオセラピー学会学術集会総会合同大会・東京 サイトカインに着目したiPS細胞由来の再生T細胞の抗腫瘍活性の検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	新田信人
7	第28回日本がん免疫学会総会・第37回日本バイオセラピー学会学術集会総会合同大会・東京 ヒト大腸癌における Fibroblast activation protein- α 発現による免疫環境への影響	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	村本圭史
8	The 36th Meeting of Japanese Society of Hspato-Biliary-Pancreatic Surgery・広島 Risk factors of early recurrence after liver resection for colorectal liver metastases	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	新田信人
9	第79回日本消化器外科学会総会・下関 大腸癌肝転移切除後の早期再発の危険因子の検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	新田信人

10	第79回日本消化器外科学会総会・下関 臨床データとマウス癒着モデルを用いたレプチンの腹腔内癒着形成に対する影響の検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	前川毅
11	第79回日本消化器外科学会総会・下関 抗血栓薬内服が肝切除術後の周術期合併症に及ぼす影響について	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	森治樹
12	第79回日本消化器外科学会総会・下関 大腸癌傍大動脈リンパ節転移に対する治療成績の検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	仁科勇佑
13	第83回日本癌学会学術総会・福岡 RNA-seqを用いた膵癌細胞に対するアスコルビン酸の活性酸素種を介したアポトーシス誘導効果と低酸素環境による耐性機序の検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	前川毅
14	第60回日本胆道学会学術集会・名古屋 進行・再発胆道癌症例に対する免疫チェックポイント阻害薬の有用性についての検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	森治樹
15	第62回日本癌治療学会学術集会・福岡 Double stapling technique 吻合における縫合不全リスク因子の検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	村本圭史
16	第62回日本癌治療学会学術集会・福岡 直腸癌に対する術前治療が腫瘍浸潤リンパ球や癌周囲の線維化に与える影響	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	仁科勇佑
17	第22回日本消化器外科学会大会・神戸 直腸癌MRIにおける壁外静脈管侵襲とtumor depositに関する検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	仁科勇佑
18	第22回日本消化器外科学会大会・神戸 腔鏡下肝切除における術後合併症の危険因子の検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	新田信人
19	第22回日本消化器外科学会大会・神戸 網羅解析を用いたアスコルビン酸の膵癌細胞に対する効果と低酸素環境による耐性獲得の機序解明への挑戦	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	前川毅
20	第86回日本臨床外科学会学術集会・宇都宮 ドレーン排液データは肝切除術後の合併症の予測因子となるか?	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	森治樹
21	第18回肝臓内視鏡外科研究会・宇都宮 頭背側領域に対する腹腔鏡下系統的肝切除術の工夫	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	森治樹
22	第37回日本内視鏡外科学会総会・福岡 技術認定取得に向けた低侵襲肝胆膵手術の定型化への取り組み	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	森治樹
23	令和6年度消化器癌発生学会研究奨励賞受賞者 第35回日本消化器癌発生学会総会・東京 膵癌細胞に対するアスコルビン酸の抗腫瘍効果と低酸素環境による耐性獲得機序解明への挑戦	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	前川毅
24	福井 里佳, 野田 哲史, 池田 義人, 澤山 裕一, 寺田 智祐, 中川 義久, 森田 真也. プロトンポンプ阻害薬の腎機能障害に関するファーマコゲノミクス研究, 第7回フレッシュヤーズ・カンファランス, 2024年6月15日(口頭)	先制がん医療を担う薬剤師養成コース	福井 里佳
25	福井 里佳, 野田 哲史, 池田 義人, 澤山 裕一, 寺田 智祐, 中川 義久, 森田 真也. プロトンポンプ阻害薬誘発腎機能障害とCYP2C19遺伝子多型の関連, 第40回日本TDM学会・学術大会, 2024年7月14日(口頭)	先制がん医療を担う薬剤師養成コース	福井 里佳
26	道家 雄太郎. 進行腎細胞がん患者におけるカボザンチニブの血中濃度と治療効果・副作用の関連, 医療薬学フォーラム2024・第32回クリニカルファーマシーシンポジウム, 2024年7月6日(口頭)	先制がん医療を担う薬剤師養成コース	道家 雄太郎

【大阪医科薬科大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏名
1	学会発表 「オシメルチニブによる薬剤性心機能障害の診断に時間を要し、腫瘍科と循環器科との連携の重要性を実感した症例」 24.08.06 第7回日本腫瘍循環器学術集会	プレジジョンメディシンを推進するための臨床研究開発を担う人材育成コース	満屋 奨
2	学会発表 「肺扁平上皮癌から腺癌への形質転換を認めた病理解剖症例」 24.07.13 第120回肺癌学会関西支部学術集会	プレジジョンメディシンを推進するための臨床研究開発を担う人材育成コース	満屋 奨
3	学会発表 「療養・就労両立支援指導料の算定と経済面を踏まえた継続的な就労支援により生活の再設計を支えた一例」 2024年5月 第6回AYAがんの医療と支援のあり方研究会学術集会	プレジジョンメディシンを推進するための臨床研究開発を担う人材育成コース	川崎 由華
4	学会発表 「就労世代の乳がん患者への療養・就労両立支援指導料算定の実態：JMDC Claims Databaseによる分析」 2024年7月 第32回日本乳癌学会学術集会	データサイエンスに基づく誰一人取り残さないがん対策を実現するための人材育成コース	川崎 由華
5	学会発表 「社会環境指標に着目した膵臓がん年齢調整死亡率の地域格差とその変化」 2024年9月3日 第47回日本がん疫学・分子疫学研究会総会 筆頭発表者	データサイエンスに基づく誰一人取り残さないがん対策を実現するための人材育成コース	須藤靖弘
6	学会発表 「膵臓がん死亡率の地域格差の評価と要因の検討—線形混合効果モデルを用いて—」 2024年10月10日 大分統計談話会・第70回記念大会 筆頭発表者	データサイエンスに基づく誰一人取り残さないがん対策を実現するための人材育成コース	須藤靖弘
7	学会等発表 第18回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会、演題「オシメルチニブによる薬剤性腎障害を発症した慢性腎臓病合併の肺がん症例の1例」、2024年9月（ポスター発表）	革新的ながん診断・治療法の研究開発を担う人材育成コース	藤本 亜弓
8	学会発表 第39回日本がん看護学会学術集会 「抗がん薬中止の意思決定における進行がん患者及び家族の情報ニーズと体験：文献レビュー」 2025年2月（筆頭発表者）	がんサバイバーの身体的・精神的・社会的ケアや再発予防ケアを担う看護師養成コース	秋田奈々
9	学会発表 第39回日本がん看護学会学術集会 「免疫チェックポイント阻害薬を受けるがん患者のQOLとその関連要因：文献レビュー」 2025年2月（筆頭発表者）	がんサバイバーの身体的・精神的・社会的ケアや再発予防ケアを担う看護師養成コース	佐野照恵
10	研究論文 「抗がん薬中止の意思決定における進行がん患者及び家族の情報ニーズと体験：文献レビュー」 大阪医科薬科大学看護研究雑誌、第15巻、2025年3月（筆頭著者）	がんサバイバーの身体的・精神的・社会的ケアや再発予防ケアを担う看護師養成コース	秋田奈々
11	研究論文 「免疫チェックポイント阻害薬を受けるがん患者のQOLとその関連要因：文献レビュー」 大阪医科薬科大学看護研究雑誌、第15巻、2025年3月（筆頭著者）	がんサバイバーの身体的・精神的・社会的ケアや再発予防ケアを担う看護師養成コース	佐野照恵

【京都薬科大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏名
1	学会発表等 第56回 若手ペプチド夏の勉強会 抗体様分子アフィリンの化学合成研究 8月7日-9日（筆頭）	近未来の医薬品・治療法の開発を担う人材養成コース	佐藤 志乃

令和5年度 国内学会、雑誌等への発表一覧

【京都大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏名
1	学会等発表 「日本乳癌学会総会」「内胸リンパ節領域を標的に含まない領域リンパ節照射を伴う乳癌手術後放射線療法の治療成績の検討」2023年6月	高精度緩和的放射線治療・核医学治療に精通し、各地域で放射線治療を担う人材養成コース	中津 伽奈子
2	学会等発表 「日本放射線腫瘍学会第36回学術大会」、「Radiomics特徴量を用いた非転移性超高リスク前立腺癌における遠隔転移の予測」、「2023年11月」	放射線治療で顕在化している課題に対応する医学物理士養成コース	平田 恒太
3	学会等発表 日本放射線腫瘍学会日本放射線腫瘍学会第36回学術大会「計画用CTー疑似CBCTペアデータを用いた臓器輪郭保持可能アーチファクト軽減モデルの開発」2023年11月(筆頭発表)	放射線治療で顕在化している課題に対応する医学物理士養成コース	大西 隆生
4	学会等発表 「第33回京都府理学療法学会大会」、「高齢血液がん患者のリスクマネジメント(シンポジウム)」2023年11月、「小藤大樹」	がんサバイバーシップケアを担うリハビリテーションスタッフの養成コース	小藤 大樹
5	学会等発表 「第2回日本老年療法学会学術集会」、「高齢の初発びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫患者における化学療法完遂時の身体機能と健康関連QOLの関連」、「2023年9月」、「小藤大樹、村田伸、菱澤方勝、宮崎博子」	がんサバイバーシップケアを担うリハビリテーションスタッフの養成コース	小藤 大樹
6	学会等発表 第42回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム、末梢神経障害の本質的な機序解明を目的とした新規3次元感覚神経オルガノイドの開発、2023/8	先端治療学コース	荻堂 亮甫
7	学会等発表 第73回日本薬学会 関西支部総会・大会、末梢神経障害の機序解明を目的とした新規有髄性感覚神経オルガノイド、2023/10	先端治療学コース	荻堂 亮甫
8	学会等発表 第97回日本薬理学会年会、継続的な形態・機能解析を可能にする新規3次元感覚神経オルガノイドの開発、2023/12	先端治療学コース	荻堂 亮甫
9	学会等発表 三谷一樹、神鳥達哉、才田聡、滝田順子、STAT5B p.N642H変異を検出した好酸球増多を伴う急性骨髄性白血病の小児例、第118回近畿血液学地方会、2023/5/27	先端治療学コース	三谷 一樹
10	学会等発表 「日本薬剤学会第38年会」「粒子放出シグナルのリアルタイム測定による吸入粉末剤の肺内沈着部位予測」2023年5月(共著発表)	先端治療学コース	畠添 咲希子
11	学会等発表 「医療薬学フォーラム2023/第31回クリニカルファーマシーシンポジウム」「光反射法を用いた吸入薬の肺内送達薬物量リアルタイム非侵襲的モニタリングシステムの構築」2023年7月(筆頭発表)	先端治療学コース	畠添 咲希子
12	学会等発表 「第44回日本臨床薬理学会学術総会」「吸入薬の肺内送達薬物量予測のための新規モニタリング手法の提案」2023年12月(筆頭発表)	先端治療学コース	畠添 咲希子
13	学会等発表 第51回日本臨床免疫学会総会、免疫チェックポイント阻害薬による間質性肺疾患の自覚症状と重症度の関連、2023年10月(筆頭発表)	先端治療学コース 新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース	横井 茉里

【三重大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏名
1	学会発表 第5回日本緩和医療学会東海北陸支部学術集会、注射用医療用麻薬を多量に使用している患者を、在宅緩和ケアを専門的に担う施設がない地域での在宅療養へ移行した経験、2023年10月1日(筆頭発表者)	緩和医療専門医・認定医養成コース(インテンシブコース)	竹口 有美

【滋賀医科大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏名
1	癌と化学療法, 50(4):487-489, 2023.04 Pagetoid Spread を伴う肛門管腺癌に対しTpTME 併用腹腔鏡下直腸切断術を施行した1例	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	西村有美
2	第123回日本外科学会定期学術集会・東京 腺癌に対する術後補助化学療法非完遂リスク因子の検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	仁科勇佑
3	第123回日本外科学会定期学術集会・東京 抗血栓薬内服患者における肝切除術の周術期合併症の検討～Propensity score matching を用いて～	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	森治樹
4	第123回日本外科学会定期学術集会・東京 高齢者における腹腔鏡下肝切除術の安全性の傾向スコアを用いた IPW 法による検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	新田信人
5	第123回日本外科学会定期学術集会・東京 当院での大腸癌手術症例における歯周炎重症度についての検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	西村有美
6	第123回日本外科学会定期学術集会・東京 腺癌におけるアスコルビン酸の抗腫瘍効果と低酸素環境の影響	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	前川毅
7	第45回日本癌治療学会・東京 進行下部直腸癌への Total Neoadjuvant Therapy と経肛門アプローチを併用した治療戦略	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	仁科勇佑
8	第35回日本肝胆膵外科学会学術集会・東京 Prognostic impact of osteo-sarcopenia in the patients with resectable pancreatic cancer.	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	新田信人
9	第35回日本肝胆膵外科学会学術集会・東京 Predicting bile leakage after liver resection from drain drainage on postoperative day 1.	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	森治樹
10	Kyoto T Cell Conference 第32回学術集会・京都 iPS細胞から再生したT細胞の抗腫瘍活性に対するサイトカインの影響	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	新田信人
11	第77回日本食道学会学術集会・大阪 食道切除回結腸再建後異時性下咽頭癌に対する咽喉頭頭部食道切除・遊離空腸再建の1例	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	村本圭史
12	第99回大腸癌研究会学術集会・尼崎 当科における局所進行直腸癌に対する術前治療に関する検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	仁科勇佑
13	第78回日本消化器外科学会総会・函館 当院における直腸神経内分泌腫瘍37例の検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	仁科勇佑
14	第78回日本消化器外科学会総会・函館 切除可能腺癌においてオステオサルコペニアが 予後に与える影響	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	新田信人
15	第78回日本消化器外科学会総会・函館 大腸癌におけるsynuclein- γ 発現の臨床病理学的特徴	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	西村有美
16	第78回日本消化器外科学会総会・函館 大腸切除術後における腹腔内癒着形成とレプチンの臨床的意義	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	前川毅
17	第78回日本消化器外科学会総会・函館 肝切除後の術後1日目のドレーン排液は胆汁漏の早期予測因子となるか？～ビリルビン濃度 vsビリルビン総量～	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	森治樹
18	第78回日本消化器外科学会総会・函館 フェンタニルを用いたiv-PCAは大腸癌術後イレウスのリスク因子である	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	村本圭史
19	第54回日本膵臓学会大会・福岡 腺癌微小環境に対するアスコルビン酸と低酸素環境の影響	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	前川毅

20	第50回日本膵切研究会・東京 膵頭十二指腸切除後早期ドレーン抜去の判断における術後CTの有用性	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	新田信人
21	第42回Microwave Surgery研究会・山鹿 胆嚢炎に対して"Acrosurg. Revo S"を用いた腹腔鏡下胆嚢摘出術の有用性	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	森治樹
22	第82回日本癌学会学術総会・横浜 膵癌に対するアスコルビン酸の活性酸素種を介した抗腫瘍効果と低酸素環境の影響	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	前川毅
23	第61回日本癌治療学会学術集会・横浜 局所進行直腸癌における術前治療の検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	仁科勇佑
24	第61回日本癌治療学会学術集会・横浜 大腸癌におけるsynuclein- γ 発現の検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	西村有美
25	第61回日本癌治療学会学術集会・横浜 オステオサルコペニアは切除可能膵癌の予後因子である	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	新田信人
26	第61回日本癌治療学会学術集会・横浜 MSI-High およびTMB-High 肝内胆管癌に対してpembrolizumabが著効した1例	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	森治樹
27	第61回日本癌治療学会学術集会・横浜 大腸がん転移におけるアクチン結合タンパク質Advillin の同定と機能解析	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	森治樹
28	第21回日本消化器外科学会大会・神戸 結腸癌における縫合不全リスク因子の検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	仁科勇佑
29	第21回日本消化器外科学会大会・神戸 大腸癌手術症例の口腔内衛生状態についての検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	西村有美
30	第21回日本消化器外科学会大会・神戸 大腸癌腹膜播種モデルのマルチオミクス解析による転移分子機構の解明	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	森治樹
31	第21回日本消化器外科学会大会・神戸 肝切除における術後合併症の危険因子の検討 -オステオサルコペニアに着目して-	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	新田信人
32	第21回日本消化器外科学会大会・神戸 アスコルビン酸の膵癌細胞および線維芽細胞に対する効果と低酸素環境の影響	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	前川毅
33	第11回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会・宇都宮 直腸神経内分泌腫瘍38例におけるリンパ節転移リスク因子に関する検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	仁科勇佑
34	第17回肝臓内視鏡外科研究会・岡山 若手肝臓外科医が行う肝S8領域に対する腹腔鏡下肝切除術	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	森治樹
35	第36回日本バイオセラピー学会学術集会総会・東京 iPS細胞から再生したT細胞の抗腫瘍活性に対するサイトカインの影響	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	新田信人
36	第36回日本バイオセラピー学会学術集会総会・東京 Total Neoadjuvant Therapy を施行した局所進行直腸癌 10例の短期治療成績	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	仁科勇佑
37	第56回制癌剤適応研究会・下呂 当院におけるBRAF V600E 変異陽性大腸癌9例の治療経過に関する検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	仁科勇佑

【大阪医科薬科大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏名
1	学会発表 「進展型小細胞肺癌、多発肝転移に対し全肝照射を施行した1例」 2023年6月17日 日本肺癌学会関西支部学術集会	プレジジョンメディシンを推進するための臨床研究開発を担う人材育成コース	船本 智哉
2	学会発表 「EGFR遺伝子変異陽性肺癌術後にOsimertinibを使用し、薬剤性肺障害を発症した2例」 23.06.17 第118回肺癌学会関西支部学術集会	プレジジョンメディシンを推進するための臨床研究開発を担う人材育成コース	満屋 奨
3	学会発表 「松果体原発卵黄嚢腫瘍を発症し、高リスク化学療法を施行する患者に対して多職種で妊孕性温存について検討した症例」 23.07.22 第11回脳腫瘍支持療法	プレジジョンメディシンを推進するための臨床研究開発を担う人材育成コース	満屋 奨
4	学会発表 第38回日本がん看護学会学術集会 「診断期および治療期から終末期におたるまでの膵臓がん患者の困難に関する文献検討」 2024年2月(筆頭発表者)	がんサバイバーの身体的・精神的・社会的ケアや再発予防ケアを担う看護師養成コース	甲斐美奈子

【京都薬科大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏名
	該当なし		

資料12

令和6年度 海外学会・シンポジウム等参加状況

【京都大学】

NO.	海外学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏名
1	2024年10月12日～2024年10月14日、16th ACPE and 29th JSPE (第16回国際薬剤疫学会アジア会議及び第29回日本薬剤疫学会学術総会)(16th Asian Conference on Pharmacoepidemiology and 29th Japanese Conference on Pharmacoepidemiology joint meeting)、Educational Session Track A, Symposium 2 (Leveraging Electronic Health Records in Japan pharmaceutical industry: current status, issues, futures)参加、日本東京	先端治療学コース	長谷部 依央

【三重大学】

NO.	海外学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏名
1	2024年6月27日～29日 MASCC/AFSOS/ISOO 2024 Annual Meeting, France	がん患者のQOL向上及び終末期医療を担う看護師養成コース	岸 鷹平

【滋賀医科大学】

NO.	海外学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏名
	該当なし		

【大阪医科薬科大学】

NO.	海外学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏名
	該当なし		

【京都薬科大学】

NO.	海外学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏名
	該当なし		

令和5年度 海外学会・シンポジウム等参加状況

【京都大学】

NO.	海外学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏 名
1	2023/12/1～12/3 アジア産婦人科学会(ASGO) 台北市台湾	遺伝性腫瘍におけるがんの予防とサバイバー医療コース	高 一弘

【三重大学】

NO.	海外学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏 名
	該当なし		

【滋賀医科大学】

NO.	海外学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏 名
1	15th biennial Congress of the European-African Hepato-Pancreato-Biliary Association(E-AHPBA), Lyon The nutritional supportive effect by early administration of pancrelipase after pancreatectomy for pancreatic cancer.	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	前川毅
2	the 7th Kasai- Yeungnam HBP Surgeons Meeting Risk factors of postoperative complications in hepatectomy	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	新田信人
3	APASL2024・Kyoto Hemorrhagic complications after hepatectomy in patients receiving antithrombotic therapy	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	森治樹

【大阪医科薬科大学】

NO.	海外学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏 名
	該当なし		

【京都薬科大学】

NO.	海外学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏 名
	該当なし		

資料13

令和6年度 国内学会・シンポジウム等参加状況

【京都大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏名
1	2024年10月10日～2024年10月11日、令和6年度「5大学連携 学生短期研修プログラム」参加	学際的腫瘍学コース	榑原 一考
2	2024年4月11日～2024年4月14日、第83回日本医学放射線学会総会、神奈川県横浜市	高精度緩和的放射線治療・核医学治療に精通し、各地域で放射線治療を担う人材養成コース	村上 高志
3	2024年10月18日～2024年10月20日、第60回日本医学放射線学会秋季臨床大会、福岡県福岡市	高精度緩和的放射線治療・核医学治療に精通し、各地域で放射線治療を担う人材養成コース	村上 高志
4	2024年10月31日～2024年11月2日、第65回日本肺癌学会学術集会、神奈川県横浜市	高精度緩和的放射線治療・核医学治療に精通し、各地域で放射線治療を担う人材養成コース	村上 高志
5	2024年11月21日～2024年11月23日、日本放射線腫瘍学会第37回学術大会、神奈川県横浜市	高精度緩和的放射線治療・核医学治療に精通し、各地域で放射線治療を担う人材養成コース	村上 高志
6	2024年4月11日～14日、JRC参加、神奈川県横浜市	放射線治療で顕在化している課題に対応する医学物理士養成コース	清水 優琴音
7	2024年11月21日～23日、JASTRO参加、神奈川県横浜市	放射線治療で顕在化している課題に対応する医学物理士養成コース	清水 優琴音
8	「日本放射線腫瘍学会第37回学術大会」、「2024年11月21～23日」	放射線治療で顕在化している課題に対応する医学物理士養成コース	平田 恒太
9	2024年10月10日、令和6年度5大学連携学生短期研修プログラム、京都府京都市	がんサバイバーシップケアを担うリハビリテーションスタッフの養成コース	小藤 大樹
10	2024年10月24日～2024年10月26日、第62回日本癌治療学会学術集会	がんサバイバーシップケアを担うリハビリテーションスタッフの養成コース	小藤 大樹
11	2024年11月8日～9日第48回日本高次脳機能学会学術集会	がんサバイバーシップケアを担うリハビリテーションスタッフの養成コース	駒木 美紗
12	2024年3月21～23日 第46回日本造血・免疫細胞療法学会総会	先端治療学コース	三谷 一樹
13	2024年5月23日～2024年5月25日、日本薬剤学会第39回年会参加、兵庫県神戸市	先端治療学コース	畠添 咲希子
14	2024年1月17日～2024年1月19日、第52回日本免疫学会学術集会参加、千葉県千葉市	先端治療学コース 新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース	横井 茉里
15	2024年7月10日～2024年7月12日、第28回日本がん免疫学会総会参加、東京都品川区	先端治療学コース 新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース	横井 茉里
16	2024年11月2日～2024年11月4日、第33回日本医療薬学会年会参加、千葉県千葉市	先端治療学コース 新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース	横井 茉里

【三重大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏名
1	第37回日本放射線腫瘍学会 2024年11月21日～23日 横浜	痛みの治療およびがん関連学際領域に対応し地域に定着する放射線治療医養成コース	斉原 和志
2	2024年6月14日・15日 第29回日本緩和医療学会学術大会・第37回日本サイコオンコロジー学会総会 合同学術大会、神戸	がん患者のQOL向上及び終末期医療を担う看護師養成コース	岸 鷹平
3	2024年11月16日 日本緩和医療学会 第6回東海・北陸支部学術大会、愛知	がん患者のQOL向上及び終末期医療を担う看護師養成コース	岸 鷹平

4	2025年2月22日・23日 第39回日本がん看護学会学術集会, 札幌	がん患者のQOL向上及び終末期医療を担う看護師養成コース	岸 鷹平
5	日本麻酔科学会第71回学術集会 2024/6/6-8(Web参加)	緩和医療専門医・認定医養成コース(インテンシブコース)	竹口 有美
6	第29回日本緩和医療学会学術大会/第37回日本サイコオンコロジー学会総会合同学術大会 2024/6/14・15(神戸)	緩和医療専門医・認定医養成コース(インテンシブコース)	竹口 有美
7	日本ペインクリニック学会第58回学術集会 2024/7/18-19(Web参加)	緩和医療専門医・認定医養成コース(インテンシブコース)	竹口 有美
8	日本緩和医療学会第7回東海・北陸支部学術大会 2024/11/16(愛知県長久手市)	緩和医療専門医・認定医養成コース(インテンシブコース)	竹口 有美

【滋賀医科大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏名
1	第124回日本外科学会定期学術集会・常滑 当院におけるBRAF V600E変異陽性大腸癌7例の検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	仁科勇佑
2	第124回日本外科学会定期学術集会・常滑 肝切除におけるClavien-Dindo grade IIIa以上の術後合併症の危険因子の検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	新田信人
3	第124回日本外科学会定期学術集会・常滑 大腸癌術後腹腔内癒着形成の予測因子としてのレプチンの有用性	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	前川毅
4	第45回癌免疫外科研究会・横浜 サイトカインに着目したiPS細胞由来の再生T細胞の抗腫瘍活性の検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	新田信人
5	第28回日本がん免疫学会総会・第37回日本バイオセラピー学会学術集会総会合同大会・東京 直腸癌術前治療における効果予測因子としての腫瘍浸潤リンパ球数の検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	仁科勇佑
6	第28回日本がん免疫学会総会・第37回日本バイオセラピー学会学術集会総会合同大会・東京 サイトカインに着目したiPS細胞由来の再生T細胞の抗腫瘍活性の検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	新田信人
7	第28回日本がん免疫学会総会・第37回日本バイオセラピー学会学術集会総会合同大会・東京 ヒト大腸癌における Fibroblast activation protein- α 発現による免疫環境への影響	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	村本圭史
8	The 36th Meeting of Japanese Society of Hspato-Biliary-Pancreatic Surgery・広島 Risk factors of early recurrence after liver resection for colorectal liver metastases	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	新田信人
9	第79回日本消化器外科学会総会・下関 大腸癌肝転移切除後の早期再発の危険因子の検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	新田信人
10	第79回日本消化器外科学会総会・下関 臨床データとマウス癒着モデルを用いたレプチンの腹腔内癒着形成に対する影響の検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	前川毅
11	第79回日本消化器外科学会総会・下関 抗血栓薬内服が肝切除術後の周術期合併症に及ぼす影響について	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	森治樹
12	第79回日本消化器外科学会総会・下関 大腸癌傍大動脈リンパ節転移に対する治療成績の検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	仁科勇佑
13	第83回日本癌学会学術総会・福岡 RNA-seqを用いた隣癌細胞に対するアスコルビン酸の活性酸素種を介したアポトーシス誘導効果と低酸素環境による耐性機序の検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	前川毅
14	第60回日本胆道学会学術集会・名古屋 進行・再発胆道癌症例に対する免疫チェックポイント阻害薬の有用性についての検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	森治樹
15	第62回日本癌治療学会学術集会・福岡 Double stapling technique 吻合における縫合不全リスク因子の検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	村本圭史
16	第62回日本癌治療学会学術集会・福岡 直腸癌に対する術前治療が腫瘍浸潤リンパ球や癌周囲の線維化に与える影響	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	仁科勇佑
17	第22回日本消化器外科学会大会・神戸 直腸癌MRIにおける壁外静脈管侵襲とtumor depositに関する検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	仁科勇佑
18	第22回日本消化器外科学会大会・神戸 腔鏡下肝切除における術後合併症の危険因子の検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	新田信人

19	第22回日本消化器外科学会大会・神戸 網羅解析を用いたアスコルビン酸の膵癌細胞に対する効果と低酸素環境による耐性獲得の 機序解明への挑戦	がん局所環境に基づいた新規治療法の 開発を担う医療人養成コース	前川毅
20	第86回日本臨床外科学会学術集会・宇都宮 ドレーン排液データは肝切除術後の合併症の予測因子となるか?	がん局所環境に基づいた新規治療法の 開発を担う医療人養成コース	森治樹
21	第18回肝臓内視鏡外科研究会・宇都宮 頭背側領域に対する腹腔鏡下系統的肝切除術の工夫	がん局所環境に基づいた新規治療法の 開発を担う医療人養成コース	森治樹
22	第37回日本内視鏡外科学会総会・福岡 技術認定取得に向けた低侵襲肝胆膵手術の定型化への取り組み	がん局所環境に基づいた新規治療法の 開発を担う医療人養成コース	森治樹
23	令和6年度消化器癌発生学会研究奨励賞受賞者 第35回日本消化器癌発生学会総会・東京 膵癌細胞に対するアスコルビン酸の抗腫瘍効果と低酸素環境による耐性獲得機序解明への 挑戦	がん局所環境に基づいた新規治療法の 開発を担う医療人養成コース	前川毅
24	日本薬学会医療薬学フォーラム2024・第32回クリニカルファーマシーシンポジウム	先制がん医療を担う薬剤師養成コース	道家 雄太郎
25	日本医療薬学会第7回フレッシューズ・カンファランス	先制がん医療を担う薬剤師養成コース	福井 里佳
26	第40回日本TDM学会学術大会	先制がん医療を担う薬剤師養成コース	福井 里佳
27	第27回日本臨床救急医学会総会・学術集会	先制がん医療を担う薬剤師養成コース	福井 里佳
28	第34回日本医療薬学会年会	先制がん医療を担う薬剤師養成コース	福井 里佳
29	第18回トランスポーター研究会年会	先制がん医療を担う薬剤師養成コース	小澤 慶祐
30	日本膜学会膜シンポジウム2024	先制がん医療を担う薬剤師養成コース	小澤 慶祐
31	日本膜学会膜シンポジウム2024	先制がん医療を担う薬剤師養成コース	西口 緑

【大阪医科薬科大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏名
1	第6回AYAがんの医療と支援のあり方研究会学術集会	データサイエンスに基づく誰一人取り残さないがん対策を実現するための人材育成 コース	川崎 由華
2	第32回日本乳癌学会学術総会	データサイエンスに基づく誰一人取り残さないがん対策を実現するための人材育成 コース	高島 祐子
3	第120回 日本肺癌学会関西支部学術講演会	プレジジョンメディシンを推進するための 臨床研究開発を担う人材育成コース	満屋 奨
4	第7回 日本腫瘍循環器学会学術集会	プレジジョンメディシンを推進するための 臨床研究開発を担う人材育成コース	満屋 奨
5	第6回かごしまデータ科学シンポジウム	データサイエンスに基づく誰一人取り残さないがん対策を実現するための人材育成 コース	高島 祐子
6	第32回日本乳癌学会学術総会	データサイエンスに基づく誰一人取り残さないがん対策を実現するための人材育成 コース	川崎 由華
7	第47回 がん疫学・分子疫学研究会総会	データサイエンスに基づく誰一人取り残さないがん対策を実現するための人材育成 コース	須藤 靖弘
8	第83回日本癌学会学術総会	がんゲノム医療に精通した病理診断医 コース	福間 勇太郎
9	令和6年度 厚労経済毒性班 第1回班会議	データサイエンスに基づく誰一人取り残さないがん対策を実現するための人材育成 コース	川崎 由華
10	大分統計談話会・第70回記念大会	データサイエンスに基づく誰一人取り残さないがん対策を実現するための人材育成 コース	須藤 靖弘

11	大分統計談話会・第70回記念大会	データサイエンスに基づく誰一人取り残さないがん対策を実現するための人材育成コース	高島 祐子
12	がんプロ事業 令和6年度 5大学連携学生短期研修プログラム(1日目)	プレジジョンメディシンを推進するための臨床研究開発を担う人材育成コース	船本 智哉
13	がんプロ事業 令和6年度 5大学連携学生短期研修プログラム(1日目)	プレジジョンメディシンを推進するための臨床研究開発を担う人材育成コース	満屋 奨
14	第62回日本癌治療学会学術集会	データサイエンスに基づく誰一人取り残さないがん対策を実現するための人材育成コース	須藤 靖弘
15	第62回日本癌治療学会学術集会	データサイエンスに基づく誰一人取り残さないがん対策を実現するための人材育成コース	川崎 由華
16	第62回日本癌治療学会学術集会	データサイエンスに基づく誰一人取り残さないがん対策を実現するための人材育成コース	八木 麻未
17	第62回日本癌治療学会学術集会	データサイエンスに基づく誰一人取り残さないがん対策を実現するための人材育成コース	高島 祐子
18	第62回日本癌治療学会学術集会	プレジジョンメディシンを推進するための臨床研究開発を担う人材育成コース	船本 智哉
19	第65回日本肺癌学会学術集会	プレジジョンメディシンを推進するための臨床研究開発を担う人材育成コース	満屋 奨
20	第65回日本肺癌学会学術集会	プレジジョンメディシンを推進するための臨床研究開発を担う人材育成コース	石川 翔一
21	日本ペインクリニック学会 第5回関西支部学術集会	難治性がん性疼痛に対応できるペインクリニックリニシアン養成コース	愛甲 一樹
22	令和6年度 厚労経済毒性班 第2回班会議	データサイエンスに基づく誰一人取り残さないがん対策を実現するための人材育成コース	八木 麻未
23	令和6年度 厚労経済毒性班 第2回班会議	データサイエンスに基づく誰一人取り残さないがん対策を実現するための人材育成コース	川崎 由華
24	2024年9月7日～9月8日、第18回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会参加、北海道札幌市	革新的ながん診断・治療法の研究開発を担う人材育成コース	藤本 亜弓
25	2024年10月6日、第28回日本心不全学会学術集会参加、埼玉県大宮市	革新的ながん診断・治療法の研究開発を担う人材育成コース	藤本 亜弓
26	大阪医科薬科大学大学院看護学研究科 がん看護学分野主催、がんプロ講演会、2024年11月29日	がんサバイバーの身体的・精神的・社会的ケアや再発予防ケアを担う看護師養成コース	甲斐美奈子
27	大阪医科薬科大学大学院看護学研究科 がん看護学分野主催、がんプロ講演会、2024年11月29日	がんサバイバーの身体的・精神的・社会的ケアや再発予防ケアを担う看護師養成コース	秋田奈々
28	大阪医科薬科大学大学院看護学研究科 がん看護学分野主催、がんプロ講演会、2024年11月29日	がんサバイバーの身体的・精神的・社会的ケアや再発予防ケアを担う看護師養成コース	佐野照恵
29	第39回日本がん看護学会学術集会 2025年2月22日・23日	がんサバイバーの身体的・精神的・社会的ケアや再発予防ケアを担う看護師養成コース	甲斐美奈子
30	第39回日本がん看護学会学術集会 2025年2月22日・23日	がんサバイバーの身体的・精神的・社会的ケアや再発予防ケアを担う看護師養成コース	秋田奈々
31	第39回日本がん看護学会学術集会 2025年2月22日・23日	がんサバイバーの身体的・精神的・社会的ケアや再発予防ケアを担う看護師養成コース	佐野照恵

【京都薬科大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏名
1	2024年8月8日-8月10日 第49回組織細胞化学講習会 宮城県仙台市	近未来の医薬品・治療法の開発を担う人材養成コース	成田 晴香
2	2024年10月5日 第74回 日本薬学会関西支部総会・大会 兵庫県西宮市	近未来の医薬品・治療法の開発を担う人材養成コース	佐藤 志乃
3	2024年10月29日-10月31日 第61回ペプチド討論会 愛知県名古屋市	近未来の医薬品・治療法の開発を担う人材養成コース	佐藤 志乃

令和5年度 国内学会・シンポジウム等参加状況

【京都大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏名
1	2023年4月13日～2023年4月16日、第82回日本医学放射線学会総会、神奈川県横浜市	高精度緩和的放射線治療・核医学治療に精通し、各地域で放射線治療を担う人材養成コース	村上 高志
2	2023年11月30日～2024年12月2日、日本放射線腫瘍学会第36回学術大会、神奈川県横浜市	高精度緩和的放射線治療・核医学治療に精通し、各地域で放射線治療を担う人材養成コース	村上 高志
3	「日本放射線腫瘍学会第36回学術大会」、「2023年11月30～12月2日」	放射線治療で顕在化している課題に対応する医学物理士養成コース	平田 恒太
4	2023年9月2日～2023年9月3日、第2回日本老年療法学会学術集会、鹿児島県奄美市	がんサバイバーシップケアを担うリハビリテーションスタッフの養成コース	小藤 大樹
5	2023年11月19日、第33回京都府理学療法学術大会、京都府京都市	がんサバイバーシップケアを担うリハビリテーションスタッフの養成コース	小藤 大樹
6	2023年5月27日 第118回近畿血液学地方会	先端治療学コース	三谷 一樹
7	2023年6月24日～2023年6月25日、第39回日本TDM学会・学術大会参加、京都府京都市	先端治療学コース 新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース	横井 茉里
8	2023年10月5日～2023年10月7日、第51回日本臨床免疫学会総会参加、東京都江東区	先端治療学コース 新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース	横井 茉里
9	2023年11月3日～2023年11月5日、第33回日本医療薬学会年会オンライン参加、宮城県仙台市	先端治療学コース 新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース	横井 茉里
10	2023年12月14日～2023年12月16日、第97回日本薬理学会年会参加、兵庫県神戸市	先端治療学コース 新たな治療法の開発と薬物療法マネジメントに貢献する5大学連携薬剤師養成コース	横井 茉里

【三重大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏名
1	日本緩和医療学会第5回東海・北陸支部学術大会 2023/10/1(浜松)	緩和医療専門医・認定医養成コース(インテンシブコース)	竹口 有美

【滋賀医科大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏名
1	第123回日本外科学会定期学術集会・東京 肺癌に対する術後補助化学療法非完遂リスク因子の検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	仁科勇佑
2	第123回日本外科学会定期学術集会・東京 抗血栓薬内服患者における肝切除術の術後併発症の検討～Propensity score matchingを用いて～	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	森治樹
3	第123回日本外科学会定期学術集会・東京 高齢者における腹腔鏡下肝切除術の安全性の傾向スコアを用いた IPW 法による検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	新田信人
4	第123回日本外科学会定期学術集会・東京 当院での大腸癌手術症例における歯周炎重症度についての検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	西村有美
5	第123回日本外科学会定期学術集会・東京 肺癌におけるアスコルビン酸の抗腫瘍効果と低酸素環境の影響	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	前川毅
6	第45回日本癌局所療法研究会・東京 進行下部直腸癌への Total Neoadjuvant Therapy と経肛門アプローチを併用した治療戦略	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	仁科勇佑

7	第35回日本肝胆膵外科学会学術集会・東京 Prognostic impact of osteo-sarcopenia in the patients with resectable pancreatic cancer.	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	新田信人
8	第35回日本肝胆膵外科学会学術集会・東京 Predicting bile leakage after liver resection from drain drainage on postoperative day 1.	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	森治樹
9	Kyoto T Cell Conference 第32回学術集会・京都 iPS細胞から再生したT細胞の抗腫瘍活性に対するサイトカインの影響	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	新田信人
10	第77回日本食道学会学術集会・大阪 食道切除回結腸再建後異時性下咽頭癌に対する咽喉頭頸部食道切除・遊離空腸再建の1例	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	村本圭史
11	第99回大腸癌研究会学術集会・尼崎 当科における局所進行直腸癌に対する術前治療に関する検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	仁科勇佑
12	第78回日本消化器外科学会総会・函館 当院における直腸神経内分泌腫瘍37例の検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	仁科勇佑
13	第78回日本消化器外科学会総会・函館 切除可能肺癌においてオステオサルコペニアが 予後に与える影響	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	新田信人
14	第78回日本消化器外科学会総会・函館 大腸癌におけるsynuclein- γ 発現の臨床病理学的特徴	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	西村有美
15	第78回日本消化器外科学会総会・函館 大腸切除術後における腹腔内癒着形成とレプチンの臨床的意義	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	前川毅
16	第78回日本消化器外科学会総会・函館 肝切除後の術後1日目のドレーン排液は胆汁漏の早期予測因子となるか？～ビリルビン濃度 vsビリルビン総量～	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	森治樹
17	第78回日本消化器外科学会総会・函館 フェンタニルを用いたiv-PCAは大腸癌術後イレウスのリスク因子である	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	村本圭史
18	第54回日本膵臓学会大会・福岡 肺癌微小環境に対するアスコルビン酸と低酸素環境の影響	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	前川毅
19	第50回日本膵切研究会・東京 膵頭十二指腸切除後早期ドレーン抜去の判断における術後CTの有用性	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	新田信人
20	第42回Microwave Surgery研究会・山鹿 胆嚢炎に対して“Acrosurg. Revo S”を用いた腹腔鏡下胆嚢摘出術の有用性	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	森治樹
21	第82回日本癌学会学術総会・横浜 肺癌に対するアスコルビン酸の活性酸素種を介した抗腫瘍効果と低酸素環境の影響	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	前川毅
22	第61回日本癌治療学会学術集会・横浜 局所進行直腸癌における術前治療の検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	仁科勇佑
23	第61回日本癌治療学会学術集会・横浜 大腸癌におけるsynuclein- γ 発現の検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	西村有美
24	第61回日本癌治療学会学術集会・横浜 オステオサルコペニアは切除可能肺癌の予後因子である	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	新田信人
25	第61回日本癌治療学会学術集会・横浜 MSI-High およびTMB-High 肝内胆管癌に対してpembrolizumabが著効した1例	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	森治樹
26	第61回日本癌治療学会学術集会・横浜 大腸がん転移におけるアクチン結合タンパク質Advillinの同定と機能解析	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	森治樹
27	第21回日本消化器外科学会大会・神戸 結腸癌における縫合不全リスク因子の検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	仁科勇佑
28	第21回日本消化器外科学会大会・神戸 大腸癌手術症例の口腔内衛生状態についての検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	西村有美
29	第21回日本消化器外科学会大会・神戸 大腸癌腹膜播種モデルのマルチオミクス解析による転移分子機構の解明	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	森治樹
30	第21回日本消化器外科学会大会・神戸 肝切除における術後合併症の危険因子の検討 -オステオサルコペニアに着目して-	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	新田信人
31	第21回日本消化器外科学会大会・神戸 アスコルビン酸の肺癌細胞および線維芽細胞に対する効果と低酸素環境の影響	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	前川毅

32	第11回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会・宇都宮 直腸神経内分泌腫瘍38例におけるリンパ節転移リスク因子に関する検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	仁科勇佑
33	第17回肝臓内視鏡外科研究会・岡山 若手肝臓外科医が行う肝S8領域に対する腹腔鏡下肝切除術	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	森治樹
34	第36回日本バイオセラピー学会学術集会総会・東京 iPS細胞から再生したT細胞の抗腫瘍活性に対するサイトカインの影響	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	新田信人
35	第36回日本バイオセラピー学会学術集会総会・東京 Total Neoadjuvant Therapy を施行した局所進行直腸癌 10例の短期治療成績	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	仁科勇佑
36	第56回制癌剤適応研究会・下呂 当院におけるBRAF V600E 変異陽性大腸癌9例の治療経過に関する検討	がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース	仁科勇佑

【大阪医科薬科大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏名
1	第118回日本肺癌学会関西支部学術集会	プレジジョンメディシンを推進するための臨床研究開発を担う人材育成コース	船本 智哉
2	第118回日本肺癌学会関西支部学術集会	プレジジョンメディシンを推進するための臨床研究開発を担う人材育成コース	満屋 奨
3	日本脳腫瘍学会 第1階脳腫瘍支持療法研究会	プレジジョンメディシンを推進するための臨床研究開発を担う人材育成コース	満屋 奨
4	「〇〇 Oncology Webinar ～胸部腫瘍学と多学際領域との協奏～」	プレジジョンメディシンを推進するための臨床研究開発を担う人材育成コース	満屋 奨
5	第6回日本腫瘍循環器学会学術集会	プレジジョンメディシンを推進するための臨床研究開発を担う人材育成コース	満屋 奨
6	第21回 日本臨床腫瘍学会学術集会	プレジジョンメディシンを推進するための臨床研究開発を担う人材育成コース	満屋 奨
7	第21回 日本臨床腫瘍学会学術集会	プレジジョンメディシンを推進するための臨床研究開発を担う人材育成コース	船本 智哉
8	第38回日本がん看護学会学術集会 2024年2月24日・25日	がんサバイバーの身体的・精神的・社会的ケアや再発予防ケアを担う看護師養成コース	甲斐美奈子

【京都薬科大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏名
	該当なし		

令和6年度 5大学連携学生短期研修プログラム

○研修日時・場所

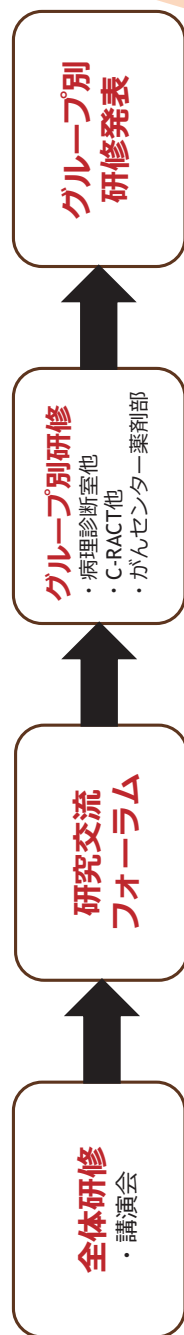
日時：令和6年10月10日（木）13:00 ～ 10月11日（金）14:00（15:30）

会場：＜10月10日＞京都薬科大学 躬行館

＜10月11日＞京都大学医学部附属病院（その他関連施設）

○研修の概要

「学生短期研修プログラム」は、実践教育として5大学が連携して実施する事業で、がんプロ履修生を選抜して2日間の合同研修を行い、連携する学生同士でのがんプロ教育を受ける上での共通意識の向上を図ります。



○研修参加者：17名（第3期がんプロ履修生2名を含む）

コース(第4期)別内訳

- ①課題に対応する人材養成 4名
- ②がん予防の推進を行う人材養成 2名
- ③新たな治療法を開発できる人材の養成 9名

○ 研修内容(1日目)

第1日目 令和6年10月10日(木)	
12:30	受付開始
13:00	開講式 京都薬科大学長 赤路健一
13:10-14:10	《講演1》 難治性がんに対する新しい治療薬の創出をめざして 京都薬科大学臨床腫瘍学分野 准教授 中田晋
14:30-15:30	《講演2》 小児がんを経験して 小児がん経験者 宮嶋 崇
15:45-17:30	研究交流フォーラム (ポスター発表) 次世代のがん、プロフェSSIONナル医療人として、多職種や領域横断的な連携ができる関係性の構築や 気づき・発見の場となることを目指して、履修者の交流を深めることを目的に開催します。



1日目 講演 1



1日目 講演 2



1日目 研究交流フォーラム

○研修内容(2日目)

第2日目 令和6年10月11日(金)				
集合 (場所: 医学部附属病院K-CONNECT2階会議室)				
1班		3班		4班
9:15	グループ別研修	9:30-10:30	9:30-9:50	9:30-10:10
9:30-11:00	病理診断室 バイオバンク	10:00-10:30	放射線治療部	がんセンター外来化学療法・ゲノム外来
11:00-12:00		10:40-11:00	バイオバンク *1班と合流	10:30-11:00 治験病棟
12:00-13:00		まとめ		
13:00-13:45		休憩		
13:45-14:00		各グループごとに研修内容を発表(1グループ当たり 発表:10分、質疑応答:5分)		
		総評・閉講式 京都大学医学研究科 教授 武藤 学		
		R1病室見学		
		14:30-15:00		
		15:00-15:30		
	希望者のみ実施 終了後随時解散			



2日目 グループ別研修



2日目 グループ別発表



2日目 集合写真

5 大学連携 学生短期研修プログラム報告書

大学・専攻		氏名	
所属コース	学際的腫瘍学コース		
研修等の名称	令和6年度「5大学連携 学生短期研修プログラム」		
研修等期間	令和6年10月10日(木) 13:00 ~ 10月11日(金) 14:15 (15:30)		
研修等会場	京都薬科大学 躬行館 京都大学医学部附属病院 Ki-CONNECT2 階会議室 (その他関連施設)		
研修等目的	実践教育として5大学が連携して実施するもので、がんプロ履修生を選抜して2日間の合同研修を行い、連携する学生同士でのがんプロ教育を受ける上での共通意識の向上を図る。		
2日目 病院研修内容	【3班】 C-RACT、放射線治療部、バイオバンクの見学		
<p>●研修の成果と感想</p> <p>初日に京都薬科大学で行われた研修では、がん研究やがん患者のご講演を聴講するだけでなく、各大学の大学院生が自己紹介とともに自身の行っている研究内容を説明するという内容であった。中田先生のご講演では、ご自身の大学院・ポスドクから現在まで行っている研究内容(難治性がんに対する基礎研究)と、研究当時の状況をユーモラスかつ理解しやすく説明していただいた。こういった歩みを経てこられたのか、こういった研究スタイルであるのかという、私の研究人生に大変参考になるような内容であった。宮嶋さんによる小児がん経験のご講演では、思春期ならではの小児がんの精神的・身体的苦痛をお写真とともに知ることができた。私は臨床経験がないため、がん治療中の患者さんの様子を伺うことができなかった。しかし、宮嶋さんのご経験を知ることができ、がん治療が進んでいる一方、がん治療中の患者さんの精神的・身体的苦痛を取り除くことの重要性を感じた。大学院生間の交流会では、自身の研究内容について説明し、ディスカッションをするという内容であった。発表者の研究内容に対して、わからないことをただ聞くだけではなく、自身の知っている研究手法の提案し、その提案の妥当性を発表者と議論することができた。私が発表者のときも、様々なご意見やご提案をいただき、今後の研究に活かすことができるような大変有意義な時間を過ごすことができた。また他大学の大学院生からは研究内容だけではなく、実験に割いている時間や研究室のマネジメント事情を知ることができ、今後の研究室生活で参考になるような話をたくさん伺うことができた。</p> <p>2日目の病院研修内容では、京大病院の指定された施設を班ごとで見学し、見学した内容をまとめて各班が発表するという研修であった。私は、C-RACTと放射線治療部、バイオバンクの3箇所を伺った。全体として、患者さんの治療効果を少しでも上げようとする姿勢が共通点として挙げられた。C-RACTでは患者さんから得た細胞を精製・保存していることが主な役割だと学んだ。そこでは、コンタミネーションを防ぐため、非常に厳格な安全管理が行われていた。放射線治療部では、がん化した組織を徹底的にたたくことを信念とし、放射部位の再現性に注力されていた。バイオバンクでは、マウスからヒトへの架け橋という位置づけがなされており、架け橋となるような研究のため、血液や生検試料、手術試料が保管されている。また血液の場合は保管だけではなく、成分の分離や精製、DNAの抽出までが自動で行われている。このように、病院全体として、基礎研究・臨床研究・治療という項目全体を通して、患者さんの治療向上を目指しているという熱意が感じられた。</p> <p>●「5大学連携 学生短期研修プログラム」全体を通しての成果と感想</p> <p>がんに関わる研究・治療方法について、基礎研究と臨床研究、治療という偏りのない内容を学ぶことができた。経験者・担当者からのご講演、ご説明をただ聞くだけでなく、私と同じような境遇の大学院生とディスカッションし交流することができたため、大変有意義な時間を過ごすことができたと考えている。普段研究生活を送っている中では、他大学の大学院生と交流する機会が非常に限られているため、こういった交流の場がさらに設けられるとよりよい研究につながると感じた。</p>			

5 大学連携 学生短期研修プログラム報告書

大学・専攻	■■■■■	氏名	■■■■■
所属コース	がん患者の QOL 向上および終末期医療を担う人材養成コース		
研修等の名称	令和 6 年度「5 大学連携 学生短期研修プログラム」		
研修等期間	令和 6 年 10 月 10 日（木）13:00 ～ 10 月 11 日（金）14:15（15:30）		
研修等会場	京都薬科大学 躬行館 京都大学医学部附属病院 Ki-CONNECT2 階会議室（その他関連施設）		
研修等目的	実践教育として 5 大学が連携して実施するもので、がんプロ履修生を選抜して 2 日間の合同研修を行い、連携する学生同士でのがんプロ教育を受ける上での共通意識の向上を図る。		
2 日目 病院研修内容	【4 班】 がんセンター薬剤部、がんセンター外来化学療法・ゲノム外来、治験病棟		
<p>●研修の成果と感想</p> <p>がんセンター薬剤部では、副薬剤部長の野村先生に案内していただきました。主に、病院薬剤師による外来がん患者への介入についてです。2024 年度の診療報酬改定により、がん薬物療法体制充実加算が新設されました。京都大学医学部附属病院では、医師の診察前に薬剤師が患者と面談を行い、服薬状況や副作用の有無、日常生活の情報などの聞き取り、処方箋の仮オーダーを行っていました。実際に薬剤師による診察前面談を見学させていただいた際に、薬の知識を用いて会話をし、患者の要望を聞き取りながら処方オーダーを行っていました。薬の剤形や色、形などの情報を交えて会話をすることは、薬剤師だからできることであり患者にも非常に伝わりやすいと思いました。また、できるだけ毎回同じ薬剤師が担当するように工夫をし、患者との信頼関係の構築することでより聞き取りやすい環境作りをされていました。診察前に薬剤師が介入することで、患者および医師、薬剤師に良い影響を与える取り組みであることを学びました。野村先生は、患者も医師より薬剤師のほうが話すハードルが低く話しやすいので、薬剤師が聞き取り医師に情報共有することが重要であるとおっしゃっていました。自分自身も、今後病院薬剤師として働く際に知識が豊富で話しやすい薬剤師を目指したいと思いました。</p> <p>松原先生には、外来化学療法室や腫瘍内科の病棟を案内していただきました。どのように外来でがん化学療法が行われているかを学ぶことが出来ました。京都大学医学部附属病院では、初回の抗がん剤治療やインフュージョンリアクションや骨髄抑制などの重篤な副作用が起こりやすい化学療法の場合は入院で行われますが、圧倒的に外来での治療が多いと伺いました。診察前に薬剤師が介入することについては、薬に関連するミスが減ったとおっしゃっており、薬剤師への希望としては、抗がん剤以外の医薬品についても積極的に提案を行ってほしいとおっしゃっていました。他職種に必要とされる薬剤師になるためには、専門分野だけでなく幅広い知識を有することの必要性を痛感いたしました。</p> <p>最後に、治験病棟を武藤先生に案内していただきました。治験専門の病棟は、他の病棟と違い入院時の持ち物検査や飲食物や採血時間の徹底管理を行っていました。採血時間がずれないように全員が同じ時計をつけていることに非常に驚きました。また、治験では副作用などが未知の薬を投与するため緊急時にすぐに対応できるように ICU と併設されていたり、看護師が GCP を勉強しているなど患者の安全を確保するための取り組みが行われていました。治験がどのように行われているか知らなかったため、今回治験病棟を見学し治験について学ぶことが出来ました。</p> <p>●「5 大学連携 学生短期研修プログラム」全体を通しての成果と感想</p> <p>初日の講演での宮嶋さんがおっしゃった、医療従事者の表情や言葉が患者を救うことがあるという言葉にとっても感銘を受けました。医療従事者としての自覚をしっかりと持ち、患者と接することの大切さを学ぶことが出来ました。真剣に、愛情を持って患者と接し、患者にとって意味のある研究を病院薬剤師になったあとも続けていきたいと改めて思いました。</p> <p>2 日間を通し、普段は交流することがない方々と交流することができ、とても楽しかったです。また、専門は違いますが努力をされて日々研究を頑張っている方々を見て、自分も頑張らなければと改めて思いました。</p> <p>このような貴重な機会を与えてくださり、ありがとうございました。</p>			

5 大学連携 学生短期研修プログラム報告書

大学・専攻	██████████	氏名	██████████
所属コース	がんサバイバーシップケアを担うリハビリテーションスタッフの養成コース		
研修等の名称	令和6年度「5大学連携 学生短期研修プログラム」		
研修等期間	令和6年10月10日(木) 13:00～10月11日(金) 14:15(15:30)		
研修等会場	京都薬科大学 躬行館 京都大学医学部附属病院 Ki-CONNECT2 階会議室(その他関連施設)		
研修等目的	実践教育として5大学が連携して実施するもので、がんプロ履修生を選抜して2日間の合同研修を行い、連携する学生同士でのがんプロ教育を受ける上での共通意識の向上を図る。		
2日目 病院研修内容	【 班】 ※1日目のみ参加		
<p>●研修の成果と感想</p> <p>私は、1日目の研修のみ参加させていただきました。</p> <p>中田先生の講演1では、難治性がんに対する新しい治療薬の創出に向けた取り組みと、その研究に対する姿勢に深く感銘を受けました。がん治療の難しさ(再発や薬物耐性という課題)に直面しながらも、国内外で研究を進められているお話が印象的でした。また、先生が「何年間で何を達成するか」を意識して研究に取り組むという姿勢には、科学者としての強い決意と目標を持つことの大切さが伝わってきました。研究を進める際、3年、5年、10年という時間軸で達成すべき目標を常に考えることは、どの分野の研究者にとっても非常に重要な教訓だと思います。この具体的な時間管理と目標設定の重要性に気づいたことも、非常に有意義な学びとなりました。</p> <p>宮嶋氏の講演2では、小児がんという厳しい現実直面したご自身の体験をお聞きすることができました。高校時代に骨腫瘍を発症し、治療後に再びがんの告知を受け、治療中に二度も死を意識されたというお話は非常に心に残りました。そのような経験をされた中で、不安な日々を過ごされたことは想像に難くありません。私は普段、がん患者の理学療法に携わっていますが、この講演を通して、身体機能の回復だけでなく、精神的なサポートの重要性を改めて感じました。がん患者は、身体的な苦痛に加え、治療や再発への不安、さらには社会復帰への懸念も抱えており、その負担は計り知れません。今後は、身体と心の両面に寄り添った包括的なサポートを心がけていきたいと思えます。</p> <p>講演の後、研究交流フォーラムでがんプロの院生たちとポスター発表を通じてディスカッションを行いました。がん治療のさまざまな分野で学んでいる院生たちと直接意見を交わすことができ、とても貴重な経験となりました。皆さんが情熱を持って研究に取り組んでいる姿に刺激を受け、私自身も研究へのモチベーションが高まり、がん医療の発展に少しでも貢献していきたいと感じました。</p> <p>●「5大学連携 学生短期研修プログラム」全体を通しての成果と感想</p> <p>1日目のみの参加でしたが、大変貴重な時間を過ごすことができました。特に、さまざまな分野で活躍されている教員や院生の皆様と直接お話をさせていただいたことは、非常に刺激的であり、私自身の視野を大きく広げてくれる経験となりました。普段接することのない他分野の研究や、それぞれの専門的な視点からのアプローチを知ることができたことで、自分の研究や仕事に対する新たなインスピレーションを得ることができました。</p> <p>また、皆様の熱意と知識に触れることで、自分自身の研究への取り組み方や、これから目指すべき方向性についても再確認する機会となりました。このような研修に参加できたことは、私の今後の成長にとって大きな財産になると確信しています。改めて、この貴重な機会をいただいたことに心から感謝申し上げます。</p>			

5 大学連携 学生短期研修プログラム報告書

大学・専攻	■■■■■	氏名	■■■■■
所属コース	先端治療学コース		
研修等の名称	令和6年度「5大学連携 学生短期研修プログラム」		
研修等期間	令和6年10月10日(木) 13:00 ~ 10月11日(金) 14:15 (15:30)		
研修等会場	京都薬科大学 躬行館 京都大学医学部附属病院 Ki-CONNECT2 階会議室 (その他関連施設)		
研修等目的	実践教育として5大学が連携して実施するもので、がんプロ履修生を選抜して2日間の合同研修を行い、連携する学生同士でのがんプロ教育を受ける上での共通意識の向上を図る。		
2日目 病院研修内容	【3班】 C-RACT、放射線治療部、バイオバンク		
<p>●研修の成果と感想</p> <p>1日目はがん治療に関する講演と大学院生間の交流を行った。講演では、難治性がんの治療薬創出に向けた研究と、小児がんを経験した方の体験について紹介された。まず、がん治療に関しては、がん幹細胞や幹細胞経路(ウィント、ヘッジホック、ノッチ経路)が焦点となった。Lgr5やGGCTのノックダウンによる抗がん効果や、低酸素環境下での治療標的の可能性が議論され、トランスポゾンシステムを活用した新しい治療法の可能性にも触れられた。基礎研究には明るくなく仔細な研究方針について聞くことは稀である上に、質疑を経てさらに講演内容について理解を深められたことは貴重な経験であった。次に、小児がん経験者からの発表では、治療中の苦労や患者への寄り添い、治療薬の発展の必要性が強調された。2種の講演を通じて、がんに関する最先端の研究が新たな治療法を切り開く可能性を感じると同時に、患者支援や治療後の生活改善に向けた取り組みの重要性を再認識した。他大学の大学院生との研究フォーラムでは、和やかな雰囲気の中で研究の概要説明のみならず熱意ある討論が繰り広げられ、自身の今後の展望に変化をもたらすものであった。私は同じ分野の学生と議論を繰り返すことが多く視野が狭くなりがちだという問題があったが、本フォーラムへ参加し、研究の一般化に向けたブラッシュアップへのモチベーションが高まった。</p> <p>2日目は京大病院内の3つの施設を見学し、それぞれが最先端医療において果たす重要な役割を学んだ。学部生時代には触れることがなかった分野であり、非常に有意義であった。C-RACTでは、CAR-T療法やiPS細胞を用いた細胞治療のプロセスがどのように管理され、無菌環境や全自動システムによってその品質が維持されているかを確認できた。再生医療が持つ可能性と、その背後にある技術的な精密さの重要性を改めて実感した。放射線治療部では、がん治療における放射線の高度な応用が行われており、AIを活用したリアルタイムフィードバックによる精度の高い治療計画が印象的であった。安全性や再現性が強調される治療現場の実際を目にし、技術革新がもたらす効果を深く理解した。さらに、バイオバンクでは、生物学的サンプルの厳格な管理と、データベースとの連携が新薬開発や臨床研究に不可欠であることを再確認した。これらの施設見学を通じ、技術の進歩が医療現場にいか浸透し、患者に最適な治療を提供するために多くのプロセスが連携していることを学び、私自身の研究にも応用できる視点を得た。</p> <p>●「5大学連携 学生短期研修プログラム」全体を通しての成果と感想</p> <p>今回の5大学連携 学生短期研修プログラムは、薬学部時代に経験した内容とは一線を画す密度の高いものであった。施設見学を通じて、薬剤師のみならず他職種が関与する最先端のがん治療の現場を詳細に理解する機会を得た。特に、がん治療における多職種連携の重要性や、各職種がどのように協力しながら治療に当たっているかについて、実務的な知識を深められたことは大きな成果である。さらに、放射線治療やがんゲノム医療といった最先端技術に関する知識も深まった。特に個別化医療の意義についての理解が進み、患者ごとの最適な治療法を選択する重要性を再認識した。これにより、今後の臨床現場での実践に向けた基盤が形成された。将来、病院薬剤師として研究に携わる上で、これらの知見は重要な基盤となると確信した。また、他大学院生との交流も大きな収穫であった。従来、大学院生同士のつながりは希薄であったが、今回の研修で得られた人脈は、自身の研究のモチベーション維持や発展に寄与するものである。他の研究者を参考に、自身の研究計画の再考が促され、新たな視点での研究推進が期待される。本研修を通じて将来の研究および臨床実践に必要な知識と人脈を強化できたことは、大きな成果であるといえる。</p>			

5 大学連携 学生短期研修プログラム報告書

大学・専攻		氏名	
所属コース	プレジジョンメディシンを推進するための臨床研究開発を担う人材育成コース		
研修等の名称	令和6年度「5大学連携 学生短期研修プログラム」		
研修等期間	令和6年10月10日(木) 13:00 ~ 10月11日(金) 14:15 (15:30)		
研修等会場	京都薬科大学 躬行館 京都大学医学部附属病院 Ki-CONNECT2 階会議室 (その他関連施設)		
研修等目的	実践教育として5大学が連携して実施するもので、がんプロ履修生を選抜して2日間の合同研修を行い、連携する学生同士でのがんプロ教育を受ける上での共通意識の向上を図る。		
2日目 病院研修内容	なし		
<p>●研修の成果と感想</p> <p>本研修を通して、他大学多職種 of 研究者とつながり、活発な意見交換をする貴重な機会を得ることができました。これまで、当院では他職種や他大学とのつながりがあまり深くなく、同じがんプロフェッショナル養成プログラムに所属している院生同士の交流も限られていました。そのため、今回の研修に参加したことで、異なる背景を持つ研究者とのつながりを築けたことは、非常に大きな成果であり、今後の研究活動において重要な資産になると感じています。</p> <p>この研修では、特に異なる専門分野の先生方との知見の共有が大変有意義でした。普段の臨床や研究の場では接することの少ない薬剤師や作業療法士の方々との意見交換を通じて、自分の研究テーマに対して新しい視点を得ることができました。これにより、従来の研究アプローチを再考し、より広い視野で問題を捉えることの重要性を再認識しました。</p> <p>また、具体的には、私が現在 iPS 心筋細胞を用いた抗癌剤の副作用研究を行っている中で、iPS 細胞を使った神経系の研究を進めている他大学の先生方と深く交流する機会がありました。その先生方とは、iPS 細胞作製における技術的な苦勞を共有することができ、今後、私が神経細胞を用いた研究に着手する際には協力していただけるという心強いお言葉もいただきました。このようなつながりが、今後の研究においてさらなる発展の可能性を生むものと期待しています。</p> <p>さらに、この研修は単に知見を得る場であるだけでなく、今後の共同研究のきっかけになる可能性を秘めていると感じています。特に、がん治療や新しい治療法の開発において、異なる分野の研究者とのコラボレーションが鍵を握ることを実感しました。こうした多職種・多大学のネットワークを活かして、今後も積極的に連携し、より多角的な研究を進めていきたいと考えています。</p> <p>このように、今回の研修を通じて得られた経験と人脈は、私の今後の研究生活において大きな財産となると考えます。得られたつながりを大切に、今後の研究活動に活かしていくとともに、さらに自身の知識とスキルを深めていく所存です。</p> <p>●「5大学連携 学生短期研修プログラム」全体を通しての成果と感想 上記</p>			

5 大学連携 学生短期研修プログラム報告書

大学・専攻		氏名	
所属コース	近未来の医薬品・治療法の開発を担う人材育成コース		
研修等の名称	令和6年度「5大学連携 学生短期研修プログラム」		
研修等期間	令和6年10月10日(木) 13:00～10月11日(金) 14:15(15:30)		
研修等会場	京都薬科大学 躬行館 京都大学医学部附属病院 Ki-CONNECT2 階会議室 (その他関連施設)		
研修等目的	実践教育として5大学が連携して実施するもので、がんプロ履修生を選抜して2日間の合同研修を行い、連携する学生同士でのがんプロ教育を受ける上での共通意識の向上を図る。		
2日目 病院研修内容	【1班】		
<p>●研修の成果と感想</p> <p>10月10日(1日目)</p> <p>研修内容：</p> <p>1. 中田晋先生、宮嶋さんによる講演</p> <p>中田先生が実際に行ってきた研究内容や、新たに得られた課題に対して何をどのように研究していくかについての考え方について学んだ。そのなかで、これまでの研究で得られた結果をもとにいかにか課題を見つけ出し、難治性のがんなどの新規医療薬を創生するかが興味深かった。宮嶋さんの講演では、実際に小児がんを経験してその時の心境や、その際の薬剤師とのかかわりについて伺った。約30年で薬剤師の患者へのかかわり方が大きく変わっていることを本人の実感として教えていただき、また、実際にどのように薬剤師が患者に関わっていくべきなのかを実際に経験した目線から教えていただいた。</p> <p>2. ポスター発表</p> <p>他大学の大学院生とポスターを用いてディスカッションを行った。今回参加された学生は、臨床や薬理等のドライな研究を行っている人が多く、普段の学会に参加するときと異なり、自身の専門分野外の発表を多く聞くことができた。</p> <p>10月11日(2日目)</p> <p>研修内容；病理診断室の見学</p> <p>病理診断室見学では、病理診断に用いるサンプル作成(Dry)から画像診断(Wet)な現場まで見学した。患者からとってきた有限なサンプルを用いて的確に病理医の診断を裏付けるために、サンプルやそのサンプルを採取した位置などにより、それぞれ細かく処理を行っていることを学んだ。</p> <p>●「5大学連携 学生短期研修プログラム」全体を通しての成果と感想</p> <p>普段自身が行っている研究テーマは病気に直接かかわるものではないため、自身の研究テーマとは全く異なる臨床系の分野との交流により、薬剤師のがん治療に関わる様々な研究分野について知ることができた。今回された大学院生全員が最終的にはがんの治療・診断を可能にすることを目指しており、同様のモチベーションをもって研究を行っている方々と交流ができて非常に貴重な経験となった。</p>			

令和6年度 5大学連携海外合同教育セミナー

○研修日時・場所

日時：令和7年2月3日（月）10:30 ～ 2月4日（火）12:10
場所：ソウル大学病院（SNUH）

○研修の概要

国際交流・人材交流プログラムの一つとして実施し、がんプロ履修生自身が海外でのがん研究における最先端医療教育研究機関等での研究者を前にして研究成果の発表等を行い、その研究の方向性への指導を受け、意見交換する機会を提供します。

○研修参加者：学生8名 引率者5名

テーマ別内訳

- ①がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成 2名
- ②がん予防の推進を行う人材養成 2名
- ③新たな治療法を開発できる人材の養成 4名



○研修内容 (1日目)

— Day 1 (2025.2.3)	
Time	Program
10:00~10:40	Welcome & Introduction
	Introduction Video of Cancer Hospital
10:40~10:50	Hospital Tour I : Cancer Hospital
	Oncology Day-Care Center
	Injection - Treatments
	Cancer Imaging Center
	Cancer Edu-Info Center
	Cancer Clinical Trials Center
11:30~13:30	Lunch and Break
13:40~14:40	Hospital Tour II
	Medical Museum
	Daehan Outpatient Center
15:00~17:00	Seminar

○研修内容 (2日目)

— Day 2 (2025.2.4)					
Gathering Before Group Tours					
10:00	Breast cancer center	Social Work & Rehabilitation Medicine Department	Clinical Pharmacology & Pharmacy Department	Radiation Oncology Department	
Group Tours 10:00~12:00	10:00~11:00	Medical Oncology Center	10:05~11:00	Clinical Trials Center	10:05~
	11:00~12:00	Breast cancer Center	10:40~11:00	Social Work Department	Radiation Oncology Department
			11:00~11:30	Clinical Pharmacology Department	
12:00~12:10	Farewell and Group Photo				



SNU MEDICINE



集合写真



病院見学



セミナー



セミナー



グループ見学



2025.2.3. Kyoto University – SNU CRI Collaboration Symposium

Exploring Opportunities Together

Kyoto University
 SNU Cancer Research Institute (CRI)
 Collaborative Networking



Seock-Ah Im M.D., Ph.D.

Professor, Department of Internal Medicine, Seoul National University Hospital

Seoul National University College of Medicine

Director, Cancer Research Institute, Seoul National University



2025 SNU CRI- Kyoto University Collaboration Symposium

Letter of Appreciation

On behalf of Cancer Research Institute, I would like to extend my warmest gratitude for your excellent presentation and active participation in Kyoto University - SNU CRI Collaboration Symposium held on February 3rd, 2025, Seoul, Korea.

Seock-Ah Im, M.D., Ph.D.
 Director, Seoul National University Cancer Research Institute

5 大学連携 海外合同教育セミナー報告書

大学・専攻	[Redacted]	氏名	[Redacted]
所属コース	学際的腫瘍学コース		
研修等の名称	令和6年度 5 大学連携海外合同教育セミナー		
研修等期間	令和6年2月2日(日)～2月4日(火)		
研修等目的	国際交流・人材育成プログラムの一つとして実施し、がんプロ履修生自身が海外でのがん研究における最先端医療教育研究機関等での研究者を前にして、研究成果の発表等を行い、研究の方向性への指導を受け、意見交換する機会を提供する。		
研修等内容	SNUH の施設見学、シンポジウムでの成果発表・意見交換、各専門分野の見学とディスカッション		
セミナー開催場所	SEOUL NATIONAL UNIVERSITY HOSPITAL 等関係機関		
開催期間	令和6年2月3日(月)～2月4日(火)		
発表の場合題目	Role of TP53 in Alcohol/acetaldehyde-related Esophageal Squamous Cell Carcinoma Development		
<p>●研修等参加による成果</p> <p>1 日目はソウル大学病院の施設を見学した。</p> <p>午前中は主に化学療法室を訪れ、そこでの治療体制について学んだ。化学療法室では、朝 8:00 から夜 8:00 まで注射剤の投与が行われている。特に、造血器腫瘍の治療では、6 時間を要するレジメンが存在するため、2 部制での投与が必要となる。そのため、長時間の開放が求められており、日本の一般的な運用と比べても印象的だった。また、看護師によるがん患者への教育やカウンセリングがフリータイムで提供されているほか、オンラインでの生活指導の配信も行われている。これにより、就労支援だけでなく、治療のサポートも充実しており、患者個々のニーズに応じたケアが確保されていると感じた。日本では、医師が患者のレジメンのオーダーに加え、化学療法室のベッド予約などのスケジュール調整も行っている。一方、ソウル大学病院では、患者とスタッフが直接治療スケジュールを調整し、医師はオーダーのみを担当するタスクシフトが実施されていた。</p> <p>午後は、大韓医院の見学とセミナー（研究発表）を行った。大韓医院の見学では、ソウル大学病院の設立経緯や韓国の医療の発展の歴史について学ぶことができた。また、研究発表では、ソウル大学院生と交流し、自分の研究を発表する機会を得た。さらに、ソウル大学院生のプレゼンを聴講することで、韓国の最先端研究に触れる貴重な経験となった。今回の発表やディスカッションを通じて、今後の研究に活かしていきたいと考えている。</p> <p>2 日目は、臨床試験に関連する施設を見学した。</p> <p>ソウル大学病院では、臨床研究が活発に行われており、Phase 1～3 の各ユニットに分かれた専門スタッフが配置されている。そのため、マンパワーが十分に確保されていると感じた。加えて、リアルワールドデータなどの IT 技術を活用することで、研究の効率化が図られていた。特にソウル大学病院は、Phase 1 試験に注力しており、韓国国内での治験を積極的に実施している。驚いたのは、治験参加者の多くが中国や日本などの外国人であり、国内だけでなく国際的な視点で治験を運用している点だった。そのため、施設のラウンジには韓国語だけでなく、日本語の雑誌も配置されていた。また、臨床試験には多額の研究費が必要となる。参加者への謝礼や機材の準備などに多くの資金が投じられるが、ソウル大学病院では政府のファンディングがあり、国が研究を積極的に支援していることがわかった。</p> <p>今回の研修を通じて、日本と韓国の臨床研究を含めた医療の違いについて学ぶことができた。臨床現場の詳細についてはまだ十分に理解しきれていない部分もあるが、臨床試験の体制において、日本は韓国に比べて遅れを取っていると感じた。Phase 1 試験では、健常者を対象に PK/PD（薬物動態・薬力学）や安全性を評価するが、定時の採血や食事の管理など、厳格なスケジュール管理が求められる。日本では、新薬の Phase 1 試験はあまり活発ではなく、主に再試験や Phase 2 以降の試験が中心となっている。これは、日本国内での創薬が十分に進んでいないことを示している今回の研修を通して、日本以外の大学病院における臨床の実態やその違いを学ぶ貴重な機会となった。今後の研究活動において、この経験を十分に活かしていきたい。</p>			

5 大学連携 海外合同教育セミナー報告書

大学・専攻	XXXXXXXXXX	氏名	XXXXXXXXXX
所属コース	高精度緩和的放射線治療・核医学治療に精通し、各地域で放射線治療を担う人材養成コース		
研修等の名称	令和6年度 5大学連携海外合同教育セミナー		
研修等期間	令和6年2月2日(日)～2月4日(火)		
研修等目的	国際交流・人材育成プログラムの一つとして実施し、がんプロ履修生自身が海外でのがん研究における最先端医療教育研究機関等での研究者を前にして、研究成果の発表等を行い、研究の方向性への指導を受け、意見交換する機会を提供する。		
研修等内容	SNUH の施設見学、シンポジウムでの成果発表・意見交換、各専門分野の見学とディスカッション		
セミナー開催場所	SEOUL NATIONAL UNIVERSITY HOSPITAL 等関係機関		
開催期間	令和6年2月3日(月)～2月4日(火)		
発表の場合題目	Peptidylarginine deiminase 4 is a potential therapeutic target for cancer treatment		
<p>●研修等参加による成果</p> <p>この度は5大学連携海外合同教育セミナーに参加させていただき、大変貴重な機会をいただきました。本プログラムを通じて得た知見や成果を述べます。</p> <p>【病院見学】</p> <p>2月3-4日の午前中は SEOUL NATIONAL UNIVERSITY HOSPITAL (SNUH) を見学させていただき、複数の病院施設を回らせていただきました。ソウル大学病院の皆さまに温かくお迎えいただき、細やかな準備をしてくださり、深く感謝を申し上げます。SNUH は韓国のトップレベルのがん治療施設として、高度な医療技術を提供しています。がんセンターにおいては、臓器別に治療センターが設定されていることに驚きました。また、患者支援・教育センターの資料、コンテンツが充実しており、スタッフがとても優しく色々と患者さんのために考慮しており、患者さんにとっては安心して治療を受けられる病院だと感じました。放射線治療センターの規模や、治療機器の多様性を見て、大変刺激を受けました。</p> <p>【研究施設見学】</p> <p>SNUH はソウル大学医学部の附属病院として、医学生や研修医の教育、医学研究の拠点となっています。2月4日の午前中は放射線生物研究室にも見学させていただきました。最先端の技術で DNA 修復や FLASH (Fast Low-dose Irradiation with Ablative Sparing of Healthy tissues) の生物効果について研究されていることを伺っています。FLASH 放射線治療とは、超高速で高線量の放射線を照射することで、副作用を抑えつつがん細胞を効果的に破壊する新しい放射線治療法です。従来の放射線治療と比べ、健康な組織へのダメージを抑えながら、がん細胞には同等またはそれ以上の治療効果を発揮することが期待されています。現在は研究段階ですが、将来的には副作用の少ないがん治療として広く普及する可能性が高いと期待されています。</p> <p>【研究発表】</p> <p>2月3日の15:00～17:00は SNUCRI-Kyoto University Collaboration Symposium に参加させていただき、計10演題の研究発表がありました。初めて海外で英語での発表を経験いたしました。また、質問に対する英語での答えを必死で考えて、良い訓練になりました。自分の研究に対して、質問やアドバイスを受けまして、新たな課題ができてとても有意義な時間になりました。</p> <p>【多職種コミュニケーション】</p> <p>三日間で、多様な背景を持つ医療従事者や研究者とコミュニケーションを取ることができました。患者中心の医療を実現するためには、医師や看護師だけではなく、多職種の協力の重要性を再認識しました。また、皆さまとソウルの観光、韓国の美味しい食事を食べることができてとても楽しい時間を過ごさせていただきました。</p> <p>この貴重な研修機会をいただき誠にありがとうございました。このプログラムを計画、準備してくださった先生方に深く感謝申し上げます。本研修で得た学びを今後の臨床診療や研究に活かしていきたいと思っております。</p>			

5 大学連携 海外合同教育セミナー報告書

大学・専攻	██████████	氏名	██████████
所属コース	データサイエンスに基づく誰一人取り残さないがん対策を実現するための人材育成コース		
研修等の名称	令和6年度 5 大学連携海外合同教育セミナー		
研修等期間	令和6年2月2日（日）～2月4日（火）		
研修等目的	国際交流・人材育成プログラムの一つとして実施し、がんプロ履修生自身が海外でのがん研究における最先端医療教育研究機関等での研究者を前にして、研究成果の発表等を行い、研究の方向性への指導を受け、意見交換する機会を提供する。		
研修等内容	SNUH の施設見学、シンポジウムでの成果発表・意見交換、各専門分野の見学とディスカッション		
セミナー開催場所	SEOUL NATIONAL UNIVERSITY HOSPITAL 等関係機関		
開催期間	令和6年2月3日（月）～2月4日（火）		
発表の場合題目	The Current Status of the Use of Guidance Fees to Support Cancer Patients Who Continue to Work During Treatment in Japan		
<p>●研修等参加による成果</p> <p>SNUH 内を訪問した中でも特に印象的だったのは、Cancer Edu-Info Center でした。日本のがん相談支援センターに相当するこのセンターは、誰もが通る場所に位置しており、開放感のある空間には多くのオリジナル資料が並び、食事に関する情報提供映像が流れていました。誰もが無料で気軽に訪れることができる点は日本と共通していますが、緩和ケア相談、治療相談、栄養相談といった相談内容ごとに相談室が分かれている点は、日本との大きな違いでした。最も多い相談は食事に関するもので、次いでリハビリに関する相談が多いとのこと。これは、日本とは異なる傾向であり、韓国の乳がん患者の就労支援に関する論文で、就労に重要な要素として疲労感の軽減が挙げられ、その中には睡眠や体力づくりが重要視されていることとつながると感じました。</p> <p>一方で、社会的な相談を受ける医療ソーシャルワーク（MSW）部門は、がん相談支援センターとは異なり、別棟の地下に位置していました。MSW の方からは、韓国全土からの相談が寄せられており、2023 年の相談件数は 5,230 件、支援患者数は 1,806 人であるとの説明を受けました。このような社会的な支援活動は病院の CSR の一環として捉えられているとのこと。日本でも MSW による社会的側面の支援は多くの医療機関で行われていますが、CSR という視点ではなく、医療の一環としてのみ認識していたため、この捉え方は非常に印象に残りました。就労面や経済面への支援についての具体的な内容については、時間の都合で十分に伺うことができませんでしたが、後日メールで情報交換をさせていただく予定です。今後もこのような交流を続けられるご縁をいただけたことは、私の研究や論文執筆に大きなプラスになると考えています。</p> <p>また、SNUH の先生方や学生の皆さんの前で研究発表の機会をいただけたことも、非常に貴重な学びとなりました。質疑応答では、療養・就労両立支援指導料の利用方法や、患者の休職中の制度について韓国の先生方から質問をいただきました。がん患者の社会的な問題は韓国でも共通しており、医療従事者も高い関心を持っていることが分かりました。特に印象的だったのは、韓国には日本の傷病手当金のような、休職中の経済面を支える公的保険制度が存在しない点です。このため、韓国の医師からは「韓国は日本より 20 年遅れている」との声も聞かれました。</p> <p>今回の研修を通じて、世界に目を向けて社会的な課題やそれらの研究に取り組む重要性を再認識しました。韓国の公的制度や患者支援の実態を学ぶ中で、日本には存在する制度に守られている部分がある一方で、就労に向けた肉体的なリハビリやリハビリとの連携が十分ではないことにも気づきました。これにより、多角的に就労支援に取り組む必要性を感じました。今回得た知識と経験を活かし、がん患者の社会的支援に関する研究をさらに進めていきたいと考えています。特に、国際的な視点からの比較研究や、新たな支援モデルの構築に向けた研究を深めていきたいです。</p> <p>初めての海外研修であり、初めて英語での発表の機会でもあったため、参加前は不安も感じていましたが、引率くださった先生方や大学院生の皆さんのサポートのおかげで、本当に充実した時間を過ごすことができました。また、SNUH の各部署の皆様が私たちのために準備を整え、温かく出迎えていただいたことに心より感謝申し上げます。さらに、今回の貴重な機会を企画・運営してくださった京都大学の皆様にも深く感謝いたします。</p>			

5 大学連携 海外合同教育セミナー報告書

大学・専攻		氏名	
所属コース	先端治療学コース		
研修等の名称	令和6年度 5大学連携海外合同教育セミナー		
研修等期間	令和6年2月2日(日)～2月4日(火)		
研修等目的	国際交流・人材育成プログラムの一つとして実施し、がんプロ履修生自身が海外でのがん研究における最先端医療教育研究機関等での研究者を前にして、研究成果の発表等を行い、研究の方向性への指導を受け、意見交換する機会を提供する。		
研修等内容	SNUH の施設見学、シンポジウムでの成果発表・意見交換、各専門分野の見学とディスカッション		
セミナー開催場所	SEOUL NATIONAL UNIVERSITY HOSPITAL 等関係機関		
開催期間	令和6年2月3日(月)～2月4日(火)		
発表の場合題目	Association between Antidepressant Use and New onset of Type 2 Diabetes Among Cancer Patients: A Nested Case-Control Study		
<p>●研修等参加による成果</p> <p>(1) 研究交流とデータベース活用の理解</p> <p>SNUCRI-Kyoto University Collaboration Symposium を通じて、ソウル大学の博士課程の学生と交流し、韓国の医療データベースの充実度について学ぶことができた。特に、韓国はレセプトデータやがんレジストリが発達しており、Cancer Public Library Database や K-CURE service といった大規模データベースが整備されていることを知った。これにより、臨床データと公共データを組み合わせた研究が可能であり、データ活用の幅が広がることがわかった。</p> <p>(2) 研究ディスカッションによる新たな視点の獲得</p> <p>Symposium の中で、韓国と日本におけるがん診断・治療システムの違いが特に印象的であった。韓国の博士課程の学生の研究では、colorectal cancer に着目している研究が多く、ある学生は診断から治療までのタイムラグが死亡リスクに及ぼす影響を検討しており、日本とのデータ収集方法や治療提供のシステムの違いが興味深い議論を生んだ。</p> <p>また、自身の研究についての質疑応答では、ソウル大学の先生方や、転移性がんの区別の有無や、乳がん患者および膵臓がん患者の糖尿病発症リスクへの影響に関する指摘を受けた。これにより、研究デザインの改善の必要性を認識し、今後の研究に反映させるべき重要な視点を得ることができた。</p> <p>(3) 教育・医療環境の視察</p> <p>ソウル大学病院のがん病棟視察では、特に Cancer Patient Education Center のシステムが印象的であった。がん患者一人一人に適した運動プログラムや食事メニューを考案し、タブレットを活用した教育動画やタッチパネルを用いた指導を行う仕組みが整備されていた。教育センター自体も快適な空間であり、患者向けの多様なパンフレットや年齢層別の教育資料が充実している点も興味深かった。さらに、がんサバイバーがボランティアとして参加し、ピアサポートを提供する体制が整っていることも学び、大きな刺激を受けた。</p> <p>(4) 韓国医療の社会的課題の理解</p> <p>研修中、韓国における医療制度の課題についても知る機会を得た。例えば、医師の賃金体系や労働環境に対する不満の高まりから、2024年2月に大規模なストライキが発生し、その影響が今でも続いていることを知った。また、地方の病院の方が雇用の安定性が高いため、多くの医師が地方へ流れる傾向があることや、本当に患者が必要とする診療科では医師不足が深刻化する中、美容整形分野へ医師が流れる傾向があることも韓国ならではの社会的課題であると感じた。</p> <p>(5) 医療施設の工夫と臨床試験の活発化</p> <p>ソウル大学病院は、病院のプロモーションの仕方が効果的であった。特に、地下施設であっても採光性を重視し、広い窓を設けることで開放的な空間を演出し、大型 LED パネルを活用して海中をイメージさせる映像を流すなど、患者の快適性を高める取り組みがなされていた。</p> <p>また、最終日の Clinical Pharmacology & Pharmacy Department の視察では、韓国のがん領域における Phase I 臨床試験の多さに驚いた。例えば、2012年から2023年の間に21,455人の患者が Phase I 試験に参加し、年間100件以上</p>			

の Phase I プロジェクトが進行している点は驚異的であった。さらに、日本人や中国人だけでなく、韓国国内に多く滞在するロシア人を含む **Caucasian population** も治験に組み込んでいる点は、韓国の医療の特異的な特徴であると感じた。

(6) 国際的な医療環境の整備

最後に、ソウル大学病院がサウジアラビアと提携契約を結び、アラブ諸国のムスリム信仰者向けに礼拝堂を完備していることも印象的であった。また、治験病棟では、前述のロシア人治験参加者用にロシア語で書かれた説明が多く見られたことも興味深かった。

さらに、コロナ禍を受け、エレベーターのボタンを直接押さずに操作できるシステムが導入されるなど、感染対策の工夫も見られた。

まとめ

今回の海外合同教育セミナーを通じて、韓国のがん研究および医療体制について深く学ぶことができた。また、研究発表とディスカッションを通じて、研究の方向性に関する貴重な指導を受け、新たな視点を得ることができた。韓国のデータベースの活用方法や、がん患者支援の取り組み、医療制度の課題など、多方面から学びを得ることができたことは、今後の研究および国際共同研究の推進に向けて大きな収穫となった。今後も、この経験を活かし、国際的な視野を持った研究活動に取り組んでいきたい。

5 大学連携 海外合同教育セミナー報告書

大学・専攻	██████████	氏名	██████████
所属コース	近未来の医薬品・治療法の開発を担う人材養成コース		
研修等の名称	令和6年度 5 大学連携海外合同教育セミナー		
研修等期間	令和6年2月2日（日）～2月4日（火）		
研修等目的	国際交流・人材育成プログラムの一つとして実施し、がんプロ履修生自身が海外でのがん研究における最先端医療教育研究機関等での研究者を前にして、研究成果の発表等を行い、研究の方向性への指導を受け、意見交換する機会を提供する。		
研修等内容	SNUH の施設見学、シンポジウムでの成果発表・意見交換、各専門分野の見学とディスカッション		
セミナー開催場所	SEOUL NATIONAL UNIVERSITY HOSPITAL 等関係機関		
開催期間	令和6年2月3日（月）～2月4日（火）		
発表の場合題目	Design and synthesis of monobody variants with low immunogenicity		
<p>●研修等参加による成果</p> <p>○2月3日</p> <p>・SNUH の施設見学</p> <p>SNUH がんセンターは、韓国を代表するがん専門医療機関の一つであり、最新の診療技術と研究が融合した環境を提供している。特に、がんの診断・治療・予防に関する多分野の専門家が連携し、個別化医療を推進している点が特徴である。さらに、臨床試験が盛んに行われており、新規治療法の開発が積極的に進められている。</p> <p>がん患者へのケアが非常に充実しており、心理的サポートのためのカウンセリング体制が整っていた。専門の心理カウンセラーや医療ソーシャルワーカーが患者とその家族を支える仕組みがあり、治療の身体的負担だけでなく、精神的なケアの重要性が強く認識されていた。また、がんに対する教育も盛んであり、がんについて幼児向けの絵本や、高校生に向けたパンフレットなど、年齢に合わせた資料があった。</p> <p>・シンポジウムでの成果発表・意見交換</p> <p>本研修では、がんをテーマにしたシンポジウムにも参加し、成果発表と意見交換を行った。特に、がん治療に関する統計学的なアプローチや疫学的研究に関する発表が多く、普段私が参加している学会とは異なる視点からがん研究を捉える機会となった。自身の発表では、これまで学会で受ける質問とは異なり、in vivo 実験に関する技術的な質問ではなく、実際に人体に適用した際の影響や応用可能性に関する質問が寄せられた。このことから、基礎研究と臨床応用の橋渡しを意識した研究の重要性を再認識した。また、がん患者のお金の負担などに対する研究発表もあり、がんを取り巻く研究内容の広さにも気づかされた。本研修はすべて英語で実施され、ディスカッションも英語で行われた。そのため、自身の研究内容を的確に伝えるための英語力が求められ、医学・研究分野における語学力の必要性を改めて実感した。</p> <p>・各専門分野の見学とディスカッション</p> <p>研修の一環として、SNUH の治験病棟の見学も行った。特に印象的だったのは、年間に実施される治験の数が非常に多く、第1相試験の数が特に多い点である。また、韓国人だけではなく、多人種の被験者が多かったことも印象的であった。これは、新しい治療法の開発が活発に行われていることを示しており、韓国におけるがん治療の進展の速さを実感した。また、治験施設の充実度も非常に高く、専用の治験ユニットやデータ管理システムが整備されていた。ディスカッションでは、がん治療の初期段階の臨床試験における課題や、韓国と日本の臨床試験体制の違いについて議論する機会を得た。このような比較を通じて、日本における臨床試験の課題や改善点についても考えさせられた。</p>			

5大学連携医療フォーラム

《ハイブリッド形式》

日時: 2025年1月10日(金) 14:00~16:40

場所: 芝蘭会館 稲盛ホール(京都大学医学部構内)

総合司会 三重大学大学院 医学系研究科 先進がん治療学講座先進がん治療学分野・教授 野本 由人

開会の挨拶 三重大学大学院 医学系研究科長 平山 雅浩 14:00~14:05

第一部 各大学の取り組みと成果報告 14:05~15:05

司会: 三重大学大学院 医学系研究科 先進がん治療学講座先進がん治療学分野・教授 野本 由人

「難治性がん性疼痛に対応できるペインクリニックになるために」 大阪医科薬科大学大学院 医学研究科 医学専攻博士課程 愛甲 一樹

「乳がんの新たなバイオマーカーおよび標的治療薬としてのURST4の同定」
(Identification of URST4 as a new biomarker and target therapy for breast cancer) 滋賀医科大学大学院 医学系研究科 医学専攻博士課程 Nguyen Thi Hoa

「がん看護研究者養成コースにおける学びと研究について」 三重大学大学院 医学系研究科 看護学専攻博士前期課程 岸 鷹平

「京都薬科大学における取り組みと成果報告」 京都薬科大学 創薬科学系薬品化学分野・教授 大石 真也

「京都大学における取組の状況」 京都大学大学院 医学研究科 放射線腫瘍学・画像応用治療学・教授 溝脇 尚志

第二部 5大学連携薬剤師養成インテンシブコースの初期経験と今後の展望 15:05~15:25

司会: 三重大学大学院 医学系研究科 臨床医学系講座臨床薬剤学分野・教授 岩本 卓也

京都大学医学部附属病院薬剤部・講師 平 大樹

《休憩》

第三部 《特別講演》 Oncocardiology 循環器病理から見たがん治療の課題 15:35~16:35

司会: 三重大学大学院 医学系研究科 先進がん治療学講座先進がん治療学分野・教授 野本 由人

三重大学大学院 医学系研究科 基礎医学系講座修復再生病理学分野・教授 今中 恭子

閉会の挨拶 京都大学大学院 医学研究科 腫瘍内科学分野・教授 武藤 学 16:35~16:40

がん医療の現場で
顕在化している課題に
対応する人材の養成

がん予防の
推進を行う
人材の養成

新たな治療法を
開発できる
人材の養成



三重大学



大阪医科薬科大学



京都大学



滋賀医科大学



京都薬科大学

【問い合わせ先】 三重大学医学・病院管理部学務課

HP : <http://ganpro.med.kyoto-u.ac.jp/>

Email : g-daigakuin@med.mie-u.ac.jp

申込受付(Googleフォーム) 申込締切日: 令和7年1月6日(月)

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSepZsatin2dkecXTtAl92smFkKk2eClzGmgE4DwELUKVUMWnQ/viewform>



令和5年度 がんプロキックオフイベント

5大学連携医療フォーラム

テーマ

高度化・多様化するがん医療を担う人材育成

日時：令和6年1月28日(日) 13:30～15:30

場所：京都大学 芝蘭会館 稲盛ホール **ハイブリッド開催**
Zoom利用によるWeb配信

総合司会 京都大学大学院 医学研究科 放射線腫瘍学 画像応用治療学 教授 溝脇 尚志

1. 開会の挨拶

京都大学 医学研究科長 伊佐 正

2. 事業推進責任者挨拶

京都大学大学院 医学研究科 腫瘍薬物治療学 教授 武藤 学

3. 祝辞

全国がんプロ協議会理事長 九州大学 医学研究院 教授 馬場 英司

4. 連携校より事業の紹介

京都大学大学院 医学研究科 放射線腫瘍学 画像応用治療学 教授 溝脇 尚志
三重大学大学院 医学系研究科 先進がん治療学講座 先進がん治療学分野 教授 野本 由人
滋賀医科大学 臨床腫瘍学講座 教授 醍醐弥太郎
大阪医科薬科大学 医学研究科 腫瘍内科学 教授 藤阪 保仁
京都薬科大学 臨床薬剤疫学分野 教授 村木 優一

5. 講演

司会 京都大学大学院 医学研究科 腫瘍薬物治療学 教授 武藤 学

講演者 全国がんプロ協議会 顧問 地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター 総長 松浦 成昭

6. パネルディスカッション

「5大学連携事業の発展
～5大学連携インテンシブコースに期待するもの～」

モデレーター

京都大学大学院 医学研究科 腫瘍薬物治療学 教授 武藤 学
京都大学大学院 医学研究科 放射線腫瘍学 画像応用治療学 教授 溝脇 尚志

パネリスト

京都大学医学部附属病院 薬剤部 教授 寺田 智祐
三重大学大学院 医学系研究科 先進がん治療学講座 先進がん治療学分野 教授 野本 由人
滋賀医科大学 薬物治療学講座 教授 森田 真也
大阪医科薬科大学 薬学研究科 臨床薬学教育研究センター 教授 矢野 良一
京都薬科大学 臨床薬剤疫学分野 教授 村木 優一

7. 閉会の挨拶

京都大学大学院 医学研究科 放射線腫瘍学 画像応用治療学 教授 溝脇 尚志

申込受付 (Googleフォーム)

<https://forms.gle/Nr26YbpaRQJLPsqc7>



がん医療の現場で
顕在化している課題に
対応する人材の養成

がん予防の
推進を行う
人材の養成

新たな治療法を
開発できる
人材の養成



三重大学



大阪医科薬科大学



京都大学



滋賀医科大学



京都薬科大学

問い合わせ先
京都大学がんプロ事務局

HP : <http://ganpro.med.kyoto-u.ac.jp/>
E-mail : 060ganpro@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

評価結果表（取りまとめ）

1. 各項目評価

※ 採点は、A:優、B:良、C:可、D:やや不十分、E:不可の5段階評価

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	評価1	評価2	評価3	評価4	評価5	評価6
【教育プログラムコース】								
	1	各コースの受入目標人数に対する入学者数、充足率を満たすための取組み	B	A	A	A	A	A
	2	がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取組みがなされているか	A	A	A	A	A	A
	3	コース履修者の満足度を満たすための取組みがなされているか	A	A	A	A	A	A
	4	患者及び市民の視点を入れた教育実践	C	A	A	B	A	A
	5	がんにて特化した講座の活動状況	B	A	B	A	B	A
	6	教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組み状況、開催数と参加者数	B	A	A	A	A	A
	7	医療チーム（放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等）の整備数、新たな整備数	C	A	B	A	A	A
	8	多職種が共同で参加できるカンサーボード等の整備数	A	A	B	A	A	A
	9	医療チーム、カンサーボードの質の向上のための取組実績	B	A	A	A	A	A
	10	コース履修者の医療チーム・カンサーボードの開催数、期間等	C	A	A	A	A	A
	11	院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績	B	A	A	A	A	A
	12	コース履修者が関与したプロトコル（臨床研究実施計画書等）作成件数	A	B	A	A	A	B
	13	コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数	B	B	A	B	A	B
	14	コース履修者の国内学会、和文誌への研究論文発表数	A	A	A	A	A	A
	15	コース履修者の国際学会等への参加者数	B	A	B	B	B	B
	16	コース履修者が国内学会等への参加者数	A	A	A	A	A	A
【シンポジウムやセミナー等の実施】								
	17	地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組件数、参加者数	B	A	A	A	A	A
	18	社会への情報発信の取組実績（一般向け講演会の開催回数・参加者数）	B	A	A	A	A	A
	19	インテンシブ事業を活用した地域医療貢献の推進状況	A	A	A	A	A	A
【がん医療のグローバル展開を見据えた海外の関係機関との連携】								
	20	コース履修者の海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み	C	A	A	A	B	A
	21	国際交流プログラムの実施数	B	A	A	B	A	A
	22	海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数	C	A	B	B	A	A
【がん医療人材養成拠点間の枠組みを越えた協力体制の構築】								
	23	がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数	A	A	A	A	A	A
	24	多職種連携教育の実施件数・参加者数、多職種連携教育推進の取組み状況	A	A	A	A	A	A
	25	がん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会等の実施状況	B	A	B	A	A	A
	26	各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進	B	A	A	A	B	A
【事業の運営体制（実施、評価、連携）】								
	27	連携5大学での事業責任体制、各大学の取組み事業の実施体制	A	A	B	A	B	A
	28	外部委員による外部評価を実施し、PDCAサイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを行う体制になっているか	C	A	B	A	A	A
	29	連携5大学による「合同フォーラム」の開催状況	B	B	A	A	A	A
	30	連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数	B	A	A	A	A	A
	31	連携5大学 コース履修者の e-learning 受講登録率	C	A	C	B	B	B
	32	新たな e-learning 講義科目の提供の取組みについて	B	A	A	A	A	A
	33	主幹大学での事業支援事務組織体制	C	A	B	A	A	A
	34	がん遺伝子パネル検査実施数	B	A	A	A	A	A
	35	バイオバンクの保存試料数（がん関係）	A	A	A	A	A	A

※ 採点は、A:優、B:良、C:可、D:やや不十分、E:不可の5段階評価

区分	項目番号	達成目標(評価項目)	評価1	評価2	評価3	評価4	評価5	評価6
【事業の普及】								
	36	本事業のホームページを開設し、積極的な情報公開を行う体制となっているか	B	A	A	A	B	A
	37	県内でのがん対策の企画、立案への貢献の取組みについて	B	A	B	A	A	A
	38	ITを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築の取組み	C	A	B	A	B	A
	39	テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上への取組み	C	A	B	A	A	A
	40	がん医療に関係する企業等との共催・連携推進の取組み	B	A	B	A	A	A
	41	がん研究基盤の発展構築へ向けた取組み状況	A	A	A	A	A	A
	42	新たながん医療分野の開拓推進へ向けた取組み状況	B	A	A	A	A	A
	43	コース修了者の進路や活動状況(地域定着状況)	C	A	C	A	A	A

2. 講評

講評 (評価1)
<p>全般に質の高い人材育成プログラムが計画され運用されているとおもわれ、計画的に成果があげられていると思います。5大学連携の研修プログラムにおいては多角的包括的な取り組みで独自性が高く成果を上げていると評価いたします。また研究の発展や医療分野構築に向けた取り組みに積極的に取り組んでおり事業計画などが検討され体制も整備されていることを評価します。やや見直しが必要と思われた項目を別途指摘させていただきます。4 患者視点での研究については今後重要な分野と思われ研修者に向け更に独自の取り組みなど提案があるとよいとおもいます。7 まだ医療チーム整備の実績数報告が十分でないとかんじました 10 研修者のカンサーボードの参加実績について記載がありませんでしたので記録を残されるようご検討ください。20、22 現状ではまだグローバル展開にむけた海外関係機関との連携について課題が残ると見受けました。28 PDCAサイクルによる外部評価については今後運用を進める状況と理解しました。31 e-learningの受講登録率はさらなる取組が必要と思います。33 事業支援事務組織体制については詳細な記載がありませんでしたので今後ご検討ください。38、39 ITやテレビ会議システムを用いた事業の普及活動には検討の余地があるとおもいました。43はこのがんプロにおける実績・成果となるアウトカムですので今後更に具体的な状況の報告がなされ多くの実績を示すことが大変重要と思います。</p>

講評 (評価2)
<p>ほぼすべての評価項目において高い水準の活動が行われている。各大学・研究機関が連携して専門人材の育成を進めており、受講生の充足率や修了率の高さからもその効果がうかがえる。令和6年度には京都大学で正規コース20名、拠点全体でインテンシブコース7名の受け入れを実現するなど目標を超える成果を上げ、多くの履修生が本プログラムを通じて高度な専門知識と技能を習得している。各大学では履修生への教育支援体制が充実しており、実践的な指導が行われている。がん専門医や認定医の資格取得支援も積極的に実施され、令和5～6年度の専門医資格取得者数は40名に達している。</p> <p>新たな評価項目である「がん遺伝子パネル検査実施数」や「バイオバンクの保存試料数」においても先進的な取り組みが進んでおり、本プランの中で蓄積されたデータは、国内外の研究機関とも連携し、より精度の高いがん医療の実現に貢献することが期待される。</p> <p>がん医療を担うリハビリテーションスタッフの育成にも力を入れ、専門作業療法士の養成プログラムを導入、がん患者のQOL向上に寄与する多職種連携が一層強化されている。また、臓器別がんユニットの設置や多職種によるカンサーボードの運営が推進され、チーム医療の質の向上が図られている。特に婦人科腫瘍や緩和ケアに関するカンファレンスが充実しており、医療者間での情報共有が円滑に行われている点が評価できる。医療チームの強化により、放射線治療や化学療法の安全管理、緩和ケアの充実なども実現されており、患者の治療成績向上に寄与している。</p> <p>今後は、これまでの成果をさらに発展させ、より多くの専門人材を育成するとともに、がんゲノム医療や個別化医療の実装を加速させることが求められる。</p>

講評 (評価3)
<p>主幹校の京都大学をはじめ、連携校が協力して、がんプロコースの設置、教育プログラムの充実、チーム医療体制の構築など、多くの項目で優れた事業を展開していると言える。特に大学間連携事業として、「5大学連携医療フォーラム」などを開催し、人材交流や国際交流を図っている点は高く評価される。さらに、履修者の臨床研究実施計画書作成状況や、その成果としての研究論文発表、学会等への参加者の多さは特筆に値する。地域医療機関や民間企業との連携を行っていることも評価される。次年度以降もこれまでの活動を維持しつつ現状を評価し、新たな課題を発見して事業を発展させることを望む。課題としては受講生のe-learning登録率が高くないこと、コース履修者の地域定着状況の把握である。これは、本事業開始後まだ間もないため、当然ともいえるが、次年度以降の課題としていただければと考える。</p>

講 評 (評価 4)

・詳細な外部評価資料をご提示いただきましたので、令和6年度の「高度化・多様化するがん医療を担う人材育成」について、事業の目的にそって、活動をされている様子がよく理解できました。これだけの成果をあげられるには、事業に参画している各大学で熱心に取り組まれているのだらうと拝察いたしました。

・評価項目に挙げられている視点は、ほぼ達成がされていると理解しましたので、大多数をA評価といたしました。ただし、拠点の連携大学を合算すると目標数を達成できているが、大学毎にみえていくと、目標数の未充足(例:コースの人員)や評価項目に〇〇の数とあっても、具体的な数値の記入がある大学と概要の記載のみで数値の記載のない大学もあるため、次年度には改善がなされるとよいと感じました。

・第4期がんプロで取り組むべき施策とされている、1. がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材、2. がん予防の推進を行う人材、3. 新たな治療法を開発できる人材がありますので、例えば3については、貴事業では、新規のプロトコール開発なども相当すると思われるので、この3つの視点での区分も入れて見られてはいかがでしょうか。

講 評 (評価 5)

<全体評価>

本事業は、がん医療の専門人材育成や最先端の研究・臨床応用の推進、多職種連携の強化を目的としており、全体的に高い成果を上げています。特に、受入目標を上回る履修者数の確保(No.1)、専門資格取得の支援(No.2)、国際・国内学会での研究発表数の増加(No.13,14)、キャンサーボードの活用による診療の質向上(No.8,9)、e-learning講義の拡充(No.32)などは、A評価に値します。また、がん遺伝子パネル検査(No.34)やバイオバンクの充実(No.35)など、研究基盤の整備も進んでおり、がん医療の発展に貢献していることが評価できます。

一方、SNSやYouTubeを活用した情報発信(No.36)、ITを活用した地域医療連携の更なる強化(No.38)、海外研修の拡充(No.20)など、改善が求められる点もあります。また、e-learningの受講率が連携4大学で低いこと(No.31)や、一部大学での研修・研究報告が不十分な点(No.26,27)も、今後の課題として挙げられます。

<今後の在り方>

1. 情報発信の強化

- 現在のホームページの充実に加え、SNS(X, Facebook, YouTube)を活用し、より多くの市民や医療関係者に情報を届ける。
- オンデマンド講座や市民向けセミナーの認知度向上を図る。

2. ITを活用した地域医療連携の強化

- 地域完結型医療をさらに推進するため、統一されたIT基盤の構築を進める。
- 患者・医療従事者向けのIT研修を実施し、システムの利用率を向上させる。

3. 海外研修・国際交流の拡充

- 令和6年度の海外合同教育セミナーの成果を踏まえ、今後さらに海外研修機会を増やす。
- 国際学会への参加支援を強化し、履修生の発表機会を増やす。

4. e-learningの受講率向上

- 連携4大学の受講率が低いため、各大学での積極的な案内や受講促進策を実施する。
- 受講のインセンティブ(修了証の発行、単位認定など)を検討する。

5. 研修・研究報告の標準化

- チーム医療研修(No.26)や各大学の事業報告(No.27)を統一フォーマットで整理し、透明性を高める。
- 研修の継続性を確保し、年間計画を明確化する。

本事業は、がん医療の高度化を支える重要な取り組みとして、大きな成果を上げています。今後も、上記の改善点に取り組むことで、より一層の発展が期待されます。

講 評 (評価 6)

がんプロ事業におけるこれまでの実績を基盤とし、5大学の強固な連携のもとに質の高いがん医療人養成事業が行われている。R5・R6年度の入学者数もほぼすべてのコースで目標数に達しており、高く評価できる。e-learningについては、多角的かつタイムリーに新規課題を取り入れ、一層、充実したものとなっている。コース履修生の受講登録率は現時点で十分とは言えないが、受講生からのフィードバックも活用しさらなる推進を期待する。海外の学会・論文発表、参加者数についてはコースによってやや偏りがあり、敢えてB評価としたが、国内の学会発表や研究実施計画数等は着実に増加が見られ、今後のさらなる成果に期待したい。地域連携、地域医療への貢献については、ITを活用したネットワークの構築にも取り組まれており、情報セキュリティ等、困難は点は多々あると思われるが、全国のモデルケースとなるよう一層の充実を図っていただきたい。

次世代のがんプロフェッショナル養成プラン

高度化・多様化するがん医療を担う人材育成

京都大学・三重大学・滋賀医科大学・大阪医科薬科大学・京都薬科大学

京都大学医学研究科 **がんプロフェッショナル養成プラン事務局**

〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町

TEL 075-753-4654

E-mail 060ganpro@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp